

平成元年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西 方 遺 跡

1990

埼玉県熊谷市教育委員会

序 文

熊谷市は埼玉県北部の中核都市であり、歴史的にもゆかりのある土地であります。別府地区は、市域の北西部にあたり、東別府と西別府に分かれており、古代から多くの人々が生活の地としてきたところであります。そして古墳、別府条里遺跡、西別府祭祀遺跡、西別府院寺跡、別府城址、そして西別府館跡などの存在が知られています。祭祀遺跡である西別府祭祀遺跡は、古来から人々にとって水に対する信仰は重要な位置を占めてきたことを物語っています。

本市教育委員会は、株式会社木下工務店から委託をうけて、分譲住宅建設予定地の発掘調査を実施しました。

遺跡は、重要な文化遺産として、後世に残すことが第一に計られるべきですが、工事の性格上やむをえず、記録保存の方策をとることとなりました。

本書は、平成元年度に実施された西方遺跡の発掘調査の成果をまとめて報告するものです。

発掘調査によって得られた資料は、重要な文化遺産として、学術研究、学校や社会教育に資するものであると考えます。こうした、調査・報告を契機として、多くの市民の方々が、埋蔵文化財保護について、より一層のご理解とご協力くださることを願ってやみません。

最後になりましたが、県文化財保護課、株式会社木下工務店、ならびに地元別府地区の方々を初め、多くの方々からご指導・ご協力をいただきましたことに対して、深く感謝の意を表します。

平成2年3月

熊谷市教育委員会

教育長 関根 幸夫

例 言

1. 本書は、埼玉県熊谷市大字西別府字西方1582-1他に所在する西方遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、戸建分譲住宅の建設に伴う事前記録保存のための発掘調査である。
3. 発掘調査期間は、平成元年6月29日～9月25日である。
4. 発掘調査の担当、本書の執筆・編集は、熊谷市教育委員会吉野 健が行った。
5. 発掘調査の組織は次のとおりである。

調査主体者	熊谷市教育委員会教育長	関根幸夫
調査担当者	熊谷市教育委員会社会教育課主事	吉野 健
事務局	〃	〃
	課長	高田普通
	課長補佐	岡田伸洋
	係長	金子正之
	主事	権田宣行
6. 本書中、出土遺物実測図の中心線は、遺物を回転させず実測したもの：実線、180度回転させたもの：一点鎖線というように区別している。
7. 遺構図の中で、土壌はD、ピットはP、溝はM、井戸はW、川原石はS、土器片はT、炭化物はC、古銭はO、遺物の位置図の中で、土器は■、鉄器は▲、骨は□、瓦は△とそれぞれ記号化した。
8. 遺構図と写真図版の遺物の番号は、挿図番号を示す。例えば、1-2は第1図の2の遺物をさす。
9. 遺物の実測図の中で、釉は  と表現した。
10. 遺構図で、炭化物は 、焼土は 、砂は  と表現した。
11. 出土遺物実測図は、縮尺を四分の一に統一した。遺構図については各々異なる。
12. ピット土層断面図の標高は、32.40mに統一した。
13. 出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。
14. 発掘調査及び整理作業の参加者は以下のとおりである。

新井シン、小川信子、草間サキ、小林幸子、小林シズ、五味ノリ子、高橋初江、高橋ハナ子、田島智恵子、富田 圭、中村輝子、根岸ミヨ子、蜂須シゲ、蜂須ユキ、蜂須ろく、日向ヨシ、平川トミ、平川ヨシ、蛭川カヨ子、福田勝子、前林君江、前林やちよ、松田良子、茂木恵美子、森 和子、湯沢 甫、湯沢 幸、吉野せつ子、渡辺克夫、江原和宏（北里大学学生）、小倉やすこ（立正大学学生）、渋谷正義（国学院大学学生）。
15. 本書の作成にあたって、埼玉県騎西町教育委員会・島村範久、島村英之氏に御教授を受けた。記して感謝いたします。

目 次

本 文	I
例 言	II
目 次	III
挿図目次	IV
図版目次	V
表目次	V
第1章 発掘調査に至るまでの経過	I
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 発掘調査の経過	4
第4章 遺跡の概観	4
第5章 遺構と遺物	6
第6章 西方遺跡出土の瓦の胎土重鉍物分析	57

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図	第36図	90～98号土壌、85～92号ピット
第2図	西方遺跡位置図	第37図	92・93・96号土壌出土遺物
第3図	西方遺跡全測図	第38図	109号土壌
第4図	1～7号土壌、15～31・54・55号ピット	第39図	109号土壌出土遺物
第5図	30・31号土壌、32～38号ピット	第40図	107・108・110～120号土壌
第6図	4・30号土壌出土遺物	第41図	107・113・117・118号土壌出土遺物
第7図	22～28・40～42号土壌、48号ピット	第42図	121～129号土壌
第8図	23・28号土壌出土古銭	第43図	122・124・129・141号土壌出土遺物
第9図	19～21・58～62号土壌、53号ピット	第44図	89・131～138号土壌、93～110・117・118・120 ・121号ピット
第10図	21・24・59～62号土壌出土遺物	第45図	139～141号土壌
第11図	16～18号土壌	第46図	139～141号土壌断面図
第12図	8～11号土壌、56～61号ピット	第47図	133・134・138・140号土壌出土遺物
第13図	12～15号土壌、62号ピット	第48図	139号土壌出土古銭
第14図	13～14号土壌断面図	第49図	142～150号土壌、111～116・119号ピット
第15図	12・14・15号土壌出土遺物	第50図	130・147・149号土壌、122・123号ピット
第16図	13・63～67号土壌、71・72号ピット	第51図	147号土壌断面図
第17図	13・64号土壌出土遺物	第52図	137・147号土壌出土遺物
第18図	13号土壌出土古銭	第53図	147号土壌出土遺物
第19図	29・32～39号土壌、32・37・38・124・125号 ピット	第54図	38・39・43・48・49・53～55・102・151号土壌
第20図	36・37号土壌出土遺物	第55図	ピット(1)
第21図	41・44～46号土壌	第56図	ピット(2)
第22図	45号土壌出土古銭(1)	第57図	ピット断面図
第23図	45号土壌出土古銭(2)	第58図	ピット出土遺物
第24図	45号土壌出土古銭(3)	第59図	2号井戸跡
第25図	46～57号土壌、63～70号ピット	第60図	2号井戸跡出土遺物
第26図	52・54・55号土壌出土遺物	第61図	グリッド出土遺物
第27図	52・56号土壌出土古銭	第62図	グリッド出土古銭
第28図	69・70号土壌、73号ピット	第63図	西方遺跡出土遺物
第29図	70号土壌出土遺物	第64図	西方遺跡出土古銭
第30図	67・68・71～75号土壌	第65図	西方遺跡胎土分析試料重鉍物組成
第31図	67・73号土壌出土遺物		
第32図	76～88号土壌、73～81号ピット		
第33図	81・86・87号土壌出土遺物		
第34図	99～101・103～106号土壌、82～84号ピット		
第35図	99・101・103・105号土壌出土遺物		

図 版 目 次

図版 1	西方遺跡航空写真	図版 4	12・14・15・62・67・88・99・101・109・ 147号土壌出土遺物
図版 2 - 1	11～19・60・62・63号土壌	図版 5	88・122・140・147号土壌、103号ピット出土 遺物
2	12号土壌出土遺物	図版 6	45・52・137号、グリッド、西方遺跡出土遺 物
3	15号土壌出土遺物	図版 7	偏光顕微鏡下写真
4	22～29・32～37・40～42・44～46 ・50号土壌		
5	45号土壌出土古銭		
6	23号土壌出土古銭		
7	101号土壌出土遺物		
8	109号土壌出土遺物		
図版 3 - 1	118号土壌出土遺物		
2	113号土壌出土遺物		
3	89・131～136・138～141号土壌		
4	140号土壌出土遺物		
5	140号土壌出土遺物		
6	137・142・145～150号土壌		
7	137号土壌出土遺物		
8	147号土壌出土遺物		

表 目 次

表 1	ピット一覧表(1)
表 2	ピット一覧表(2)
表 3	ピット一覧表(3)
表 4	西方遺跡胎土分析試料表
表 5	西方遺跡胎土分析試料重鉍物組成

第1章 発掘調査に至るまでの経過

昭和63年8月26日、埼玉県文化財保護課より県選定重要遺跡である西別府祭祀遺跡の開発行為が行われそうだという連絡により調査したところ、戸建分譲住宅建設の計画があがっていた。このことに関して、熊谷市開発指導課から株式会社木下工務店に対し試掘調査を要する旨の指導があった。その後、熊谷市教育委員会は、株式会社木下工務店から埋蔵文化財の所在を確認するための試掘調査の依頼を受けた。それを受けて、試掘調査を実施したところ埋蔵文化財が確認され、その旨が株式会社木下工務店へ昭和63年11月9日付63熊教社発第926号で回答がなされた。その結果、熊谷市教育委員会と株式会社木下工務店間で協議がもたれ、平成元年1月28日に埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を締結、これにより熊谷市教育委員会が、委託金をもって調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成元年6月29日から開始された。

第2章 遺跡の位置と環境

西方遺跡は、埼玉県熊谷市大字西別府字西方1582-1他に所在しており、JR高崎線籠原駅の北方約2km、荒川から北へ約6kmの所に位置する。

西方遺跡の所在する西別府地区は、熊谷市の北西部にあたり、櫛引台地の北端部にある。この櫛引台地は、寄居を扇頂に荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地の荒川左岸側の一帯が侵食されてきたものである。この櫛引台地の北方と東方には、妻沼低地が広がり熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地である新荒川扇状地（熊谷扇状地）と、自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、櫛引台地の先端部の標高32mを測る台地上に立地し、更地となっていた。本遺跡の立地する台地の北側は、比高差約3mを測る低地が広がる。台地と低地との境には、湯殿神社裏の湧水堀から旧別府小学校跡地北側へと堀が続き、別府沼となる。

本遺跡の周辺においては、旧石器時代の遺跡は知られていない。縄文時代の遺跡は櫛引台地上に発見されている。三ヶ尻林遺跡では縄文時代前期の集落が検出され、三ヶ尻天王遺跡では中期～後期にかけての集落が発見されている。また、西・東別府地区には、中期の遺物が散見されるが、詳細は不明である。寺東遺跡では中期～後期の埴輪・敷石住居址が検出されている。

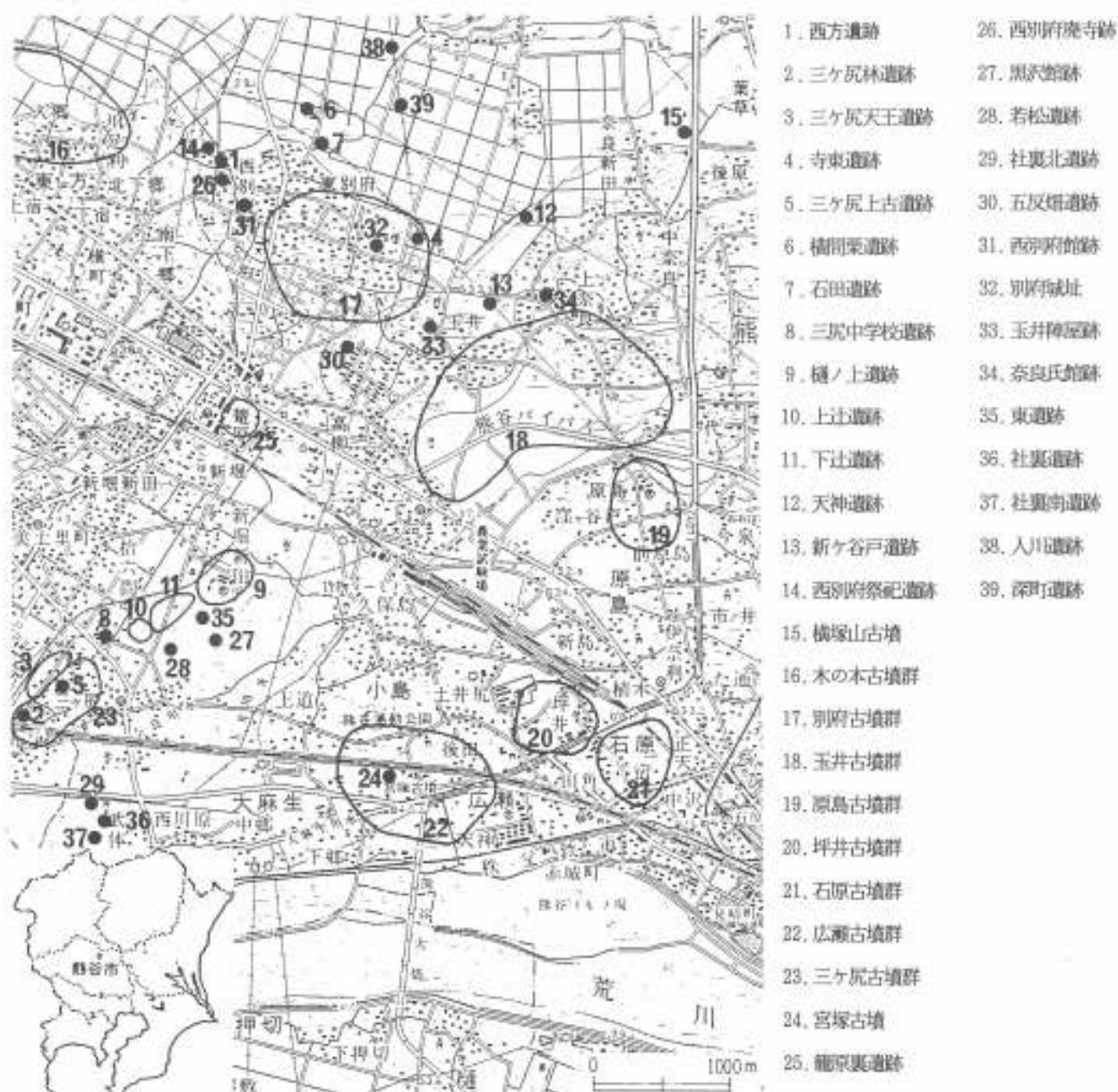
弥生時代の遺跡については、中期に例がみられる。発掘ではなく偶然に発見されたものであり、遺構が明確ではないが須和田期の壺が出土している三ヶ尻上古遺跡、同じく須和田期の再葬墓が13基検出されている横間栗遺跡がある。他に石田遺跡が知られている。

古墳時代になると、古墳は台地・自然堤防など微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく、低地帯の自然堤防上にも営まれるようになる。櫛引台地の東端部付近の三尻地区では、古墳時代後期以降奈良・平安時代へと継続的に集落が営まれたと考えられる遺跡が発見されている。鬼高期の住居址が7軒検出された三ヶ尻天王遺跡、真間～国分期の住居址が16軒検出されている三尻中学校遺跡、鬼高～国分期の住居址が70軒以上検出されている樋ノ上遺跡、同じく鬼高～国分期の住居址が50軒検出された上辻・下辻遺跡がある。天神遺跡からは鬼高期の住居址、新ヶ谷戸遺跡からは真間期の住居址8軒が検出されている。本遺跡のすぐ西側の湯殿神社裏には、奈良時代を中心とした西別府祭祀遺跡がある。神社裏の湧水の部分に集中的に遺物が検出され、土師器の細片多数と滑石製模造品約160点が発見されている。土師器片には古墳時代後期（鬼高期）のものもみられる。滑石製模造品は、馬形・櫛形・勾玉形・有孔円板形・有縁円板形・剣形等が見られ、特に、馬形・櫛形の模造品は県内でも珍しく水神を祀るときに使用されたものとみられている。

一方、古墳をみると、5世紀後半から末の頃には横塚山古墳が見られる。自然堤防上に立地し、墳形は帆立貝式前方後円墳である。6世紀に入ると、多くの自然堤防上に古墳が築造され始める。本遺跡近辺から見ると、深谷市の木の本古墳群、熊谷市では別府古墳群、玉井古墳群、原島古墳群、坪井古墳群、石原古墳群、広瀬古墳群、三ヶ尻古墳群、新ヶ谷戸1号墳が見られる。石原古墳群には、石室の壁を河原石で、天井石を緑泥片岩の板石で構築した古墳が存在した。広瀬古墳群中には、上円下方墳で知られている宮塚古墳がある。三ヶ尻古墳群中には、河原石使用の胴張り型横穴式石室を有する古墳が存在し、新ヶ谷戸1号墳も同様の形態的特徴をもつ石室であった。7世紀後半の古墳としては、龍原裏遺跡の古墳が知られる。河原石使用の胴張り型横穴式石室を有する古墳であるが、特に注目すべきことは、八角形の墳形をもつと考えられる古墳が存在することである。この八角形の古墳は、終末期の古墳の様相を考える上で、重要なものと考えられる。

古代寺院跡としては、本遺跡の南側に西別府廃寺跡が存在する。遺構は未確認であるが、出土した瓦から奈良時代前半と考えられている。本遺跡では、西別府廃寺のものと推定される重弧文軒平瓦が出土している。

中世に入ると、三ヶ尻地区の台地上の三ヶ尻天王遺跡では墓地群が検出され、低地の自然堤防上には、黒沢館跡、



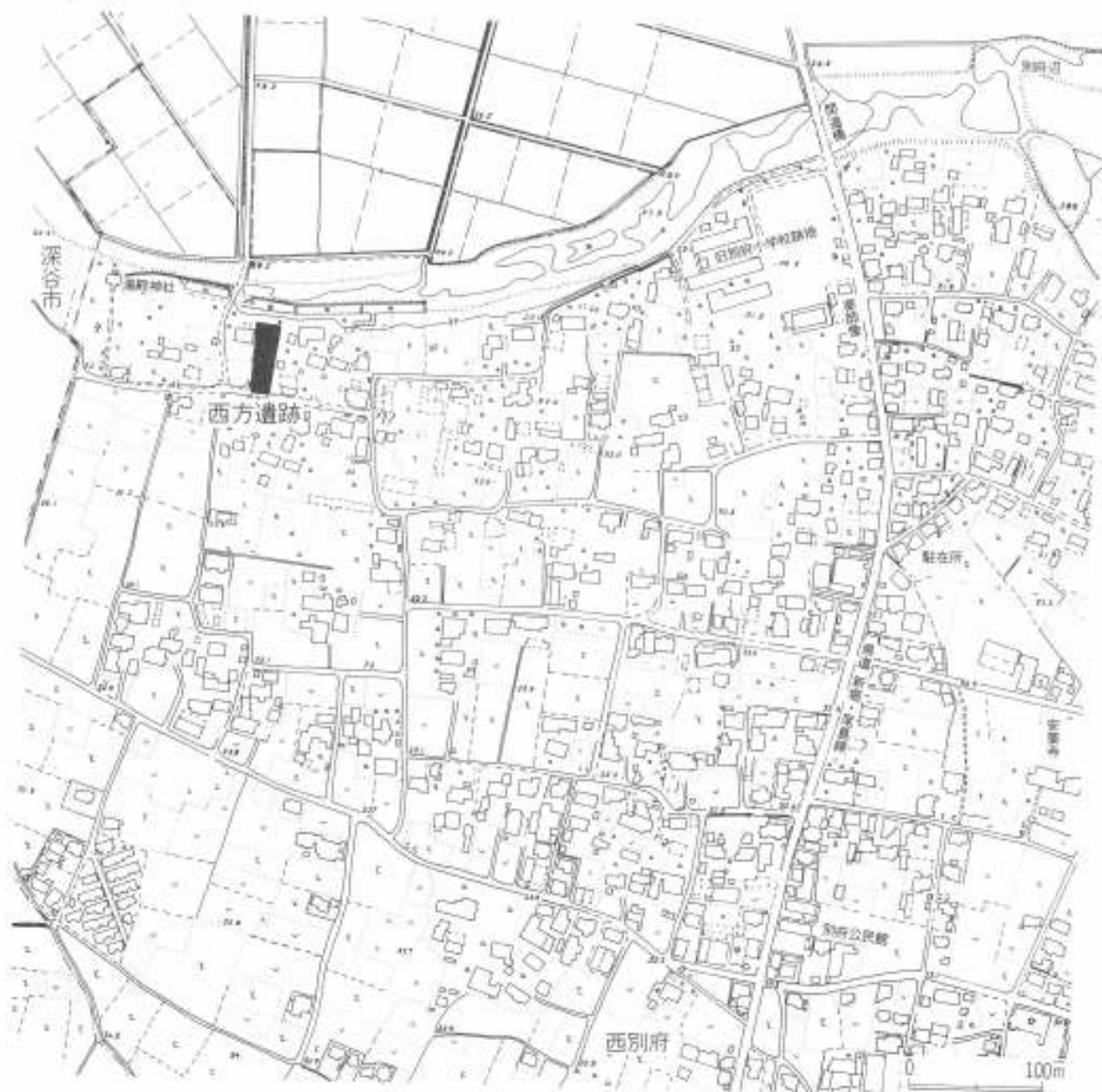
第1図 周辺遺跡分布図

樋ノ上遺跡、若松遺跡が検出されている。黒沢館跡では虎口跡・柱穴跡・土壇・集石遺構・土塁跡等が検出され、板碑・内耳土器・かわらけ等が出土している。樋ノ上遺跡・若松遺跡では、土葬墓・火葬墓・集石遺構・溝跡等が検出され、内耳土器・かわらけ・白磁、青磁、常滑、瀬戸などの陶磁器・板碑・石臼等が出土している。また、社裏北遺跡、五反畑遺跡では中世墓地群が検出されている。社裏北遺跡は、土葬墓が数十基あって2～3基複合しあい、若干の火葬墓を伴うものである。

また、城館跡をみると、西別府には西別府館跡、東別府には別府城址、玉井には玉井陣屋跡、奈良には奈良氏館跡等がみられる。

参考文献

- 小久保 徹『三・尻天王・三・尻林(1)』埼玉県埋蔵文化財調査事業報告第23集 新埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983
 高山清司「三・尻上方遺跡」『埼玉県土器集成』4 埼玉考古学会 1976
 金子正之「横間遺跡(2次)」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和62年度 埼玉県教育委員会 1990
 寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度 埼玉県教育委員会 1982
 金子正之「三尻遺跡群 黒沢館・樋の上遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査報告』第59集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986
 小川良祐他『樋の上遺跡—県立熊谷西高等学校関係埋蔵文化財調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第59集 新埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986



第2図 西方遺跡位置図

金子正之『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』熊谷市教育委員会 1994
 中村倉司『下辻遺跡—熊谷三ヶ尻新堀線開通埋蔵文化財調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第69集 06埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1987
 利根川章彦他『新・谷戸』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第9集 06埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982
 大塚啓雄・小沢國平『新発見の熱河遺跡』『史跡と美術』第338号 1963
 増田逸郎他『横塚山古墳』埼玉県遺跡調査会 1971
 『新編 埼玉県史』資料編2 埼玉県 1982
 『熊谷市史』前編 熊谷市 1983
 『埼玉のかたち』埼玉県民俗調査報告書第4集 埼玉県民俗文化センター 1985
 長岡孝吉他『北武蔵における古瓦の基礎的研究I』『研究紀要』 06埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
 金子正之『三尻遺跡群 若松遺跡・高沢遺跡・東遺跡』熊谷市教育委員会 1986
 金子正之『三尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』熊谷市教育委員会 1989
 『埼玉の城跡』埼玉県教育委員会 1989

第3章 発掘調査の経過

西方遺跡は、戸建分譲住宅の建設予定地にあたり、全面的に削平されることになるので、調査を実施した。4本のトレンチを入れてトレンチ調査を行ない遺跡の範囲を確認した後、建設予定地全体を調査区とし、重機により表土剥ぎを行った。1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行う為、北西隅をA-1として南へ1・2・3…、東へA・B・C…とし、Aラインは、北から南へA-1・A-2・A-3…と呼称した。Bライン以東もAラインと同様に呼称しグリッド設定を行った。

重機による表土剥ぎの後にも、人力によって表土剥ぎを行ないながら遺構確認面まで掘り下げ、遺構確認面の精査を行ない遺構を確認してから、各遺構ごとに調査を実施した。土堀・ピット・井戸跡・溝跡が検出され、遺構ごとに手掘りを行い、遺物は写真撮影・実測をした後、遺物の取り上げを行った。遺構も写真撮影・実測を実施し、最後に遺構の全体写真を撮影し、全測図の実測を行った。

本調査によって、中・近世の土器が数多く、また、古銭・内耳土器・かわらけ・陶磁器・鉄製品・板碑・茶臼・砥石等の遺物が検出され、平成元年9月25日に現場での調査を終了した。

第4章 遺跡の概観

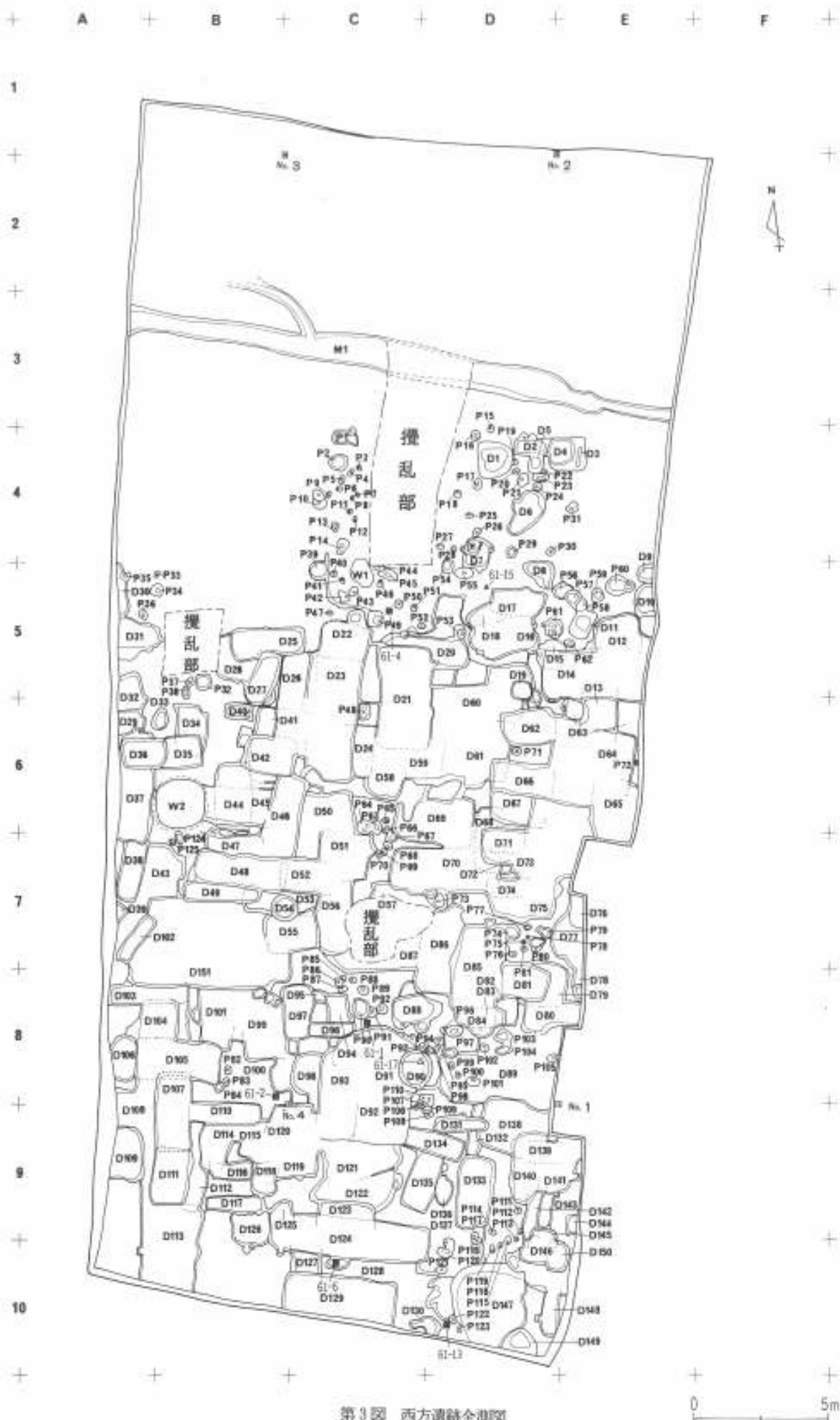
西方遺跡は、熊谷市北西部、櫛引台地の北端に立地する。JR高崎線籠原駅から北へ約2.0km、荒川から北へ約6.0km、利根川から南へ約4.5kmに位置し、標高32～33mを測る。西別府祭祀遺跡の約125m西南西で、西別府廃寺跡のすぐ北にあたる通称北口と呼ばれる箇所である。

今回の調査により、土堀が150基以上、ピットが125個、井戸が2基、溝跡が検出された。土葬墓と考えられる土堀は、幾重にも切り合っており、隅丸方形・楕円形・円形のプランであり、骨片を出土するものもみられた。規模は、明確なものと、不明確で推測にたよるものがあり、正確に把握できないが、1m四方の小規模のものから、5m×1.5m程の大規模なものまで様々であると考えられる。これらの土堀内からは、中・近世の遺物が数多く出土した。古銭・内耳土器・かわらけ・板碑・陶磁器片（瀬戸・美濃・唐津・伊万里等）・鉄釘や刀子等の鉄製品・茶臼・砥石等が検出された。

また、瓦も多数出土した。平瓦が主で、他に軒平瓦、丸瓦も出土した。これらの瓦のうち特筆すべきことは、奈良時代の瓦を含むことである。重弧文軒平瓦が出土しており、本遺跡のすぐ南に位置する西別府廃寺との関係で出土しているのであろう。

他の遺構では、2基の井戸跡のうち1号井戸跡は、径約1mのもので出土遺物はなかった。2号井戸跡は、径約2mで、火鉢・かわらけ・陶磁器片が出土した。いずれの井戸も未完掘である。

基準点の座標は、Na1-X=+21125.00m、Y=-44830.00m、Na2-X=+21160.00m、Y=-44830.00m、Na3-X=+21160.00m、Y=-44840.00m、Na4-X=+21125.00m、Y=-44840.00mである。



第5章 遺構と遺物

1号土壌（第4図）

本遺構は、調査区北東部、D-4グリッド内に検出され、平面形は、正方形に近い形を呈す。規模は、長辺1.54m、短辺1.32mである。遺物は検出されなかった。

2号土壌（第4図）

本遺構は、1号土壌と同じくD-4グリッド内に検出され、1号土壌の東に位置し、5号土壌と切り合っている。平面形は、長辺1.22m、短辺0.54mの長方形を呈す。遺物は検出されなかった。

3号土壌（第4図）

本遺構は、E-4グリッド内に検出され、4号土壌と切り合っている。平面形は、正方形を呈し、長辺1.22m、短辺1.20mである。遺物はかわらけが出土。

4号土壌（第4・6図）

本遺構は、E-4グリッドで検出され3号土壌内に

位置する。平面形は、隅丸の正方形で、1m四方形である。遺物はかわらけが出土した。

6-1 かわらけ。口径10.0cm、底径7.0cm、器高1.8cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は、約 $\frac{1}{2}$ である。

5号土壌（第4図）

本遺構は、2号土壌の南に検出され、2号土壌と切り合っている。平面形は、長方形を呈し、長辺0.80m、短辺0.52mである。遺物は検出されなかった。

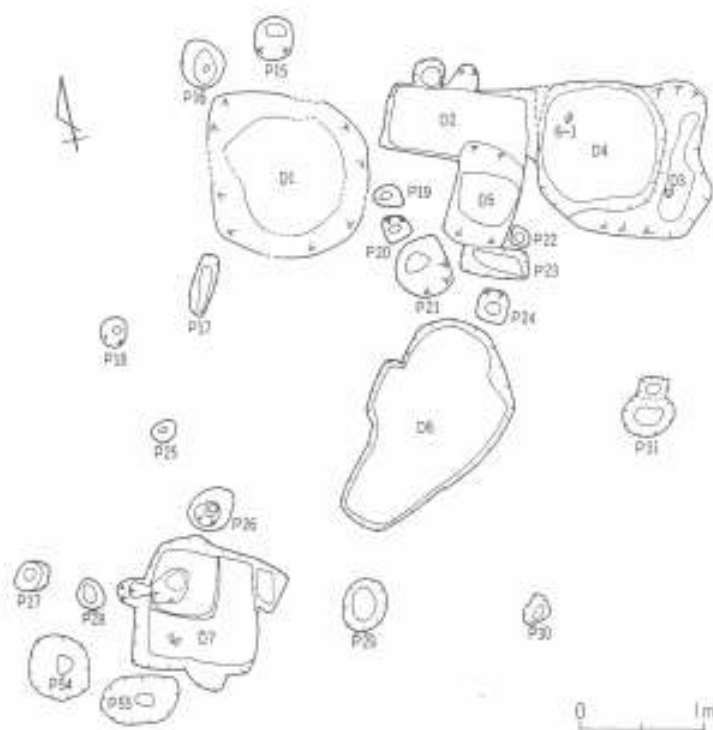
6号土壌（第4図）

本遺構は、5号土壌の南に検出された。平面形は、長楕円形状を呈し、長径1.80m、短径1.00mを測る。遺物は検出されなかった。

7号土壌（第4図）

本遺構は、D-4グリッドの最南に検出された。平面形は、ほぼ正方形を呈し、長辺1.20m、短辺1.00mを測る。遺物はかわらけが出土した。

※ ピットは、後述する。



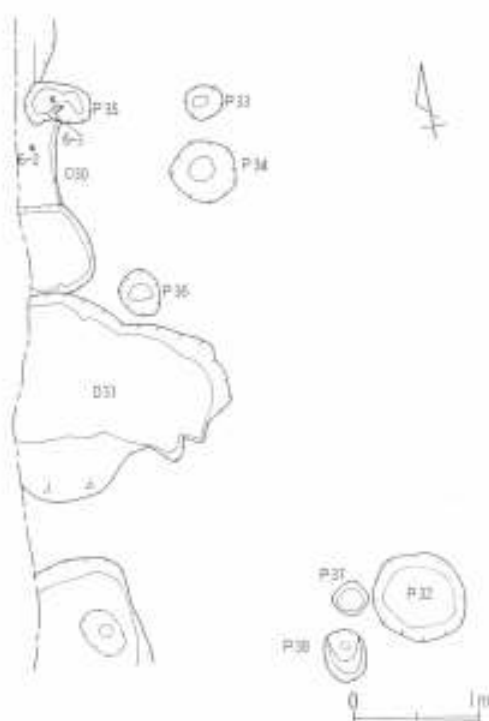
第4図 1～7号土壌、15～31・54・55号ピット

30号土壌（第5・6図）

本遺構は、調査区の北西、A-5グリッド内に検出された。調査区域外まで広がると考えられ、平面形は不明である。南北長は2.20m程である。遺物はかわらけ・陶磁器が出土した。

6-2 茶碗（伊万里）。底径3.6cm、残高2.1cmで底部付近のみである。染付で文様が施されている。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ 。

6-3 かわらけ。底径5.0cm、残高0.5cm。底部のみで、粗粒砂を含み、淡橙



第5図 30・31号土溝、32～36号ピット
褐色を呈す。右の回転糸切りで底部の80%程残存。

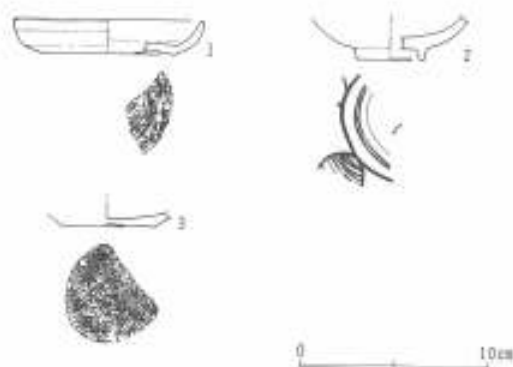
31号土溝（第5図）

本遺構は、30号土溝の南に検出された。調査区域外まで広がると考えられ、平面形は、断定しにくい、長方形の変形を呈すと考えられる。規模は、短軸で1.50mを測る。遺物は検出されなかった。

※ ピットは、後述する。

22号土溝（第7図、図版2）

本遺構は、C-5グリッドで検出された。平面形は、



第6図 4・30号土溝出土遺物

長方形を呈し、長辺1.80m、短辺1.20m、深さ44cmを測ると推定される。

23号土溝（第7・8図、図版2）

本遺構は、C-5・6グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。推定規模は、長辺2.80m、短辺2.04m、深さ50cmである。遺物は古銭が2枚出土した。

8-2 古銭。不明。直径2.4cm。銅銭。

8-3 古銭。熙寧元寶(?)〈篆書体〉。直径2.4cm。銅銭。

24号土溝（第7・10図、図版2）

本遺構は、C-6グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。推定規模は、長辺2.75m、短辺1.85m、深さ40cmである。遺物はかわらけが出土した。
10-6 かわらけ。口径10.4cm、底径7.4cm、器高3.1cm。細礫・粗粒砂を含み、淡褐色を呈す。内面は、黒灰色を呈す。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

25号土溝（第7図、図版2）

本遺構は、22号土溝の西に検出された。平面形は長方形を呈し、規模は、長辺2.76m、短辺1.00m、深さ45cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

26号土溝（第7図、図版2）

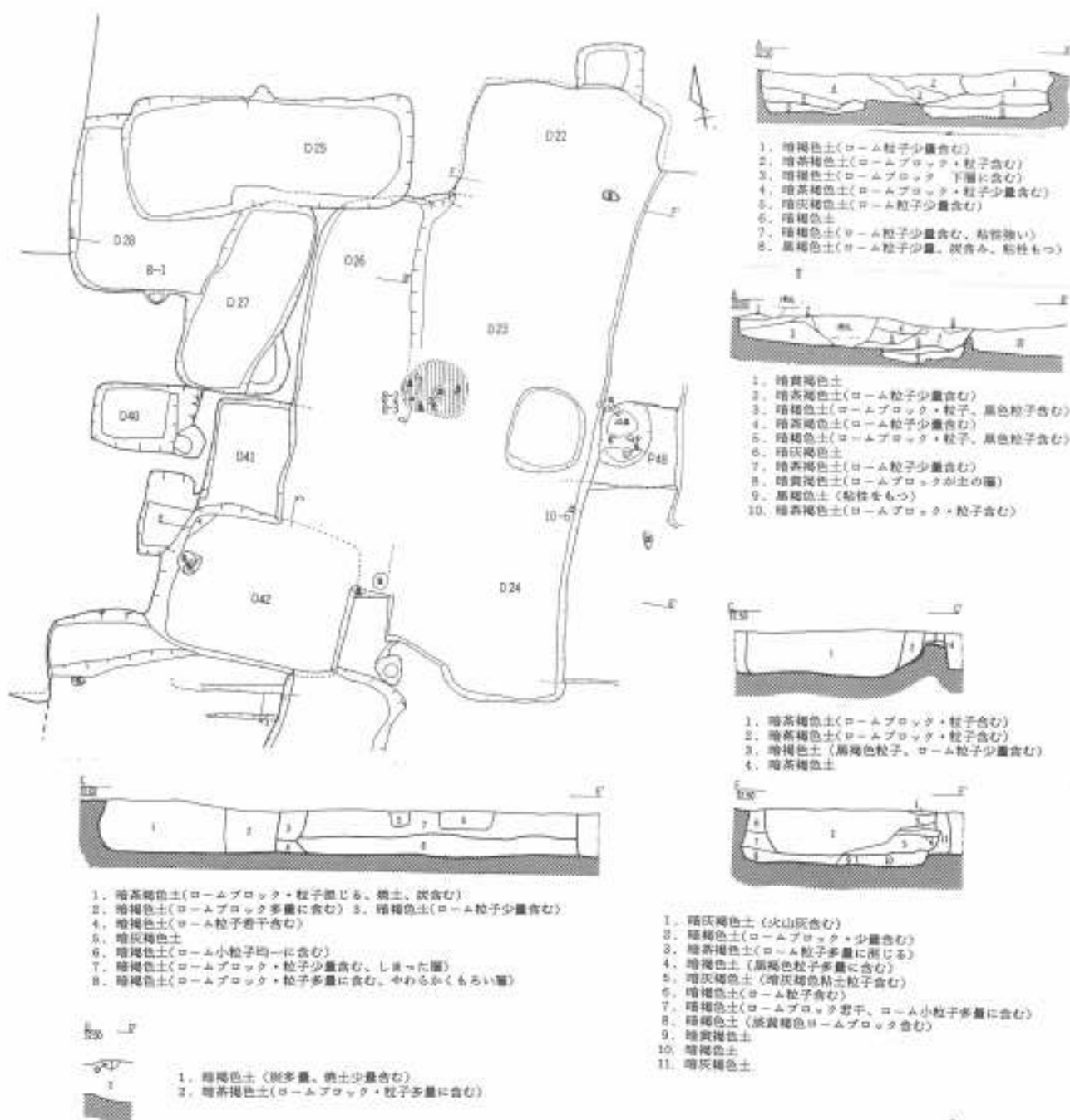
本遺構は、22号土溝の南に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。推定規模は、長辺3.70m、短辺1.20mである。遺物はかわらけ等が出土した。

27号土溝（第7図、図版2）

本遺構は、25号土溝の南に位置し、25・27・28号土溝が切り合っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長辺1.90m、短辺0.84m、深さ35cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

28号土溝（第7・8図、図版2）

本遺構は、25・27号土溝と切り合って検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、短辺1.70m



第7図 22～28・40～42号土壌、48号ピット

長辺は攪乱部まで遺構が広がると考えられるので不明である。深さ30cmを測る。遺物は古銭が出土した。

8-1 古銭。○○通寶(真書体)。銅銭。

40号土壌(第7図、図版2)

本遺構は、27号土壌の南に検出された。平面形は、長方形を呈し、長辺1.10m、短辺0.64mを測る。遺物は検出されなかった。

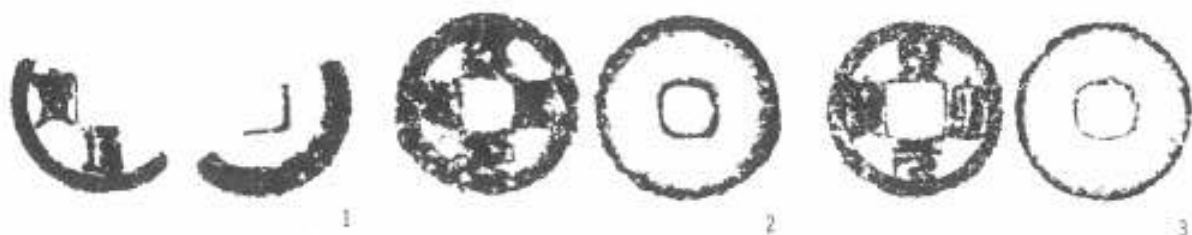
41号土壌(第7図、図版2)

本遺構は、42号土壌と切り合って検出された。平面形は、長方形を呈し、長辺2.80m、短辺はE-E' 断面で1.95m、深さ28cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

42号土壌(第7図、図版2)

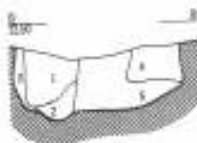
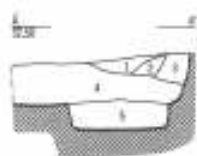
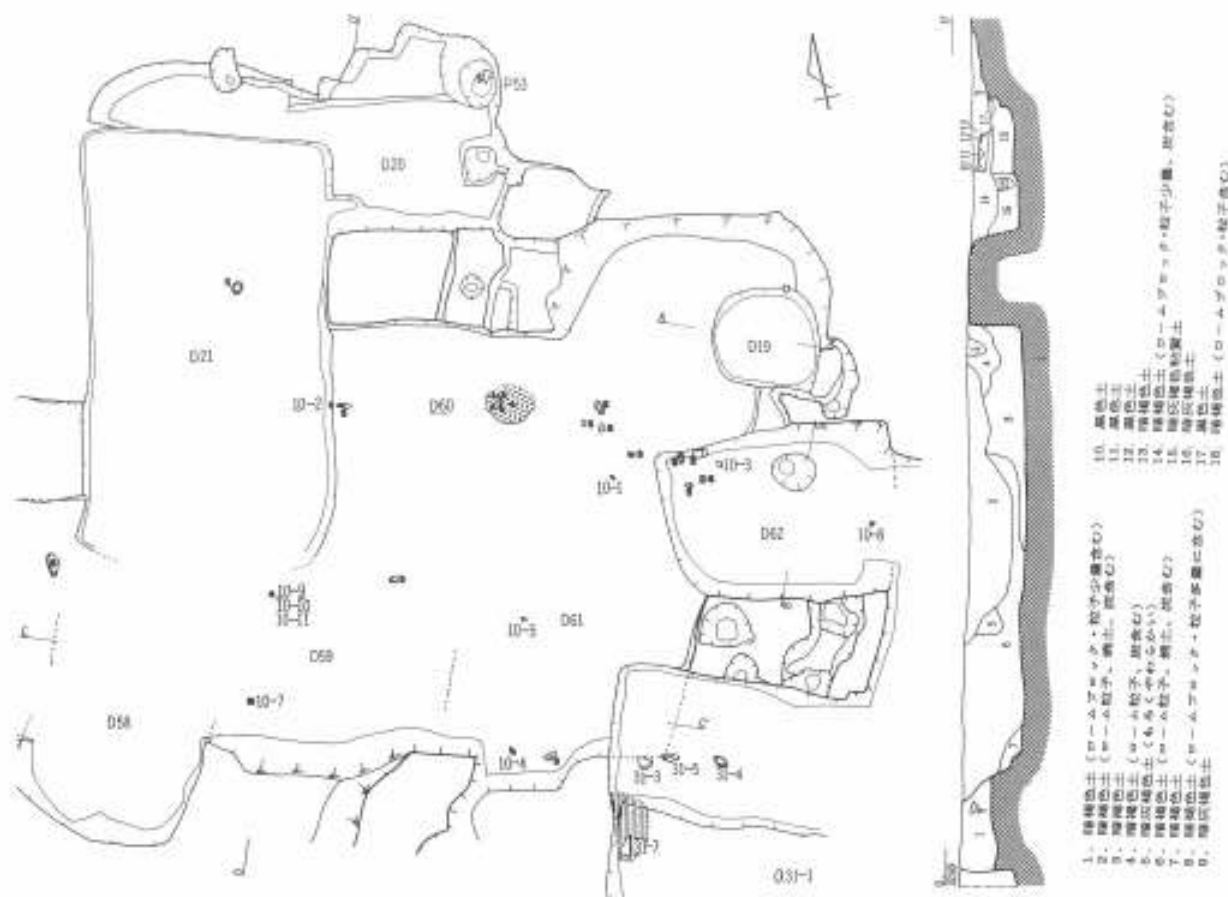
本遺構は、41号土壌と切り合って検出された。平面形は、長方形を呈し、E-E' 断面で1.70m、C-C' 断面で1.50m、深さ50cmを測る。遺物はかわらけ・陶磁器が出土。

※ ピットは、後述する。



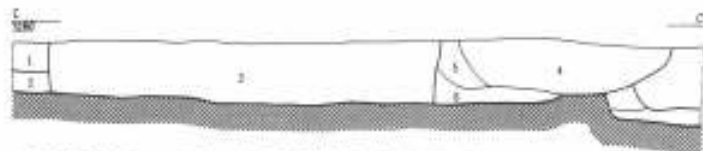
第8図 23・28号土坑出土古銭

0 2 cm



1. 暗褐色土（ローム粒子、焼土、炭屑を含む）
2. 暗褐色土（ローム粒子少量含む）
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土（ロームブロック少量、焼土、炭屑を含む）
5. 暗褐色土

1. 暗褐色土（炭屑を含む）
2. 暗褐色土（ローム粒子若干含む）
3. 暗褐色土（ロームブロック・粒子を含む）
4. 暗褐色土（ロームブロック・粒子若干含む）
5. 暗褐色土（ロームブロック少量を含む）



1. 暗褐色土（ロームブロック・粒子少量含む、ふたつきまる）
2. 暗褐色土（ロームブロック・粒子少量含む、やわらかくもろい）
3. 暗褐色土（ローム粒子、焼土、炭屑を含む）
4. 暗褐色土（ローム粒子少量、焼土、炭屑を含む）
5. 暗褐色土（ローム粒子、焼土、炭屑を含む）
6. 暗褐色土（ローム粒子若干含む、比較的やわらかい）

0 1 m

第9図 19～21・58～62号土坑、53号ピット

19号土坑（第9図、図版2）

本遺構は、D-5 グリッド内に検出された。平面形は、円形を呈す。規模は、A-A' 断面で0.86mを測る。遺物は検出されなかった。

20号土坑（第9図）

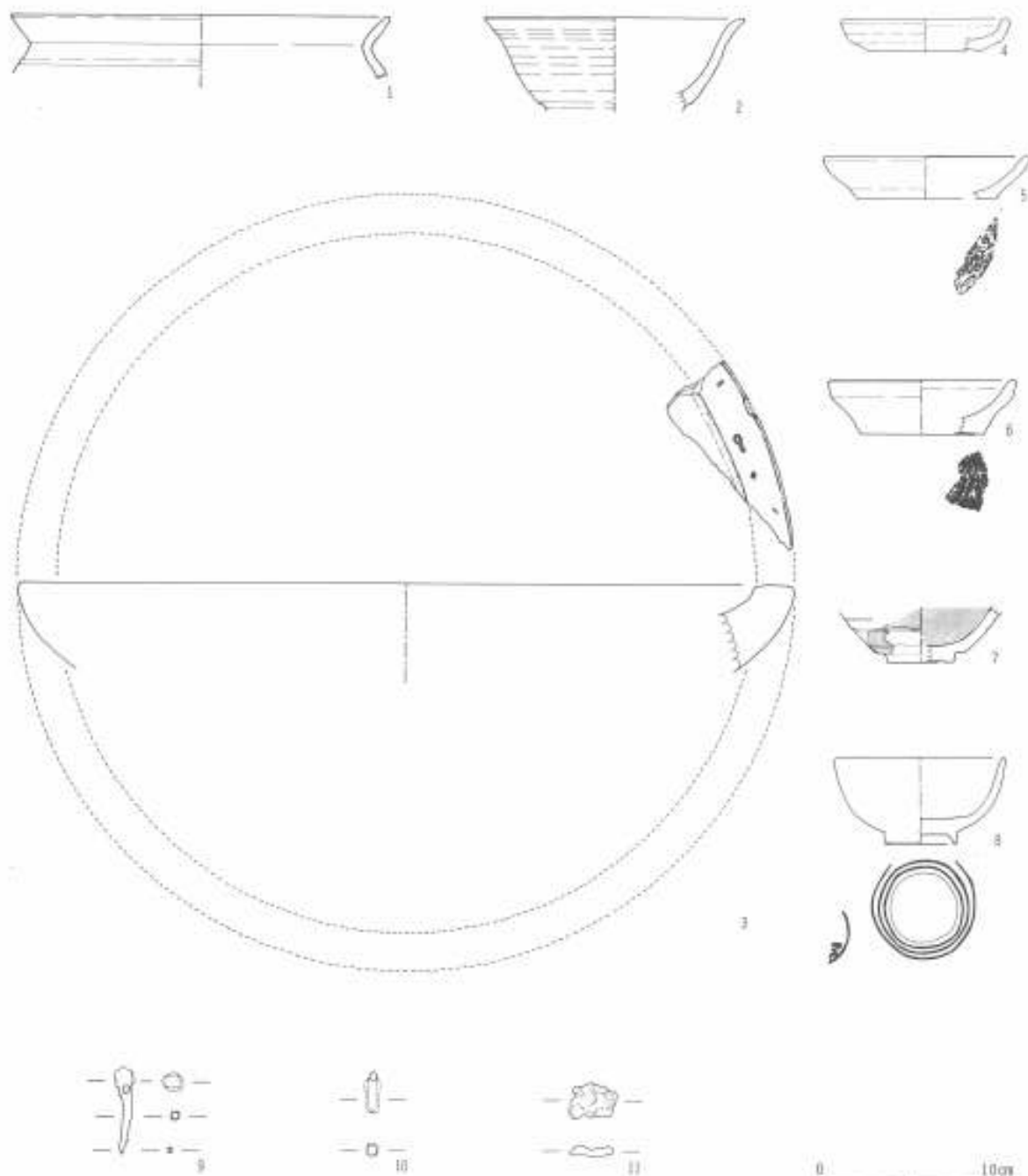
本遺構は、C-5・D-5 グリッドにまたがって検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられ、長軸は3.00m程で、短軸はD-D' 断面1.10mを測る。遺物

は検出されなかった。

21号土坑（第9・10図）

本遺構は、20号土坑と切り合って検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられ、規模は長辺3.30m、短辺1.95mを測る。遺物は土師器が出土した。

10-2 坏（土師器）。口径15.0cm、残高5.3cm。粗粒砂・中粒砂を含み、暗茶褐色を呈す。一部黒く焦げている。残存率は、 $\frac{1}{5}$ 。



第10図 21・24・59～62号土坑出土遺物

58号土壌 (第9図)

本遺構は、C-6グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、一方軸が1.40mを測る。遺物は検出されなかった。

59号土壌 (第9・10図)

本遺構は、C-6グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、C-C'断面で3.13m、深さ48cmを測る。遺物は天目茶碗・鉄器が出土した。

10-7 天目茶碗 (瀬戸・美濃)。底径4.0cm、残高2.9cm。地の色調は淡黄褐色で、内・外面に鉄軸が施されている。底部付近のみ残存し、底部の $\frac{1}{2}$ 。

10-9 鉄器 (釘)。残長5cm、最大幅8mm、厚さ6mm。断面は方形である。

10-10 鉄器 (釘)。残長2.4cm、最大幅5mm、厚さ5mm。断面は方形である。

10-11 鉄器。残長2.4cm、幅2.7cm、厚さ4mm。

60号土壌 (第9・10図、図版2)

本遺構は、D-5・6グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと推測される。遺物は土師器が出

土した。

10-1 甕 (土師器)。口径21.6cm、頸部径19.8cm、残高3.4cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈し、内面が黒く焦げている。口辺部のみで、口縁の $\frac{1}{4}$ 残存。

61号土壌 (第9・10図)

本遺構は、D-6グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられ、C-C'断面で1.85mを測る。遺物はかわらけが出土した。

10-4 かわらけ。口径9.6cm、底径6.2cm、器高1.9cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。

10-5 かわらけ。口径11.8cm、底径8.0cm、器高2.5cm。中粒砂・細粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

62号土壌 (第9・10図、図版2・4)

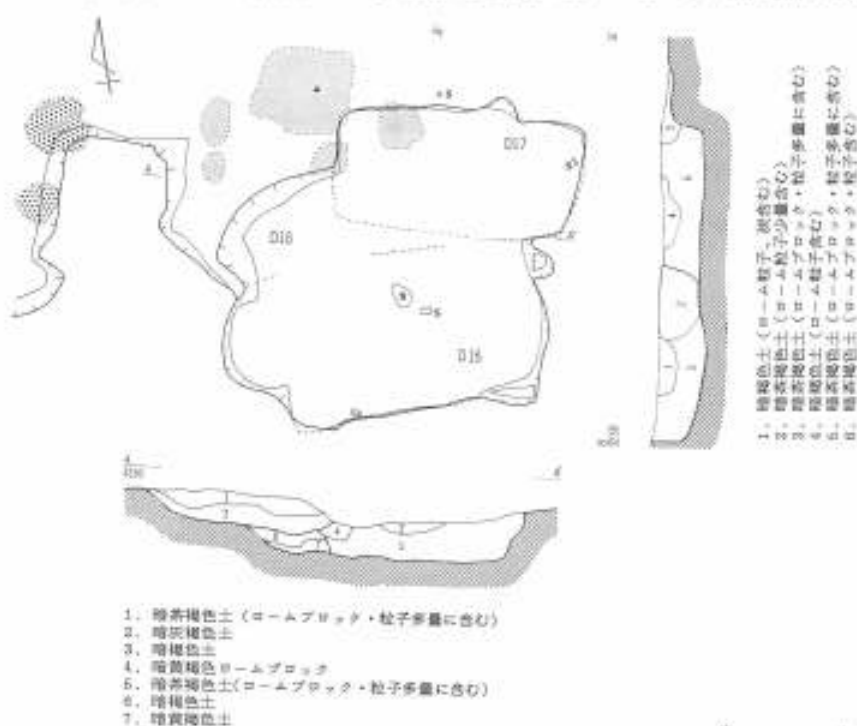
本遺構は、D-6グリッド内に検出された。平面形は長方形を呈す。長辺1.90m、短辺1.30m、B-B'断面で1.30m、深さ50cmを測る。遺物は陶磁器・茶臼が出土した。

10-3 茶臼。直径45.2cm、残存厚3.3cm。安山岩製。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

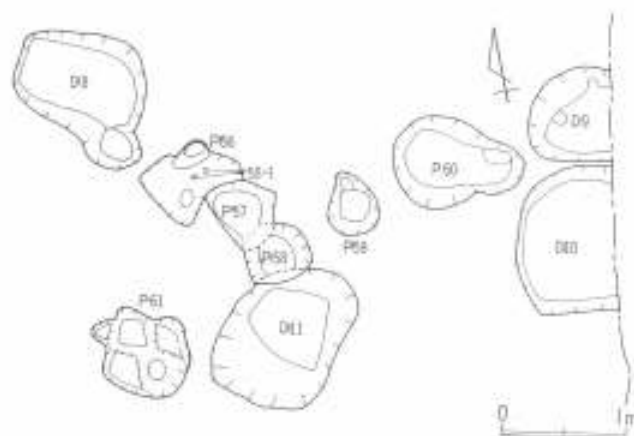
10-8 茶碗 (伊万里)。口径9.6cm、底径4.2cm、器高5.0cm。染付。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。

16号土壌 (第11図、図版2)

本遺構は、D-5グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられ、規模は、長形2.60m、B-B'断面で長さ1.40m、深さ37cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。



第11図 16~18号土壌



第12図 8～11号土坑、56～61号ピット

17号土坑（第11図、図版2）

本遺構は、D-5グリッド内に検出された。16・18号土坑と切り合っていた。平面形は、長方形を呈すと考えられ、長辺1.94m、短辺0.90m、深さ30cmを測る。埋土の最上層には、砂層の点在する箇所があった。遺物はかわらけ・鉄製品が出土した。

18号土坑（第11図、図版2）

本遺構は、D-5グリッド内に検出された。平面形は、不明である。遺物はかわらけが出土した。

8号土坑（第12図）

本遺構は、D-5グリッド内に検出された。平面形は、不整形な長方形を呈す。規模は、長軸1.30m、短軸0.78mである。遺物は検出されなかった。

9号土坑（第12図）

本遺構は、E-5グリッド内に検出された。平面形は、調査区域外に広がると考えられるので不明である。短軸の長さは75cmを測る。遺物は検出されなかった。

10号土坑（第12図）

本遺構は、E-5グリッド内に検出された。平面形

は、調査区域外に広がると考えられるので不明である。南北軸の長さが、1.15mを測る。遺物は検出されなかった。

11号土坑（第12図、図版2）

本遺構は、E-5グリッド内に検出された。平面形は、不整形な長方形を呈す。規模は長軸1.20m、短軸0.92m、を測る。遺物は検出されなかった。

※ ピットは、後述する。

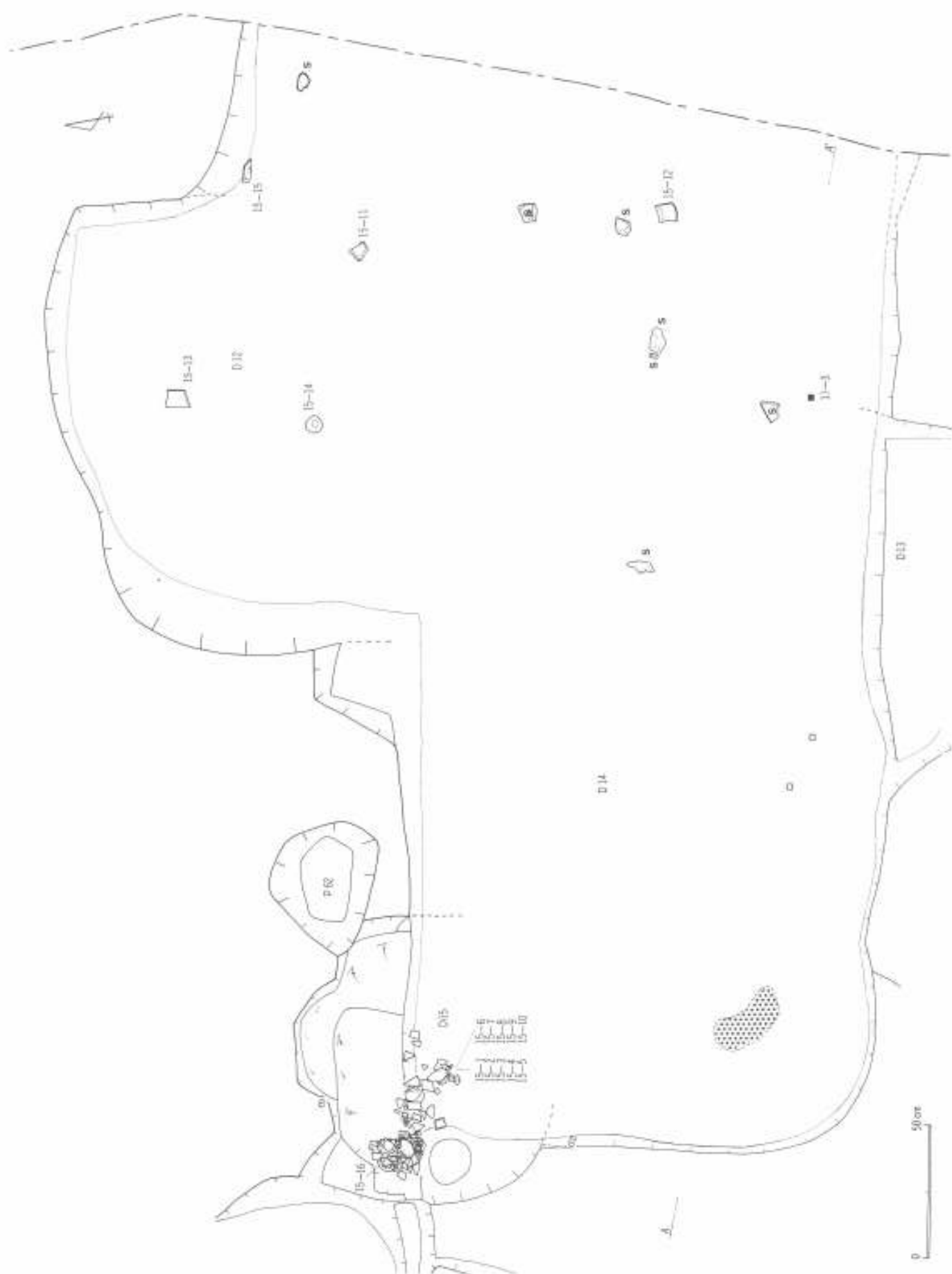
12号土坑（第13～15図、図版2・4）

本遺構は、E-5グリッド内に検出された。平面形は、不整形な長方形を呈すと考えられる。規模は、短軸1.76mを測る。遺物はかわらけ・内耳土器・板碑が出土した。

15-11 かわらけ。底径8.0cm、残高1.3cm。粗粒砂を含み、淡茶褐色を呈す。残存率は、底部の $\frac{1}{3}$ である。

15-13 内耳土器。口径34.4cm、残高5.2cm。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は、外面が黒灰色、内面が暗灰色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{3}$ である。

15-14 かわらけ。口径6.5cm、底径3.5cm、器高2.0～2.2cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。



第13図 12～15号土坑、62号ピット

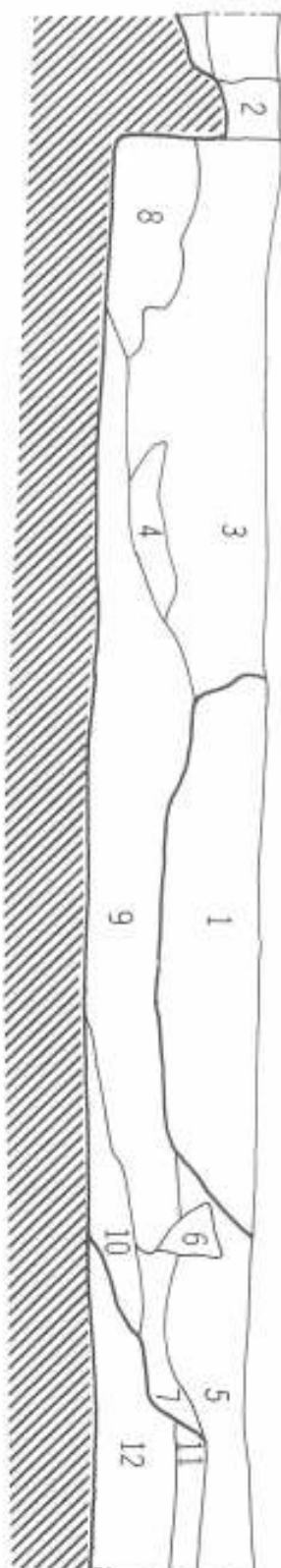
底部は、
右の回
転系切
りであ
る。残
存料は
ほぼ完
形であ
る。

15-15
板石塔
婆。残
高11.3
cm、残
幅12.2
cm、厚
さ1.5
cm。緑
泥片岩。
蓮座の
部分が
残って
いる。

14号
土塊
(第
13~
15図、
図版
2・
4)

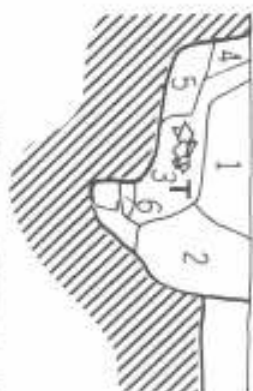
本遺構
は、E-
5グリッ
ド内に検
出された。

A/50



1/10

E/50



1. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
2. 暗褐色土 (ローア粘土、土塊含む)
3. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
4. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
5. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
6. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)

1. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
2. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
3. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
4. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
5. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
6. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
7. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
8. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
9. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
10. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
11. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)
12. 暗褐色土 (ローア粘土層に含む)

0 1 m

第14図 13~14号土塊断面図

15号土壌と切り合っている。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、短辺1.96m、深さ43cmを測る。遺物はかわらけ・骨片が出土した。

15-12 かわらけ。口径12.6cm、底径6.0cm、器高3.4cm。中粒砂を含み、色調は外面が淡橙褐色、内面が灰白褐色を呈す。底部内面には、指ナデ痕、外面には柁目痕がある。残存率は、 $\frac{1}{8}$ である。

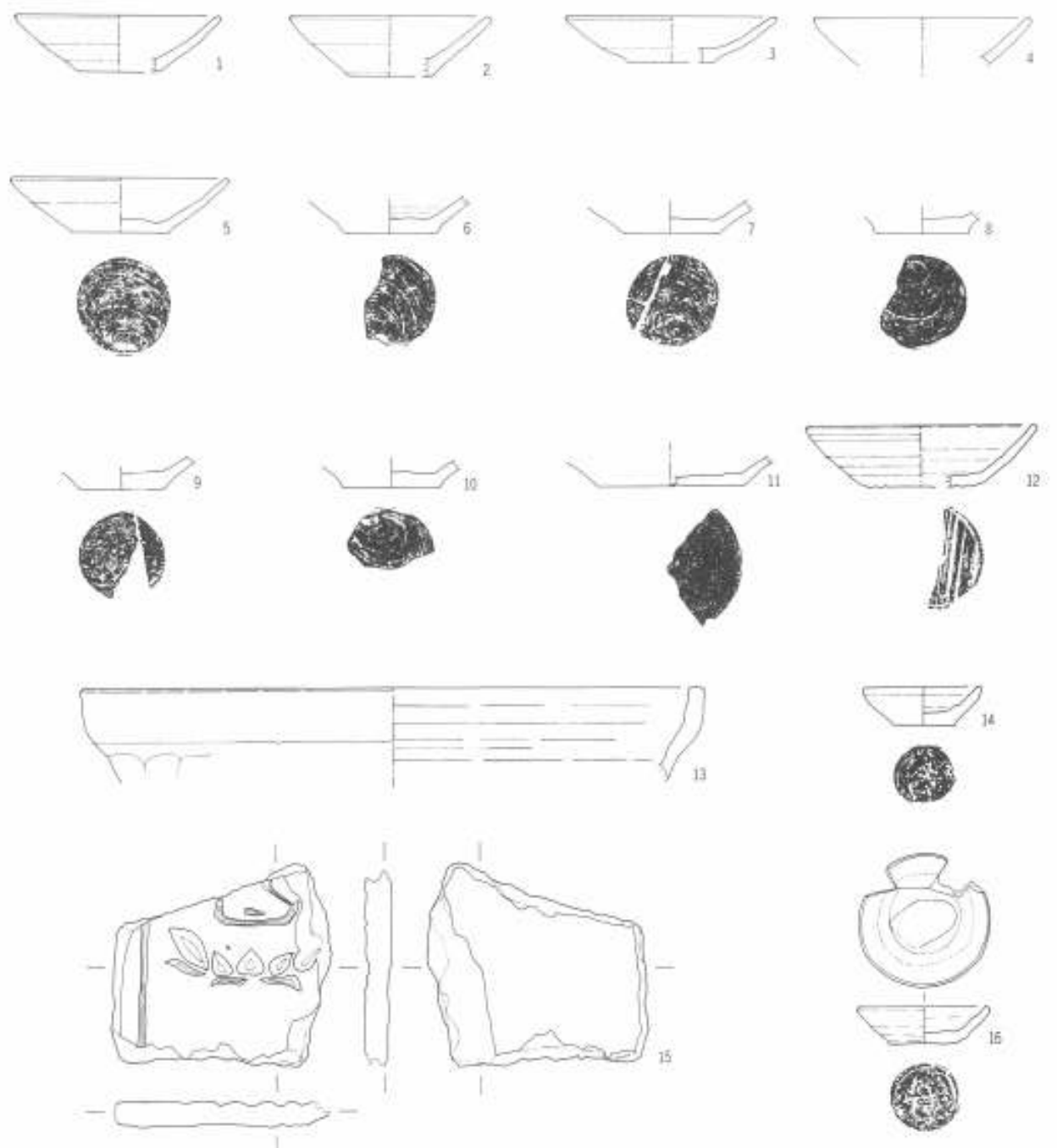
15号土壌（第13～15図、図版2・4）

本遺構は、D-5・E-5グリッド内に検出された。平面形は、不整形な長方形を呈すと考えられる。長軸1.14m、B-B'断面で長さ70cm、深さ41cmを測る。遺物は、一ヶ所に集中してかわらけが多数出土した。

15-1 かわらけ。口径11.0cm、底径4.6cm、器高3.1cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

15-2 かわらけ。口径10.8cm、底径4.6cm、器高3.3cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

15-3 かわらけ。口径11.4cm、底径4.6cm、器高2.5cm。



第15図 12・14・15号土壌出土遺物

細粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

15-4 かわらけ。口径11.6cm、残高2.6cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{2}$ 。

15-5 かわらけ。口径11.8cm、底径5.4cm、器高3.0cm。細粒砂を含み、淡褐色である。底部は、右の回転糸切り。残存率は、約 $\frac{1}{2}$ 。

15-6 かわらけ。底径5.2cm、残高2.1cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。底

部の70%程残存。

15-7 かわらけ。底径5.2cm、残高1.9cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切りで、完存。

15-8 かわらけ。底径5.2cm、残高1.2cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。底部の80%程残存。

15-9 かわらけ。底径4.6cm、残高1.8cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。底部の65%程残存。

15-10 かわらけ。底径5.4cm、残高1.6cm。細粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。底部の55%程残存。

15-16 かわらけ。口径7.0cm、底径3.8cm、器高2.1cm。粗粒砂・中粒砂を含み、暗橙褐色を呈す。底部は、内面に指ナデ痕があり、右の回転糸切りである。残存率は、約90%である。

13号土壙（第16～18図、図版2）

本遺構は、E-6グリッド内に検出された。平面形は、不明であるが、方形を呈すと推定される。遺物はかわらけ・古銭が出土した。

17-3 かわらけ。口径11.8cm、残高2.7cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{2}$ である。

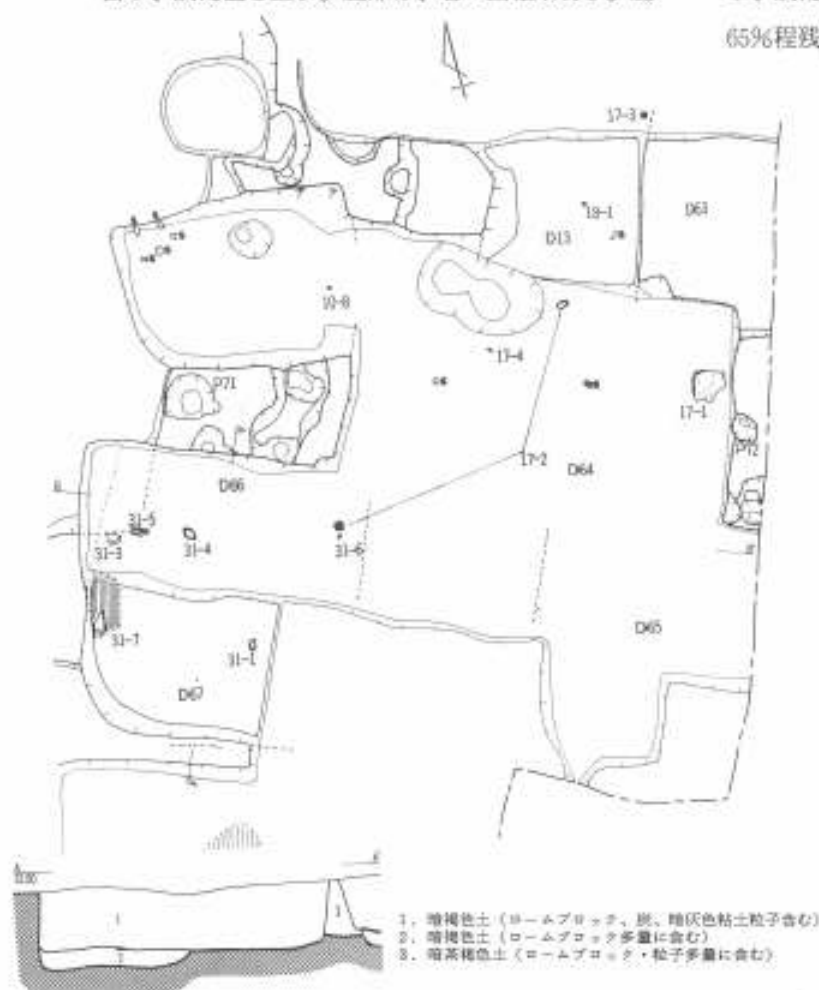
18-1 古銭。嘉祐通寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。

63号土壙（第16図、図版2）

本遺構は、E-6グリッド内に検出された。平面形は、不明である。遺物は土器が出土した。

64号土壙（第16・17図）

本遺構は、E-6グリッド内に検出された。平面形は、長方形と推定される。規模



1. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
2. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
3. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
4. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
5. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
6. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土
9. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
10. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
11. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
12. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
13. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）
14. 暗褐色土（ローム粒子少量、炭・灰多量を含む）

第16図 13・63～67号土壙、71・72号ピット

は、少なくとも1辺1.70m以上はあると推定される。

遺物は瓦・土鍾・板碑が出土した。

17-1 板石塔婆。残高22.2cm、残幅23.7cm、厚さ3.6cm。緑泥片岩。のみ痕残こる。

17-2 平瓦。残長13.5cm、残幅7.0cm、厚さ1.7~1.8cm。土師質。凹面は1cmあたり6×7本の布目痕を有し灰色を呈す。凸面は縄叩きを施し橙褐色を呈す。細礫・粗粒砂を含む。

17-4 土鍾。残長2.2cm、最大幅7mm、孔径2.5mm。細粒砂を含み、暗赤褐色を呈す。

65号土壌（第16図）

本遺構は、E-6グリッド内に検出された。平面形・規模等は、不明である。遺物はかわらけ・陶磁器片が出土した。

66号土壌（第16図）

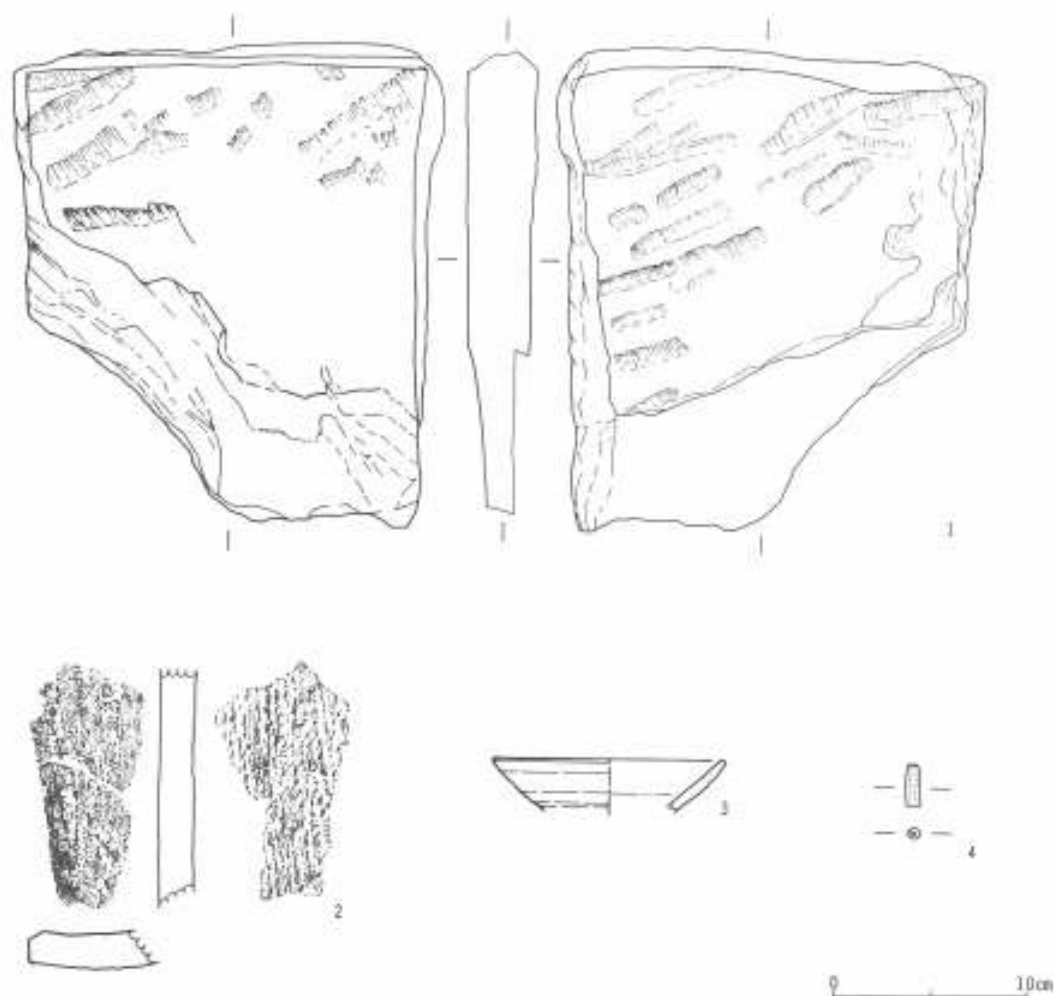
本遺構は、D-6・E-6グリッド内に検出され、67号土壌と切り合っていると考えられる。平面形は、長方形を呈し、A-A'断面の長さ1.21m、B-B'断面の長さ3.75m、深さ63cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

67号土壌（第16・31図、図版4）

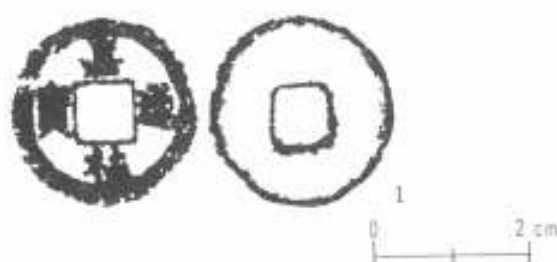
本遺構は、D-6グリッド内に検出され、66号土壌と切り合っていると考えられる。平面形は、ほぼ正方形を呈し、A-A'断面の長さ2.30m、B-B'断面の長さ2.10m、深さ50cmを測る。遺物はかわらけ・板碑等が出土。

31-1 かわらけ。口径11.2cm、底径6.2cm、器高2.6cm。細粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は回転系切り。残存率は、1/2である。

31-3 捏鉢。底径13.0cm、残高2.8cm。中粒砂を含み、



第17図 13・64号土壌出土遺物



第18図 13号土壌出土古銭

- 色調は外面が暗灰色、内面が淡灰褐色を呈す。底部外面が黒くすすける。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ 弱である。
- 31-4 揺鉢（瀬戸・美濃）。口径26.4cm、残高4.0cm。銅軸。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。
- 31-5 砥石。残高12.6cm、残幅3.7cm、厚さ3.2cm。岩質は、砂岩系である。
- 31-6 板石塔婆。残高20.2cm、残幅11.1cm、厚さ3.1cm。緑泥片岩。のみ痕有す。
- 31-7 板石塔婆。残高15.3cm、残幅8.4cm、厚さ1.6cm。緑泥片岩。蓮台の一部残存。

※ ビットは、後述する。

29号土壌（第19図、図版2）

本遺構は、A-6グリッド内に検出され、平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、調査区域外へ広がると考えられ、不明である。遺物は検出されなかった。

32号土壌（第19図、図版2）

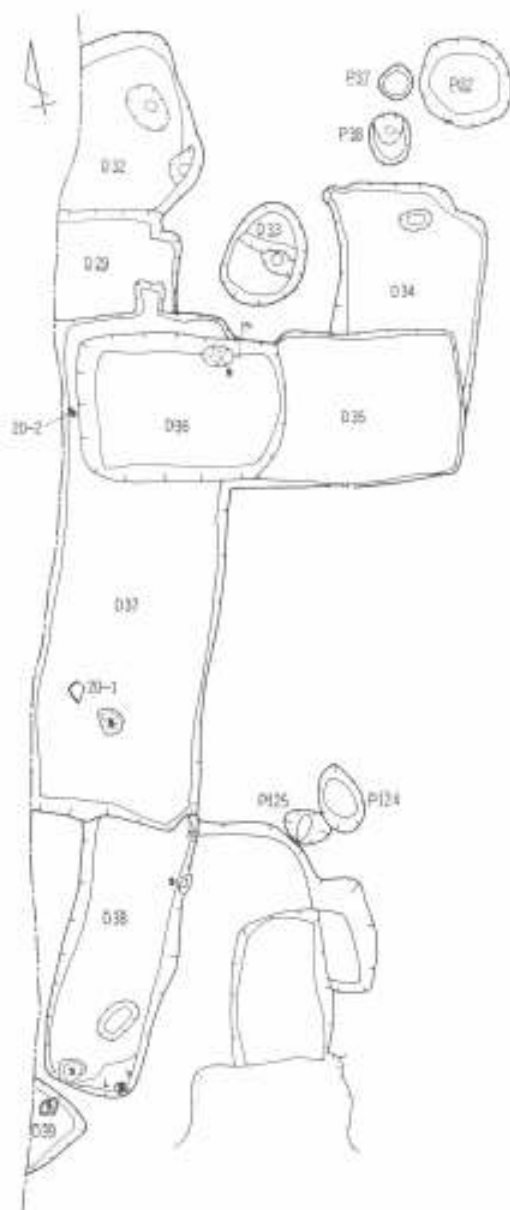
本遺構は、A-5・6グリッド内に検出され、平面形は、不整形な方形を呈すと考えられる。調査区域外へ広がると考えられ、規模は、不明である。遺物は検出されなかった。

33号土壌（第19図、図版2）

本遺構は、B-6グリッド内に検出され、平面形は楕円形を呈し、長軸0.82m、短軸0.60mの規模である。遺物は検出されなかった。

34号土壌（第19図、図版2）

本遺構は、B-6グリッド内に検出され、35号土壌



1. 暗灰褐色土（火山灰含む）
2. 暗褐色土（ロームブロック・粒子多量に含む、機土、黒色粒子含む）
3. 暗茶褐色土（ロームブロック・粒子多量に含む）
4. 暗褐色土（ロームブロック・粒子含む）
5. 黒褐色土（ローム粒子若干含む）
6. 暗灰褐色土（ローム粒子多量に含む）
7. 暗灰褐色土（火山灰含む）
8. 暗茶褐色土（ロームブロック・粒子多量に含む）
9. 暗黄褐色土
10. 暗褐色土
11. 暗褐色土
12. 暗茶褐色土
13. 暗茶褐色土（ロームブロック・粒子多量に含む）

第19図 29・32～39号土壌、32・37・38・124・125号ビット

によって切られている。平面形は、不明確であるが、長方形を呈すと考えられる。北辺の長さ1.20mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。



第20図 36・37号土坑出土遺物

35号土坑（第19図、図版2）

本遺構は、34号土坑を切って検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられ、東辺の長さ1.12mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

36号土坑（第19・20図、図版2）

本遺構は、35・37号土坑を切って検出された。平面形は、長方形を呈し、規模は、長軸1.65m、A-A'断面の長さ1.23m、深さ68cmを測る。遺物はかわらけが出土した。

20-2 かわらけ。底径5.8cm、残高2.0cm。細礫・粗粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、底部の30%。

37号土坑（第19・20図、図版2）

本遺構は、A-6・A-7グリッドに検出され、36号土坑に切られている。平面形は、長方形を呈し、長辺の長さ4.10m、短辺は、調査区域外へ広がると考えられ不明。遺物は火鉢が出土した。

20-1 火鉢。口径40.4cm、残高11.2cm。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は暗褐色を呈す。内面は、みがき。残存率は、口径の $\frac{1}{5}$ である。

38号土坑（第19図）

本遺構は、A-7グリッド内に検出され、37号土坑によって切られている。平面形は、長方形を呈す。規模は、短辺が70cmを測る。遺物は検出されなかった。

39号土坑（第19図）

本遺構は、38号土坑のすぐ南に検出された。調査区域外へ広がると考えられ、平面形・規模は、不明である。遺物は検出されなかった。

※ ビットは、後述する。

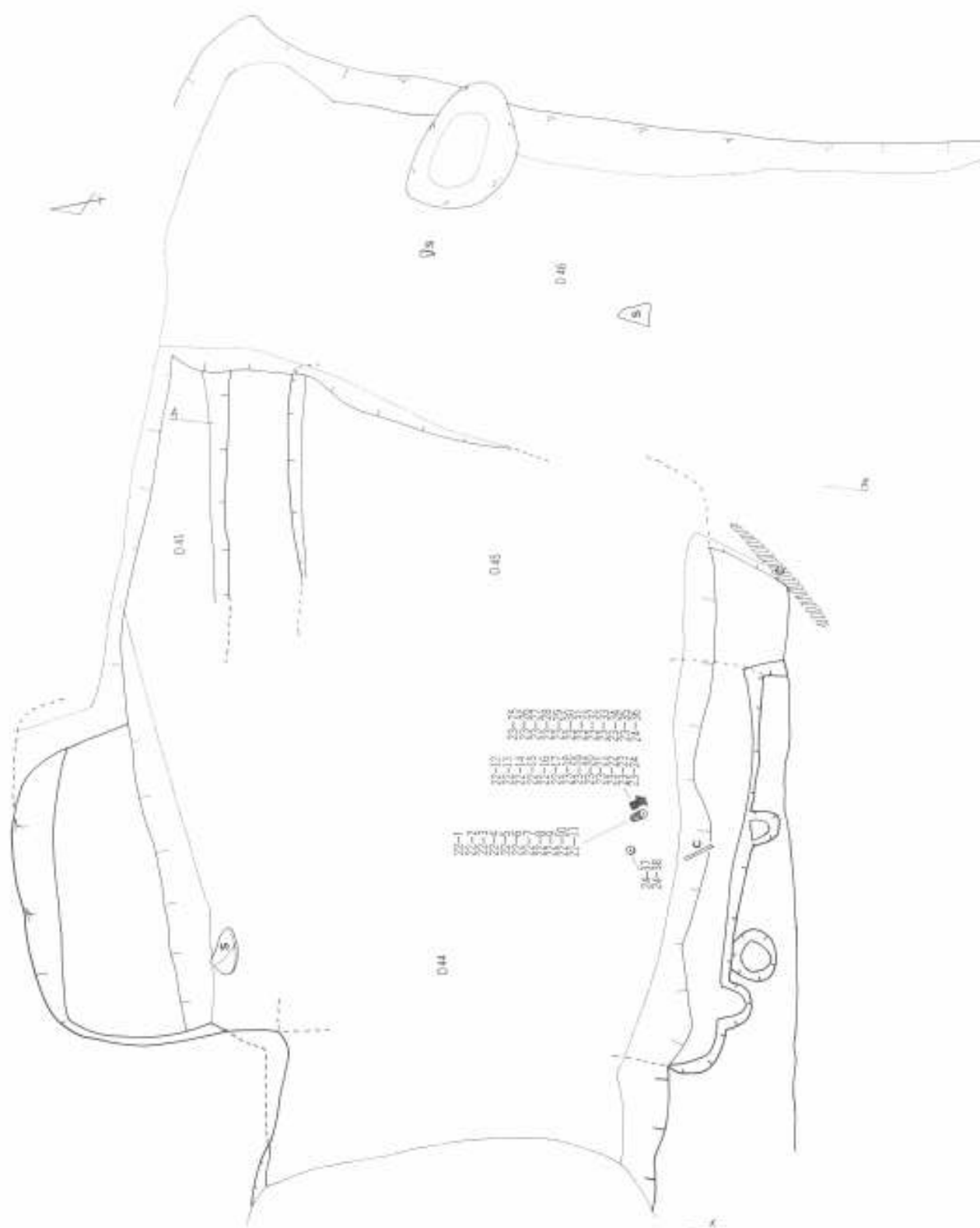
44号土坑（第21図、図版2）

本遺構は、B-6グリッドに検出された。平面形は、不明確だが、長方形を呈すと考えられる。規模も不明確である。遺物はかわらけ・陶磁器片が出土した。

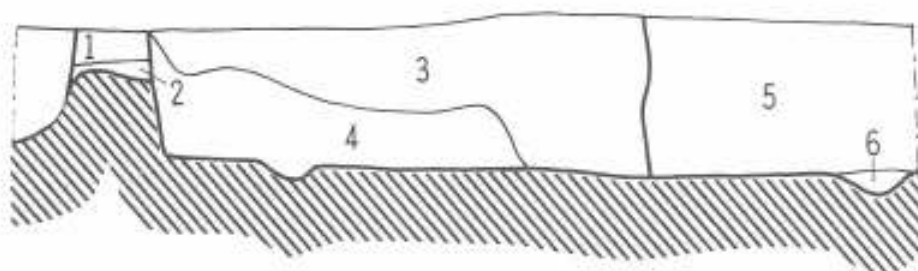
45号土坑（第21図、図版2・6）

本遺構は、B-6グリッドに検出された。平面形は、不明確だが、方形を呈すと考えられる。規模は、A-A'断面の長さで1.32m、深さ37cmを測る。遺物は土器、多数の古銭が出土した。

- 22-1 古銭。洪武通寶（真書体）。直径2.3cm。銅銭。
- 22-2 古銭。聖宋元寶（篆書体）。直径2.3cm。銅銭。
- 22-3 古銭。元豐通寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 22-4 古銭。元祐通寶（篆書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 22-5 古銭。永樂通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-6 古銭。天定通寶（真書体）。直径2.3cm。銅銭。
- 22-7 古銭。宣徳通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-8 古銭。〇〇通寶（篆書体）。直径2.3cm。銅銭。
- 22-9 古銭。永樂通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-10 古銭。至道元寶（草書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 22-11 古銭。聖宋元寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 22-12 古銭。大觀通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-13 古銭。永樂通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-14 古銭。天聖元寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。
- 22-15 古銭。皇宋通寶（真書体）。直径2.3cm。銅銭。
- 22-16 古銭。大觀通寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 22-17 古銭。元豐通寶（篆書体）。直径2.4cm。銅銭。
- 23-18 古銭。祥符通寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。



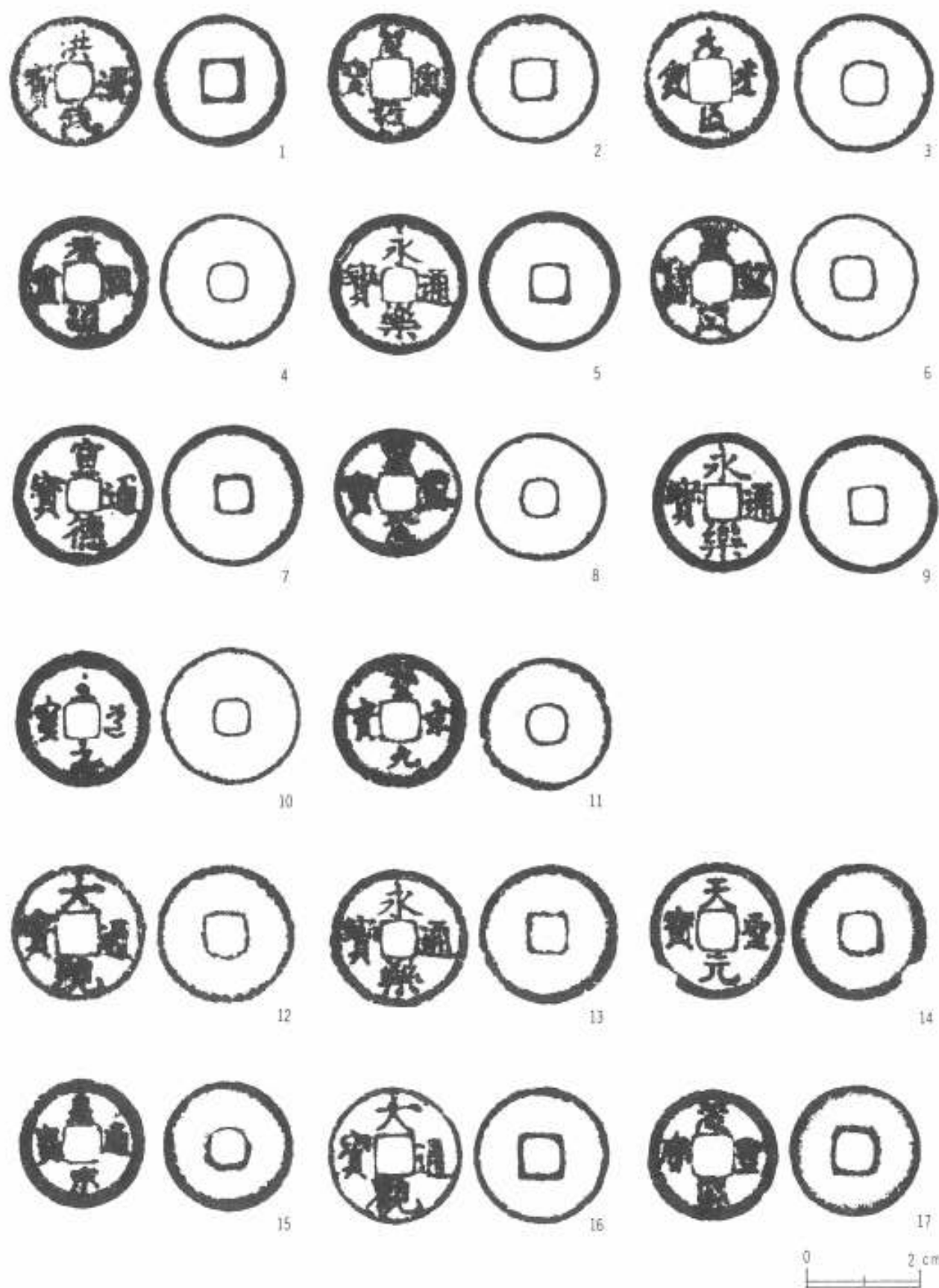
A
0.1m



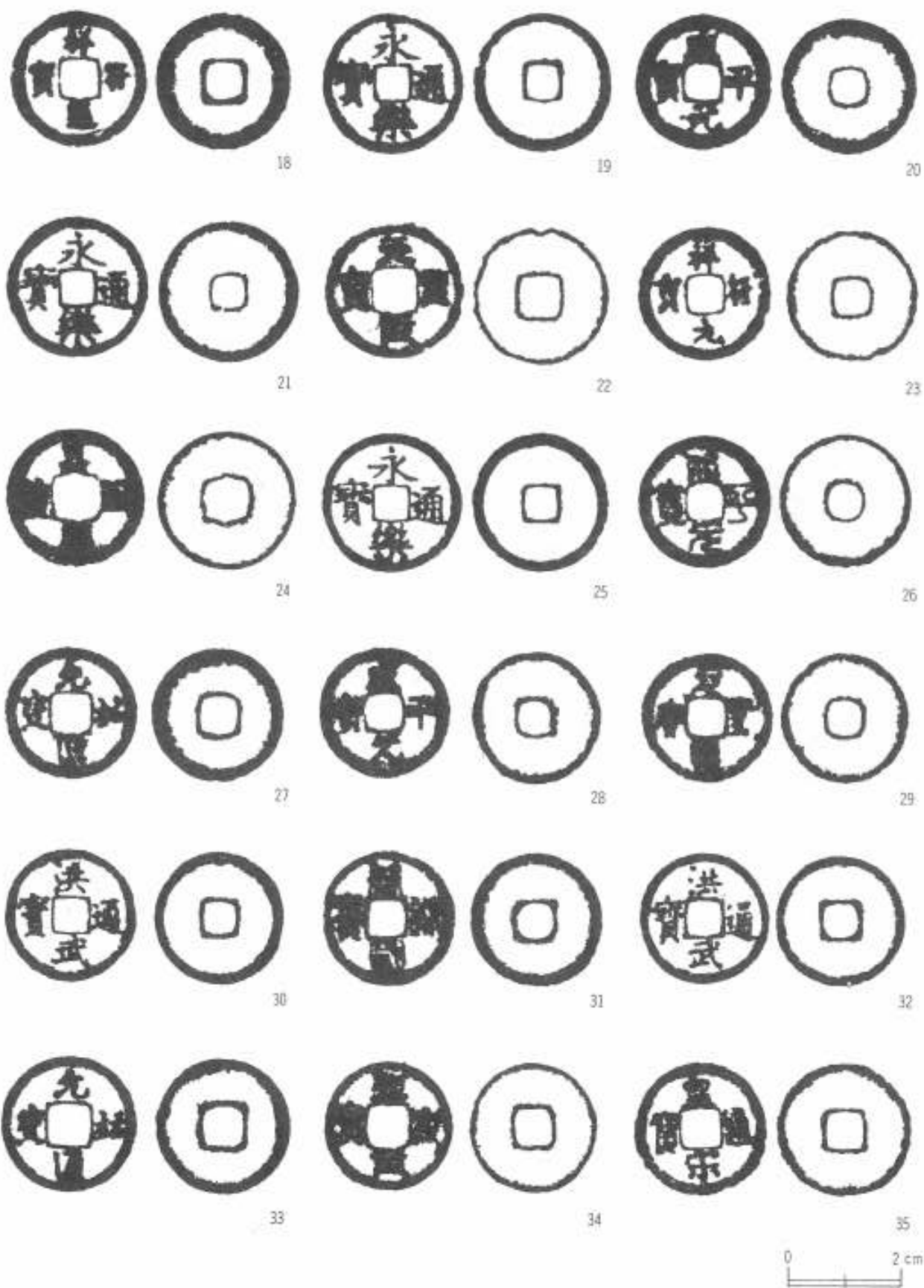
1. 暗褐色土
(黒褐色粒子、ローム粒子含む)
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
(ロームブロック・粒子均一に、散在)
4. 暗褐色土
(ロームブロック・粒子多量に含む)
5. 暗褐色土
6. 暗褐色土

第21図 41・44～46号土壌

0 1 m



第22图 45号土城出土古钱(1)



第23圖 45号土壤出土古錢(2)



第24図 45号土壌出土古銭(3)

- 23-19 古銭。永樂通寶(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
 23-20 古銭。咸平元寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-21 古銭。永樂通寶(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
 23-22 古銭。天聖元寶(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
 23-23 古銭。祥符元寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-24 古銭。嘉祐通寶?(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-25 古銭。永樂通寶(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
 23-26 古銭。治平元寶(篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-27 古銭。元祐通寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-28 古銭。咸平元寶(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-29 古銭。元豐元寶(篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-30 古銭。洪武通寶(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-31 古銭。唐國通寶(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-32 古銭。洪武通寶(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-33 古銭。元祐通寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
 23-34 古銭。天聖元寶?(篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
 23-35 古銭。皇宋通寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
 24-36 古銭。熙寧元寶(篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
 24-37 古銭。元豐通寶(篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
 24-38 古銭。永樂通寶(真書体)。直径2.5cm。銅銭。

46号土壌(第25図、図版2)

本遺構は、B-6・C-6グリッド内に検出された。平面形は、不明確であるが、長方形を呈すと考えられる。規模は、正確に把握できない。深さは、40cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

47号土壌(第25図)

本遺構は、B-7グリッド内に検出された。平面形は、不明確ではあるが、長方形または方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物はかわらけが出土した。

48号土壌(第25図)

本遺構は、B-7グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、西辺が1.15mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

49号土壌(第25図)

本遺構は、B-7グリッドに検出され、48号土壌によって切られている。平面形は、長方形を呈し、南辺2.75m、西辺0.62mを測る。遺物は検出されなかった。

50号土壌(第25図、図版2)

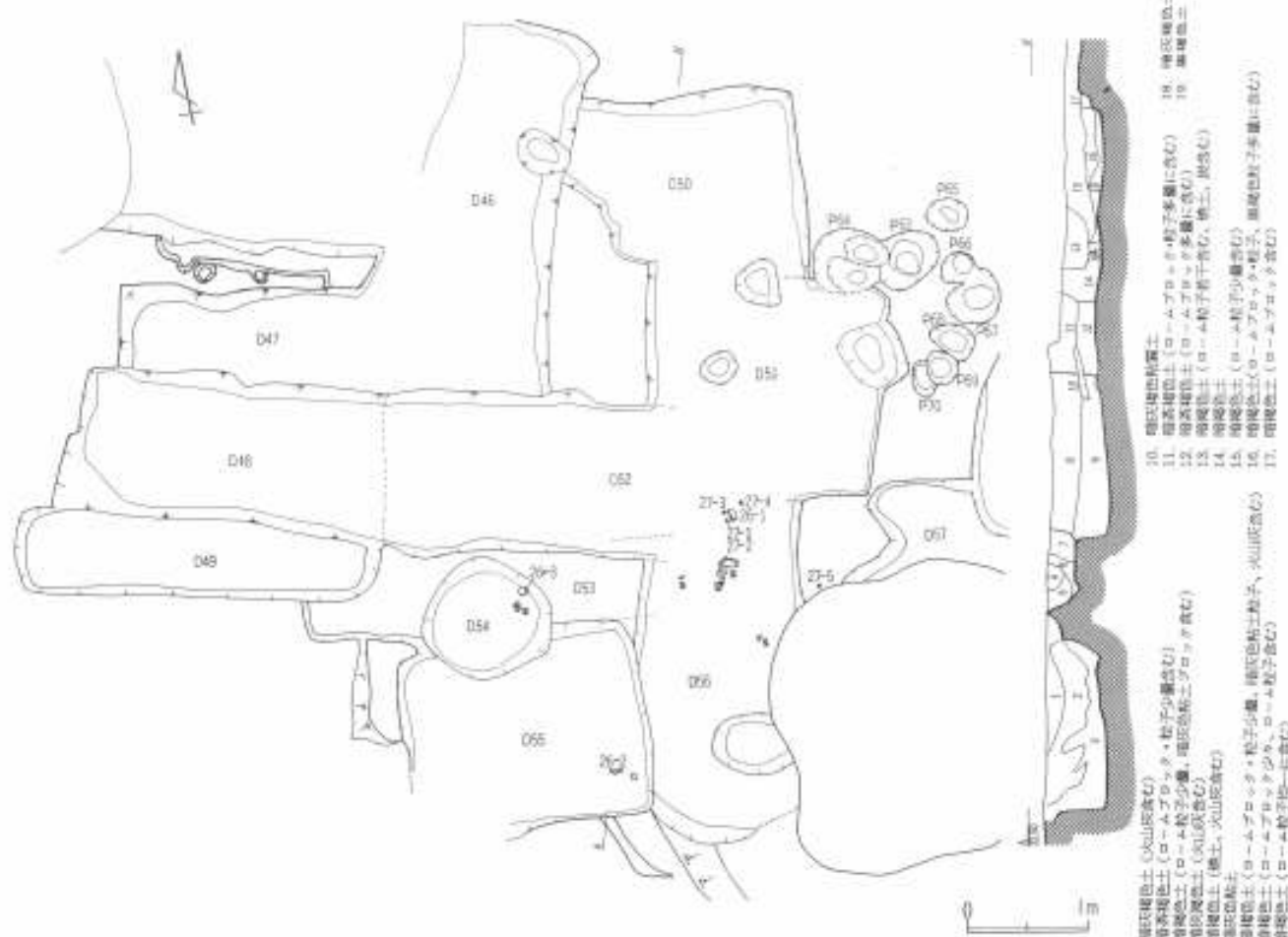
本遺構は、C-6グリッドに検出された。平面形・規模等は、いずれも不明である。

51号土壌(第25図)

本遺構は、C-7グリッドに検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、東辺1.55mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

52号土壌(第25~27図、図版6)

本遺構は、C-7グリッド内に検出された。平面形は、不明確ではあるが、方形を呈すと考えられる。規模は、A-A'断面の長さで1.30m、深さ45cmを測る。遺物は内耳土器・古銭等が出土した。



第25図 46～57号土壌、63～70号ピット

- 26-1 内耳土器。口径26.4cm、残高4.5cm。細粒砂を含み、色調は暗灰色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。
 27-1 古銭。治平元寶（篆書体）。直径2.4cm。銅銭。
 27-2 古銭。開元通寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。
 27-3 古銭。開寧元寶（真書体）。直径2.4cm。銅銭。
 27-4 古銭。皇宋通寶（真書体）。銅銭。

53号土壌（第25図）

本遺構は、B-7・C-7グリッド内に検出された。平面形は、不明確ではあるが、方形を呈すと考えられる。規模は、A-A'断面の長さで0.67m、深さ22cmを測る。遺物はかわらけが出土した。

54号土壌（第25・26図）

本遺構は、53・55号土壌を切って検出された。平面形は、円形を呈し、長軸1.04m、短軸1.00mを測る。遺物はかわらけが出土した。

- 26-3 かわらけ。口径9.8cm、底径4.2cm、器高2.2cm。中粒砂を含み、色調は橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

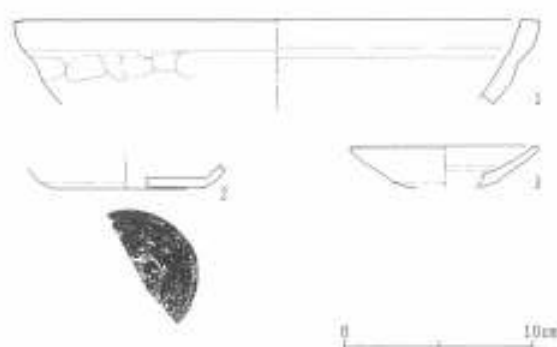
55号土壌（第25・26図）

本遺構は、B-7・C-7グリッド内に検出され、54号土壌に切られている。平面形は、長方形を呈し、長辺1.80m、短辺1.52m、A-A'断面の長さ1.65m、深さ48cmの規模である。遺物は須恵器・骨片が出土した。

- 26-2 坏（須恵器）。底径8.0cm、残高1.1cm。細砂・粗粒砂（白砂粒）を含み、色調は暗青灰色を呈す。底部は、回転ヘラ削り。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ 弱である。

56号土壌（第25・27図）

本遺構は、C-7グリッド内に検出された。平面形は、不明確である。規模も同様不明であるが、東西幅の長さは、1.29mを測る。遺物は附近から古銭が出土した。



第26図 52・54・55号土壌出土遺物

27-5 古銭。永楽通寶（真書体）。直径2.5cm。銅銭。

57号土壌（第25図）

本遺構は、C-7グリッド内に検出された。平面形・規模等詳細は、不明である。70号土壌と攪乱箇所とに切られているようである。

※ ビットは、後述する。

69号土壌（第28図）

本遺構は、C-6・D-6グリッドの最南に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられるが不明確である。規模は、A-A'断面の長さ1.44m、深さ52cmを測る。遺物はかわらけ・陶磁器・緑泥片岩等出土。

70号土壌（第28・29図）

本遺構は、C-7・D-7グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、A-A'断面の長さ1.60m、深さ52cmを測る。床面に溝が検出されたが、本遺構に伴うものかは不明である。遺物はかわらけ・土鍋等が出土した。

29-1 土鍋。頸部径11.4cm、胴部径22cm、残高12.7cm。細砂・粗粒砂（白砂粒）を多く含み、色調は、淡灰褐色を呈す。外面は、ナデ調整、内面には、ナデ痕有す。一対の把手を持ち、その下には突帯が周囲をまわる。外面下位は、黒くすすけている。胴部付近一部残存。

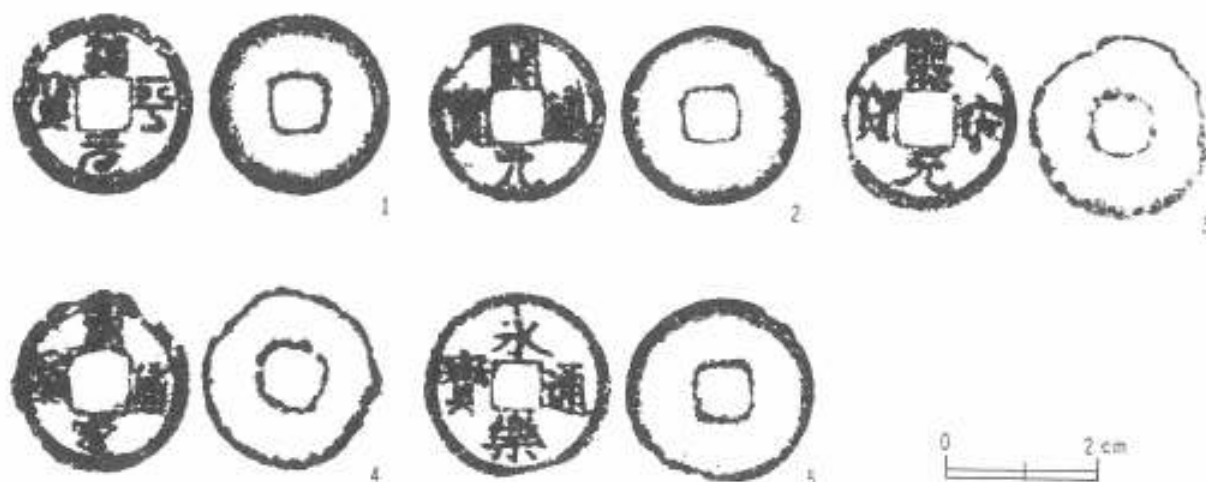
29-2 かわらけ。底径5.8cm、残高1.5cm。細粒砂を含み、色調は橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ である。

68号土壌（第30図）

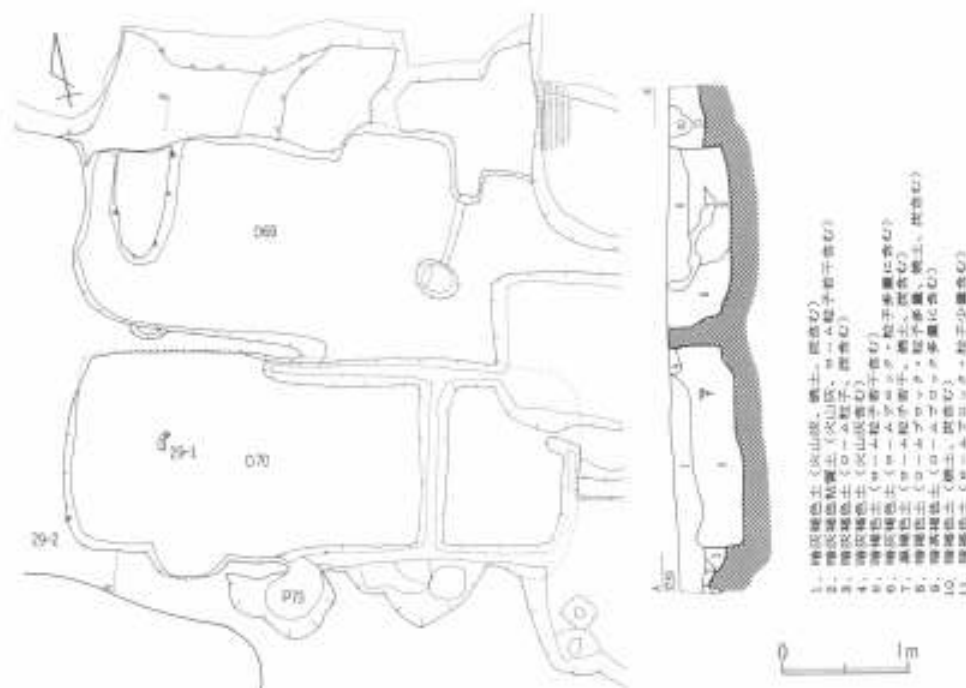
本遺構は、D-6・7グリッド内に検出された。本遺構は、67・71・72号土壌によって切られていると考えられる。平面形は、不明確である。規模は、A-A'断面から長さ22.5cmと推測され、深さ4.4cmを測る。遺物はかわらけが出土した。

71号土壌（第30図）

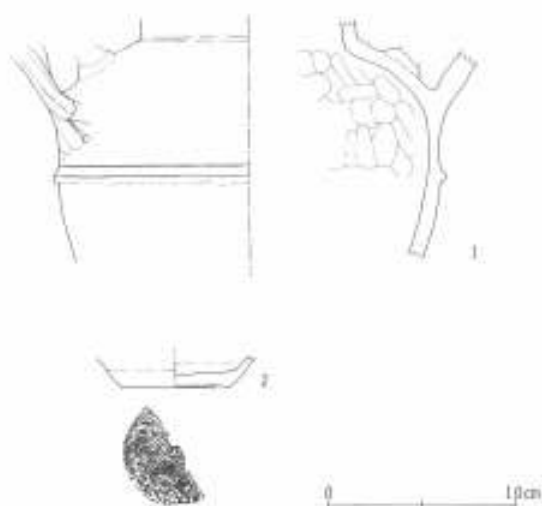
本遺構は、D-7グリッド内に検出され、68・72号土壌を切っている。平面形は、不明である。規模は、A-A'断面の長さ0.98m、深さ47cmを測る。遺物は土器等



第27図 52・56号土壌出土古銭



第28図 69・70号土壇、73号ピット



第29図 70号土壇出土遺物

が出土した。

72号土壇（第30図）

本遺構は、D-7グリッド内に検出された。71号土壇によって切られ、68号土壇を切っている。平面形は、方形を呈すと推定される。規模は、A-A'断面の長さ1.25m、深さ62cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

73号土壇（第30・31図）

本遺構は、D-7・E-7グリッドに検出された。平面形は不明である。規模も同様不明である。床面に、炭化材を含む黒色土の範囲が確認された。遺物はかわらけが出土した。

31-2 かわらけ。底径4.2cm、残高2.2cm。粗粒砂を含み、色調は暗灰褐色を呈すが、底部外面は暗灰色を呈す。底部は、右の回転糸切りで、柃目痕有す。底部のみ完存。（本遺構に伴うものか不明）

74号土壇（第30図）

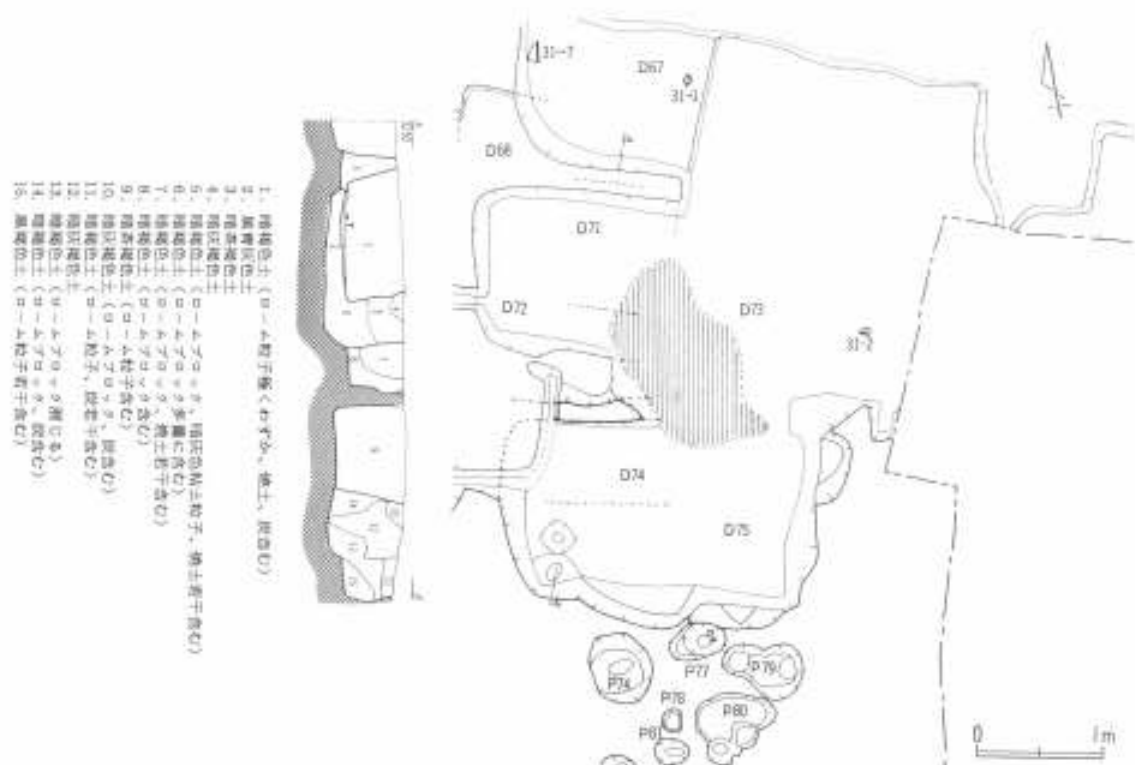
本遺構は、D-7グリッドに検出された。75号土壇を切っている。平面形は、不明である。規模は、A-A'断面の長さ0.80m、深さ55cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

75号土壇（第30図）

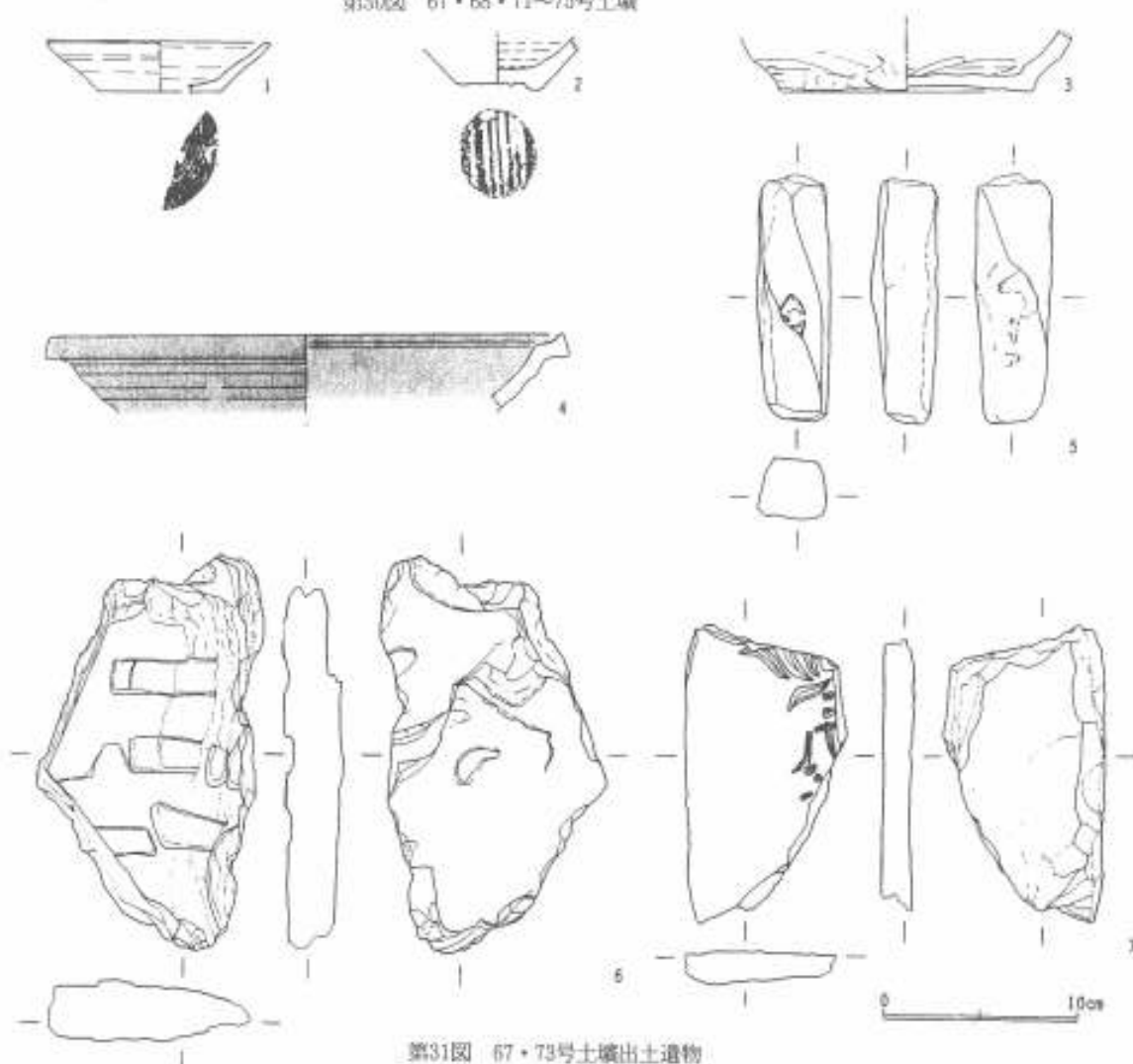
本遺構は、D-7グリッド内に検出された。74号土壇によって切られている。平面形は、方形を呈すと推測される。規模は、A-A'断面の長さ1.54m、南辺の長さ2.00m、深さ59cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

76号土壇（第32図）

本遺構は、E-7グリッド内に検出された。調査区域



第30図 67・68・71~75号土塊



第31図 67・73号土塊出土遺物

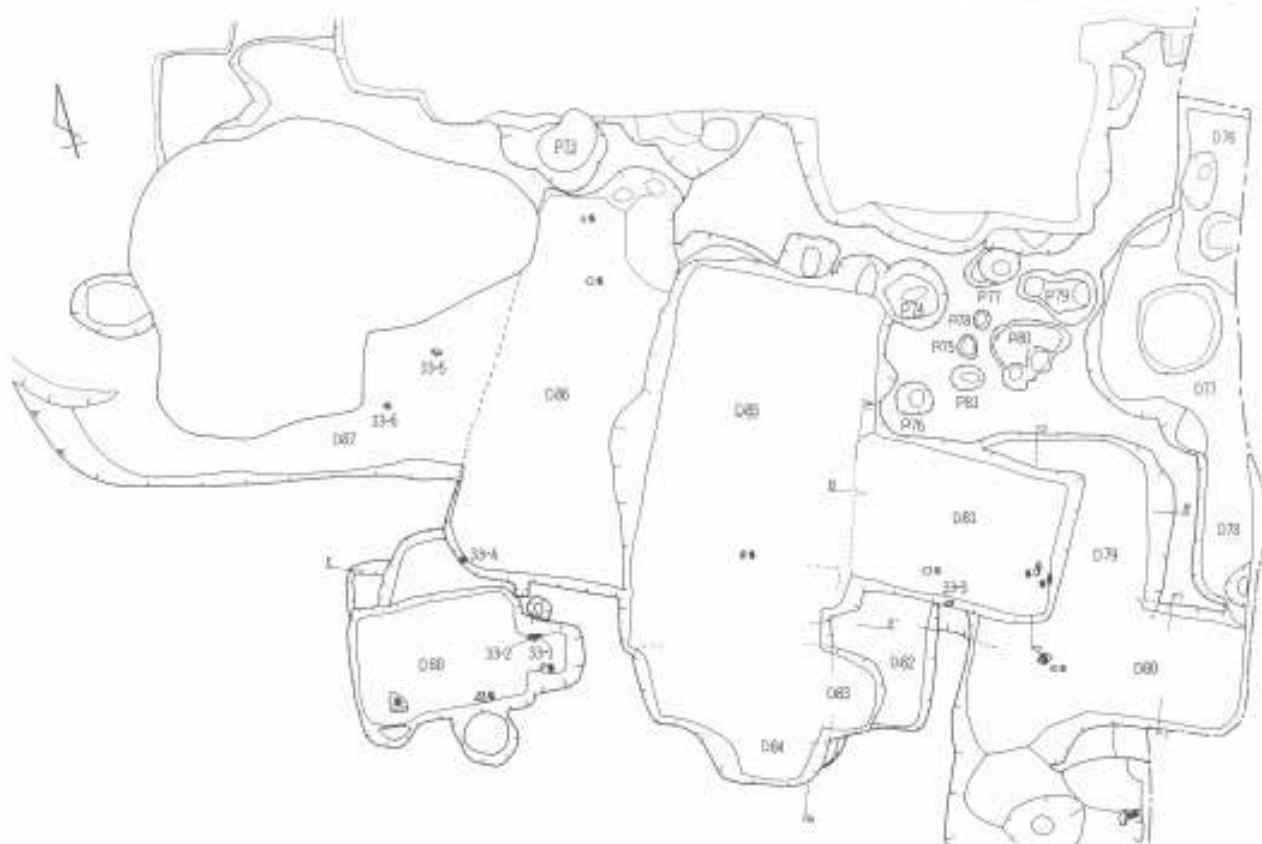
外まで広がると考えられる。平面形・規模とも不明。 である。遺物は検出されなかった。

77号土壌 (第32図)

本遺構は、F-7グリッド内に検出された。調査区域外まで広がると考えられ、平面形・規模とも不明確

78号土壌 (第32図)

本遺構は、E-8グリッド内に検出され、調査区域外まで広がると考えられ、平面形・規模とも不明確である。



1. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子、炭を含む)
2. 暗褐色土 (ロームブロック少量、粘土含む)
3. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
6. 暗褐色土
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土
9. 暗褐色土
10. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子、粘土、炭を含む)
11. 暗褐色土
12. 暗褐色土
13. 暗褐色土
14. 暗褐色土



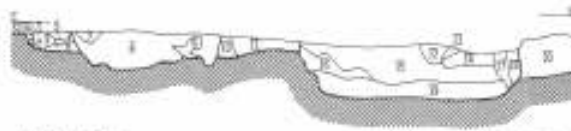
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 (ローム粒子少量含む)
3. 暗褐色土 (ロームブロックと暗褐色土の混合層、やや細かいもの)
4. 暗褐色土 (粘土、炭を含む、かたくしめる)
5. 暗褐色土 (やや細かいもの)
6. 暗褐色土 (粘土、炭を含む、かたくしめる)
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土
9. 暗褐色土 (粘土含む)
10. 暗褐色土 (ロームブロック含む)
11. 暗褐色土
12. 暗褐色土
13. 暗褐色土
14. 暗褐色土 (ローム粒子と暗褐色土の混合層)



1. 暗褐色土 (ローム粒子と炭を含む)
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土 (やや灰色味がある)
5. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子多量を含む、黄色味がある)



1. 暗褐色土 (ローム粒子少量、炭を含む)
2. 暗褐色土 (粘土を含む)
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土 (ローム粒子少量、炭を含む)
5. 暗褐色土 (ローム粒子少量、粘土、炭を含む)
6. 暗褐色土 (火山灰、炭を含む)
7. 暗褐色土 (ロームブロック含む)
8. 暗褐色土 (ロームブロックとの混合層に暗褐色土)
9. 暗褐色土
10. 暗褐色土 (ローム小粒子含む、炭を含む)
11. 暗褐色土 (ロームブロック少量、炭、粘土含む)
12. 暗褐色土



1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土
6. 暗褐色土
7. 暗褐色土
8. 暗褐色土 (粘土、炭を含む)
9. 暗褐色土 (ローム小粒子含む)
10. 暗褐色土 (ローム小粒子含む)
11. 暗褐色土 (ローム小粒子、炭を含む)
12. 暗褐色土 (ロームブロック含む)
13. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む、やや灰色味がある)

14. 暗褐色土 (ロームブロックが土の層、しりとりがない)
15. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む、炭を含む)
16. 暗褐色土
17. 暗褐色土 (ロームブロック含む)
18. 暗褐色土 (炭を含む)
19. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
20. 暗褐色土 (ロームブロック・粒子、炭を含む)

第32図 76～88号土壌、73～81号ピット

0 10m

79号土壌（第32図）

本遺構は、D-8・E-8グリッド内に検出された。81号土壌によって切られている。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、不明確だが、北辺は1.40m、深さ30cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

80号土壌（第32図）

本遺構は、D-8・E-8グリッド内に検出された。平面形は、調査区域外へ広がると考えられるが、方形を呈すと推測される。規模は、C-C'断面の長さ0.85m、深さ26cmを測る。遺物はかわらけ・陶磁器出土。

81号土壌（第32・33図）

本遺構は、D-8グリッド内に検出された。79号土壌を切っている。平面形は、長方形を呈す。規模は、北辺の長さ1.80m、東辺1.17m、D-D'断面の長さ1.19m、深さ56cmを測る。遺物は土師器が出土した。
33-3 坏（土師器）。口径11.6cm、残高2.7cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ 。

82号土壌（第32図）

本遺構は、D-8グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと推測される。規模は不明である。E-E'断面で深さ21cmを測る。遺物は検出されなかった。

83号土壌（第32図）

本遺構は、D-8グリッド内に検出された。平面形は不明確であるが、方形を呈すと考えられる。規模は不明である。遺物はかわらけ・陶磁器片が出土した。

84号土壌（第32図）

本遺構は、D-8グリッド内に検出された。平面形は、不明である。規模も不明である。A-A'断面の深さ43cmを測る。遺物は土器が出土した。

85号土壌（第32図）

本遺構は、D-7・8グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、北辺1.60m、深さ45cmを測る。遺物はかわらけ・陶磁器等土器が出土した。

86号土壌（第32図）

本遺構は、D-7・8グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物はかわらけが出土した。

33-4 かわらけ。底径5.0cm、残高1.4cm。粗粒砂・中粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、外面が回転糸切り、内面が指ナデ痕有す。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ である。

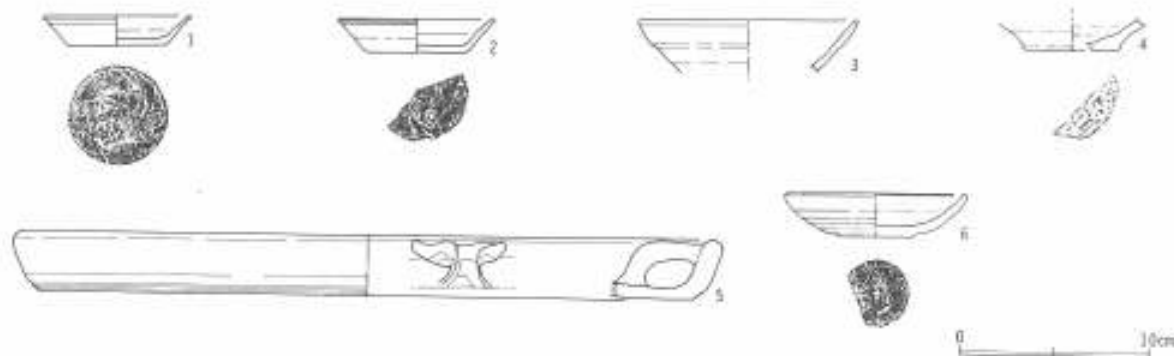
87号土壌（第32・33図）

本遺構は、C-7グリッド内に検出された。平面形・規模とも不明確である。攪乱箇所に切られているようである。遺物は内耳土器・陶磁器が出土した。

33-5 内耳土器。口径36.8cm、底径34.6cm、器高3.1cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。黒くすすけている部分がある。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

33-6 小皿（瀬戸・美濃）。口径9.4cm、底径4.0cm、器高2.3cm。油皿。鉄軸。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

88号土壌（第32・33図、図版4・5）



第33図 81・86・87号土壌出土遺物

本遺構は、C-8・D-8グリッド内に検出された。平面形は、長方形の変形を呈す。規模は、西辺0.97m、北辺1.20m、南辺1.73mである。遺物はかわらけが出土した。

33-1 かわらけ。口径7.6cm、底径5.3cm、器高1.5cm。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は明橙褐色を呈す。底部は、右の回転系切り。完形である。

33-2 かわらけ。口径8.2cm、底径5.2cm、器高1.8cm。細粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、右の回転系切り。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

※ ビットは、後述する。

99号土壌 (第34・35図、図版4)

本遺構は、B-8グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物は瓦が出土した。

35-1 丸瓦。残長6.9cm、(残幅7.2cm)、厚さ1.6~1.7cm。土師質。凹面は布目痕を有すが、不明瞭。凸面は格子叩きを施す。細礫・粗粒砂を含み、淡褐色を呈す。

35-2 平瓦。残長6.3cm、残幅4.9cm、厚さ1.6~1.7cm。土師質。凹面は1cmあたり6×7本の布目痕を有し、凸面はナデられている。中粒砂・細粒砂を含み、暗赤褐色を呈す。

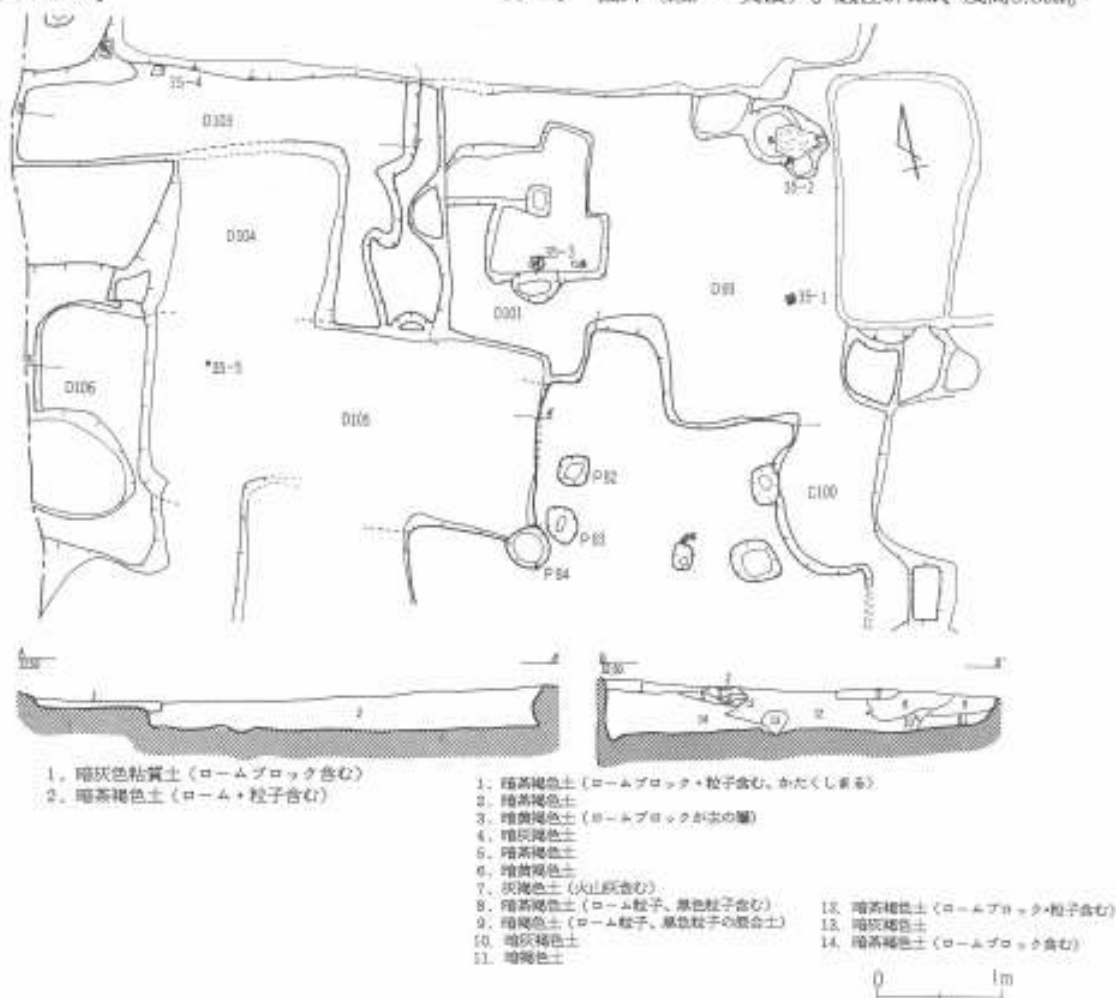
100号土壌 (第34図)

本遺構は、B-8グリッド内に検出された。平面形は、不明である。規模も不明である。

101号土壌 (第34・35図、図版2・4)

本遺構は、B-8グリッド内に検出された。平面形は、不明確であるが、方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物は揺鉢が出土した。

35-3 揺鉢 (瀬戸・美濃)。底径9.4cm、残高3.8cm。



第34図 99~101・103~106号土壌、82~84号ビット

105号土壤 (第34・35页)

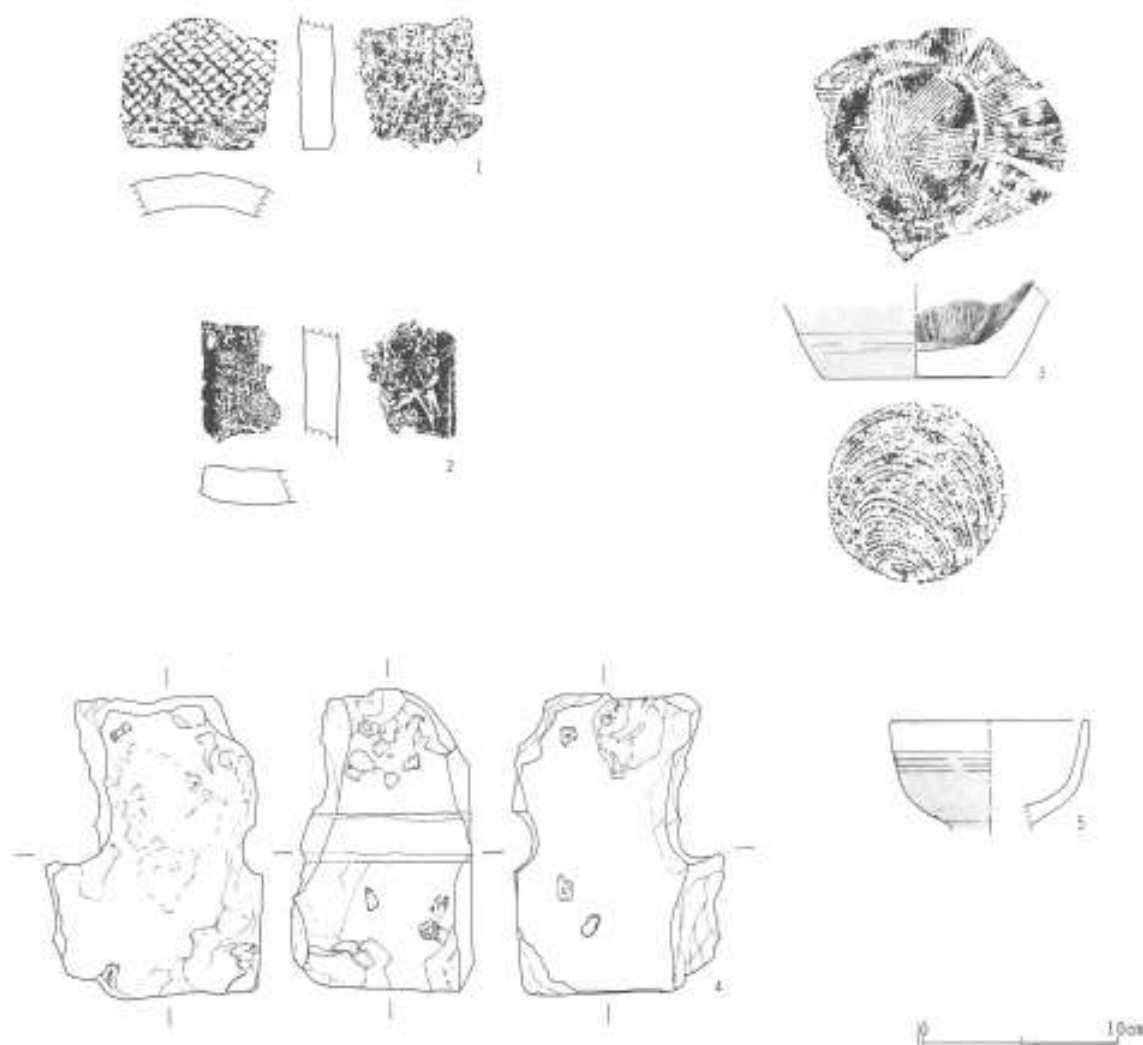
本遺構は、A-8・B-8グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、東辺1.50m、A-A'断面の長さ3.16m、深さ30cmを測る。遺物は陶磁器が出土した。

35-5 碗(瀬戸・美濃)。口径9.8cm、残高5.6cm。腰
筋茶碗。外面の下半に鉄釉が施される。残存率は、 $\frac{1}{4}$
である。

106号土壤 (第36图)

本遺構は、A-8グリッドに検出された。平面形は、不明確である。規模は、A-A'断面の長さ1.01m、深さ7cmを測る。遺物は検出されなかった。

本遺構は、A-8・B-8グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、北辺1.32mである。遺物はかわらけ等が出土した。



第35图 99·101·103·105号土城出土遗物

※ ビットは、後述する。

90号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッドに検出された。平面形は、隅丸の正方形を呈す。規模は、長径1.27m、短径1.22m、深さ約64cmを測る。遺物は土器が出土した。

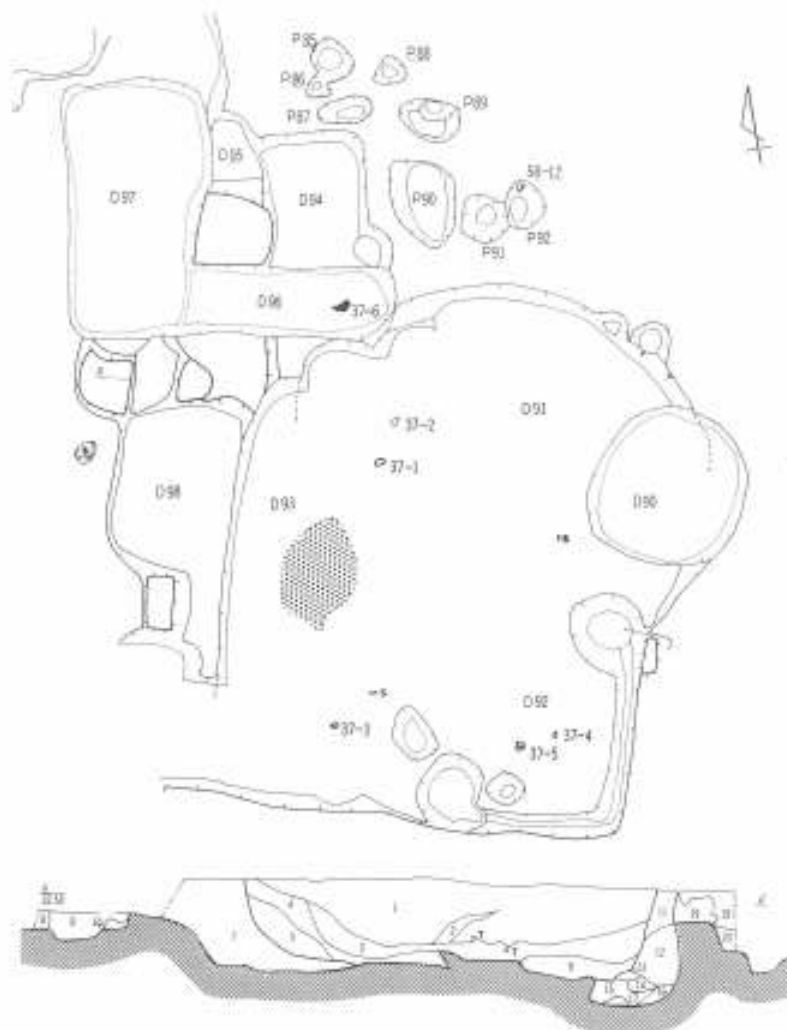
91号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッドに検出された。平面形は、

不明である。規模は、A-A'断面の長さ3.28m、深さ約40cmを測る。遺物は陶磁器片が出土した。

92号土坑（第36・37図）

本遺構は、C-9グリッド内に検出された。平面形は、不明である。規模も不明である。床面に溝が検出されたが、本遺構に伴うものか不明である。遺物は須恵器・陶磁器等が出土した。



- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1. 暗赤褐色土（ロームブロック、暗灰色粘土ブロック、火山灰含む） | 14. 厚褐色土（やわらかくもろい） |
| 2. 暗灰色土 | 15. 暗褐色土（ロームブロック含む） |
| 3. 暗赤褐色土（ロームブロック・粘土多量、火山灰含む） | 16. 暗褐色土（焼土含む） |
| 4. 暗灰色土（火山灰含む） | 17. 暗灰色土 |
| 5. 暗赤褐色土（ロームブロック・粘土多量、火山灰含む） | 18. 暗褐色土 |
| 6. 暗灰色土 | 19. 赤褐色土 |
| 7. 暗褐色土（ロームブロック・粘土、焼土、炭含む） | 20. 暗褐色土 |
| 8. 暗赤褐色土（ローム粘土多量を含む） | |
| 9. 暗赤褐色土 | |
| 10. 暗赤褐色土 | |
| 11. 暗褐色土（ローム粘土、焼土、炭を含む） | |
| 12. 暗褐色土 | |
| 13. 淡黄褐色土 | |

第36図 90～98号土坑、85～92号ビット

37-4 壺（須美？）。口径17.2cm、残高3.3cm。粗粒砂を含み、色調は、外面が暗灰褐色、内面が黒色を呈す。内面に釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

37-5 大皿（織部）。底径13.4cm、残高1.5cm。残存率は、底部の $\frac{1}{5}$ である。

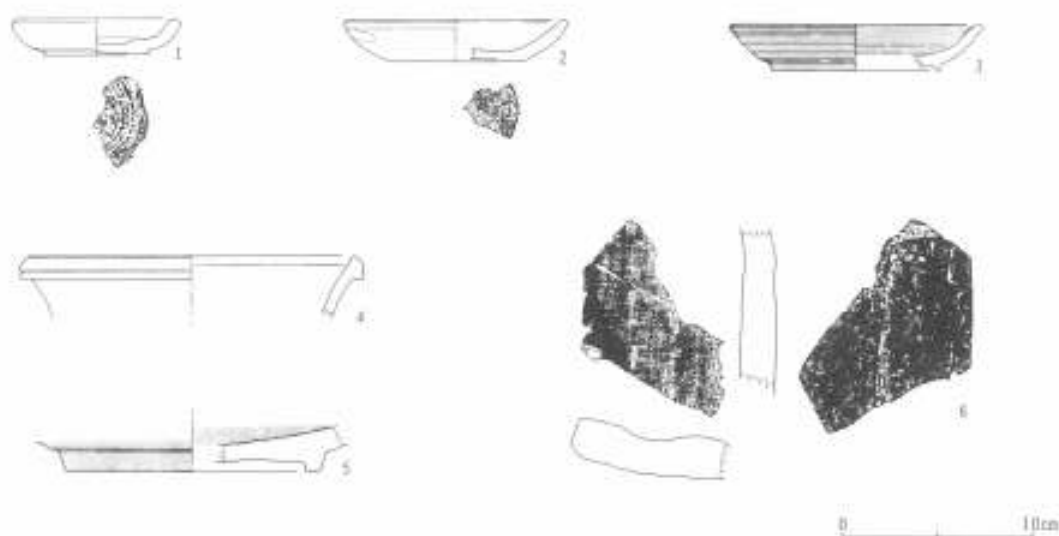
93号土坑（第36・37図）

本遺構は、C-8・9グリッド内に検出された。平面形は、不明である。規模も不明ではあるが、A-A'断面より深さ約33cmを測る。焼土が多く出土した箇所が存在する。遺物はかわらけ・陶磁器等が出土した。

37-1 かわらけ。口径8.2cm、底径5.6cm、器高1.9cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は、内面に指ナデ痕有し、外面は回転糸切りである。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。

37-2 かわらけ。口径11.4cm、底径7.0cm、器高2.2cm。粗粒砂・中粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。

37-3 小皿（瀬戸・美濃）。口径13.2cm、底径9.0cm、器高2.5cm。長石釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ 。



第37図 92・93・96号土坑出土遺物

94号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、北辺0.82mを測る。遺物は検出されなかった。

98号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッド内に検出された。平面形は、長方形あるいは方形を呈すと考えられる。北辺1.00m、西辺1.09mを測る。遺物は土器が出土した。

95号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッド内に検出された。平面形・規模とも不明である。94・97号土坑によって切られているようである。遺物は検出されなかった。

96号土坑（第36・37図）

本遺構は、C-8グリッド内に検出され、94号土坑を切り、97号土坑によって切られている。平面形は、隅丸の長方形を呈すと考えられる。規模は、短軸0.54mを測る。遺物は瓦等が出土した。

37-6 平瓦。残長13.1cm、残幅9.1cm、厚さ1.7~2.2cm。須恵質。凹面は1cmあたり7×8本の布目痕を有し、凸面はナデられている。細砂・粗粒砂を含み、暗灰色を呈す。

97号土坑（第36図）

本遺構は、C-8グリッドに検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長辺1.93m、北辺1.05m、南辺0.85mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

※ ビットは、後述する。



第38図 109号土坑

109号土壙（第38・39図、図版2・4）

本遺構は、調査区南西、調査区域外に接するA-9グリッド内に検出された。平面形は、不整形な方形を呈すと考えられる。規模は、東辺約1.50mを測る。遺物は瓦が出土した。

39-1 軒平瓦（重弧文軒平瓦）。残長11.5cm、残幅7.6cm、厚さ2.5~3.7cm。土師質。凹面は1cmあたり8×8本の布目痕を有し、橙褐色を呈す。凸面は、顎部分に大きめの斜格子叩き、他に、細かい斜格子叩きが見られ、灰褐色を呈す。粗粒砂・中粒砂を含む。

39-2 軒平瓦（重弧文軒平瓦）。残長9.0cm、残幅10.8cm、厚さ3.1~4.3cm。土師質。凹面は1cmあたり9×8本の布目痕を有し、橙褐色を呈す。凸面は、顎部分に大きめの斜格子叩きが見られ、灰褐色を呈

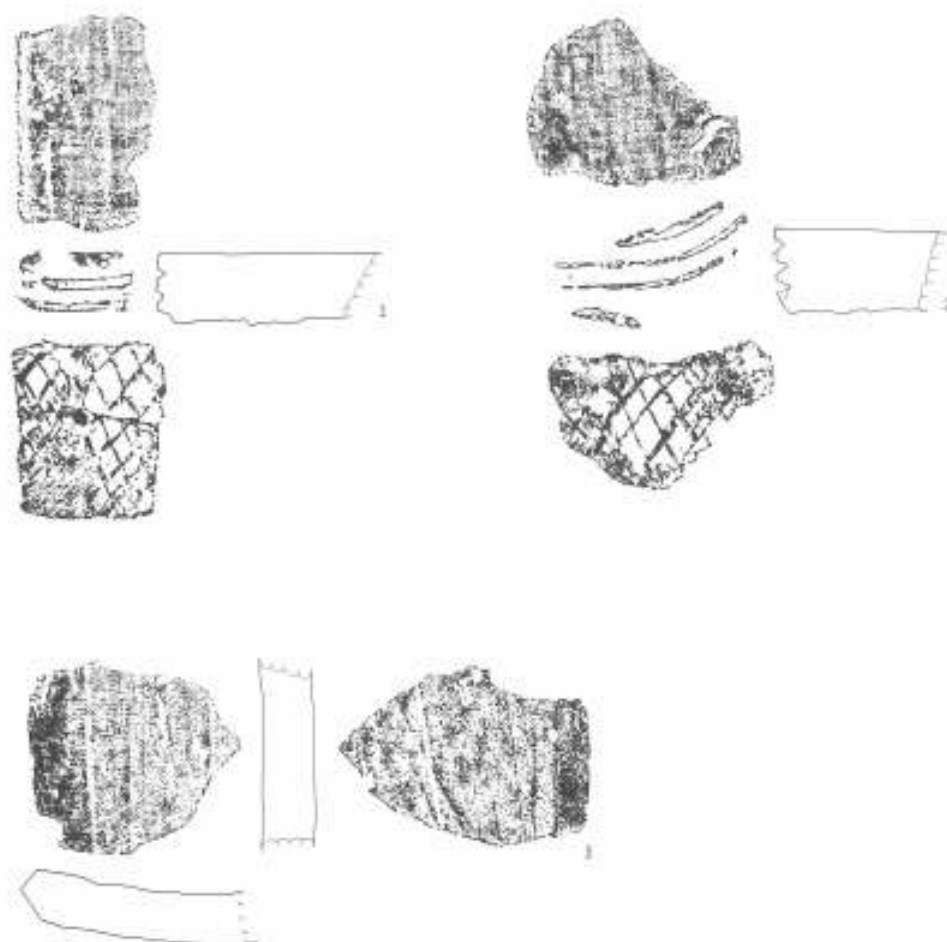
す。粗粒砂・中粒砂を含む。

39-3 平瓦。残長10.5cm、残幅11.5cm、厚さ2.6~2.8cm。須恵質。凹面は1cmあたり9×7本の布目痕を有し、凸面はナデられている。細礫・粗粒砂を含み、暗灰色を呈す。

107号土壙（第40・41図）

本遺構は、B-8・9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、北辺1.22mを測る。遺物は瓦等が出土した。

41-3 丸瓦。残長8.4cm、厚さ1.4~1.7cm。須恵質。凹面は1cmあたり6×7本の布目痕を有し、凸面は格子叩きを施す。細礫・粗粒砂・中粒砂を含み、色調は暗灰色を呈す。



第39図 109号土壙出土遺物

108号土壌（第40図）

本遺構は、A-8・9グリッド内に検出され、調査区域外に接している。平面形・規模は不明。遺物は検出されなかった。

110号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模はB-B'断面の長さ0.74m、深さ35cm、東辺0.72mを測る。遺物は土器・炭化材が

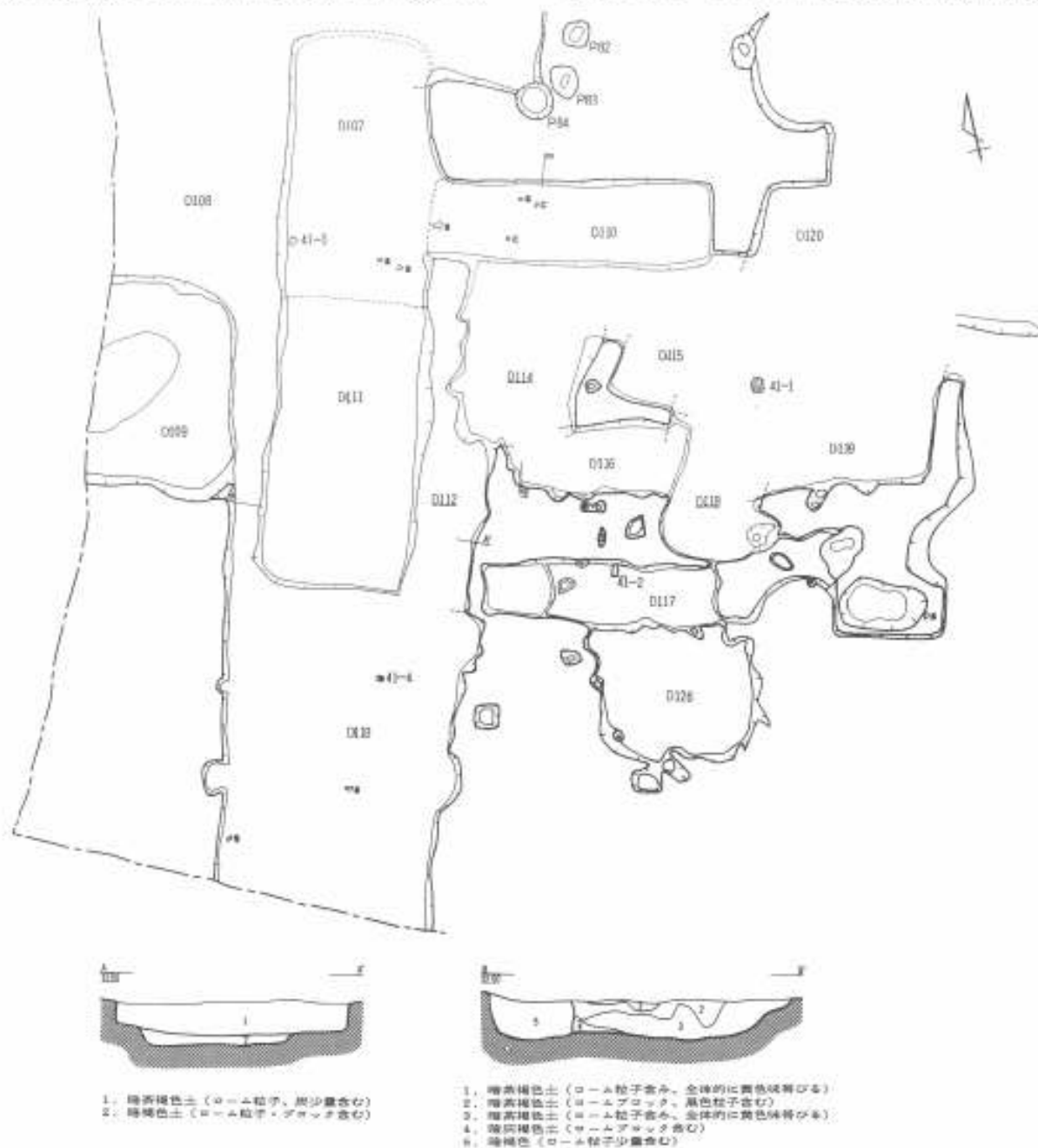
出土した。

111号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、南辺1.38m、A-A'断面の長さ1.40mを測る。遺物はかわらけが出土した。

112号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、



第40図 107・108・110～120号土壌

不明確である。規模は、A-A' 断面の長さ2.13m、深さ30cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

113号土壌（第40・41図、図版3）

本遺構は、調査区南西部、調査区域外に接する箇所に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、東西幅1.98mを測る。遺物はかわらけが出土した。

41-4 かわらけ。口径6.6cm、底径3.4cm、器高2.1cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は、右の回転糸切りで、内面には指ナデ痕有す。残存率は、60%である。

114号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、不明確ではあるが、深さ35cmを測る。遺物は土器が出土した。

115号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッドに検出された。平面形は、

方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物は検出されなかった。

116号土壌（第40図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長辺1.43m、短辺0.67mを測る。遺物はかわらけ・陶磁器片が出土した。

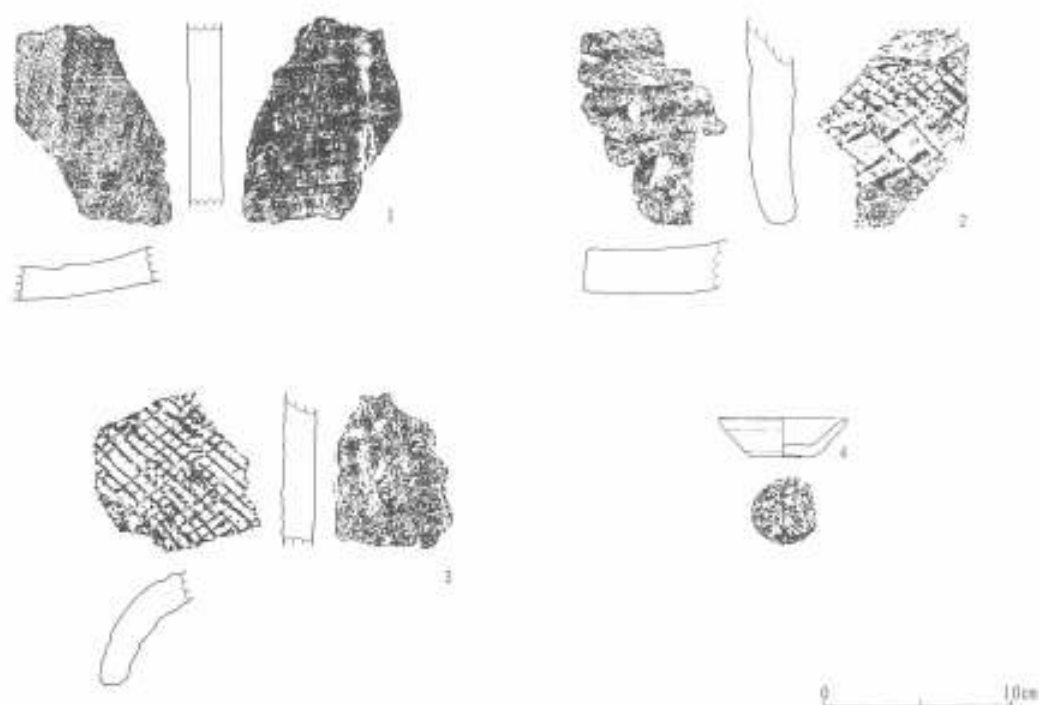
117号土壌（第40・41図）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長辺2.20m、東辺0.55m、西辺0.45mを測る。遺物は瓦等が出土した。

41-2 平瓦。残長10.8cm、残幅7.5cm、厚さ2.3~2.4cm。須恵質。凹面はナデられている。凸面は大・小の格子叩きが施されている。細礫・粗粒砂を含み、色調は暗灰色を呈す。

118号土壌（第40・41図、図版3）

本遺構は、B-9グリッド内に検出された。平面形は、不明確であるが、方形を呈すと考えられる。規模は、



第41図 107・113・117・118号土壌出土遺物

不明である。遺物は瓦等が出土した。

41-1 平瓦。残長10.9cm、残幅8.1cm、厚さ1.5~1.8cm。土師質。凹面は1cmあたり6×6本の布目痕を有し、凸面はナデられている。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は暗橙褐色を呈す。

119号土坑（第40図）

本遺構は、B-9・C-9グリッド内に検出された。平面形は、方形状を呈すと考えられる。規模は、不明

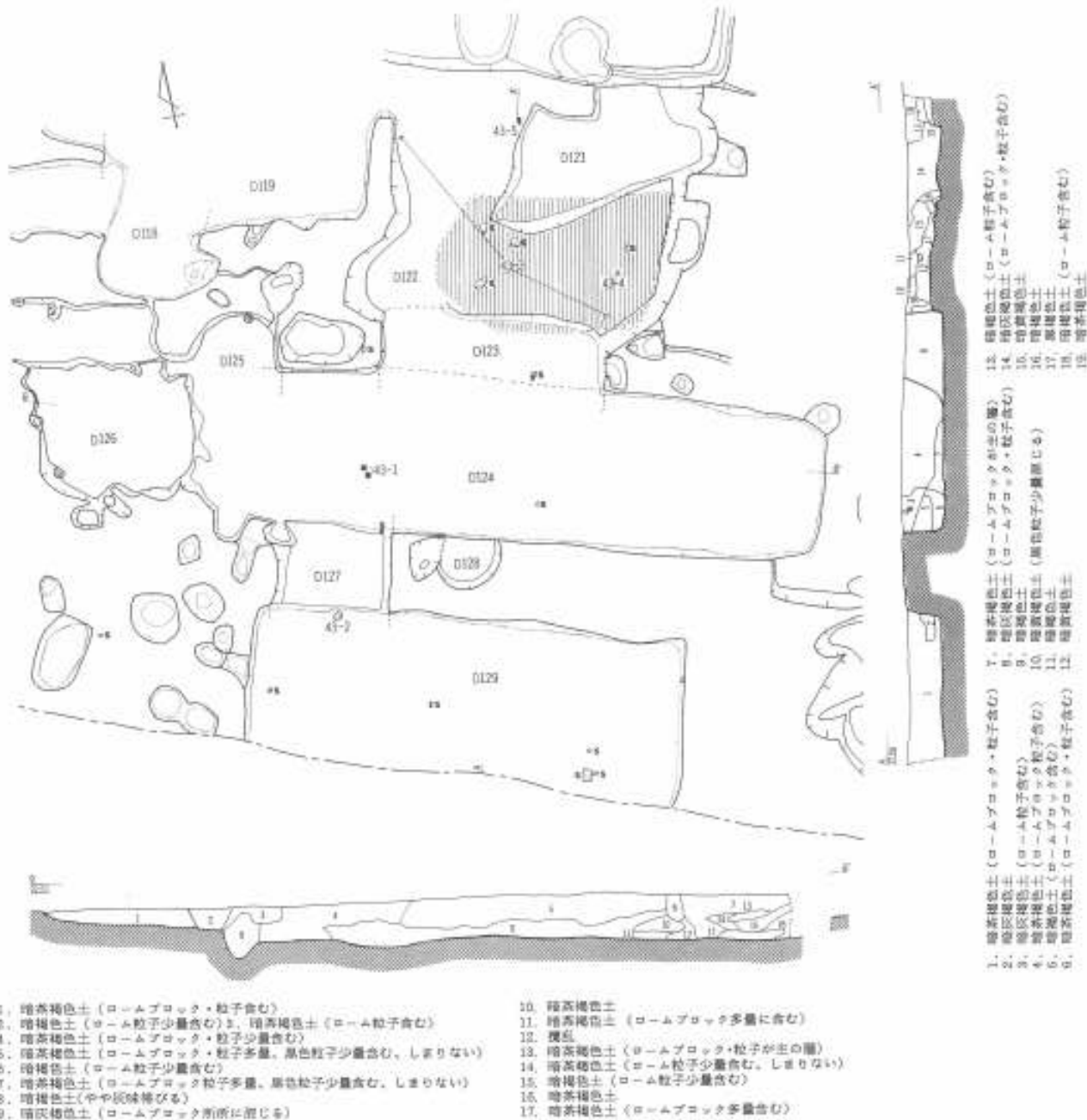
である。遺物は土器等が出土した。

120号土坑（第40図）

本遺構は、B-9・C-9グリッド内に検出された。平面形は、方形状を呈すと考えられる。規模は、不明。遺物は土器等が出土した。

121号土坑（第42・43図）

本遺構は、C-9グリッド内に検出された。平面形は、



第42図 121~129号土坑

不明確である。規模も不明確ではあるが、深さ26cmを測る。遺物は瓦等が出土した。

43-5 丸瓦。残長5.3cm、厚さ1.6cm。須恵質。凹面は1cmあたり7×7本の布目痕を有し、凸面は格子叩きを施す。細礫・粗粒砂を含み、暗灰色を呈す。

122号土壤(第42·43图、图版5)

本遺構は、C-9グリッド内に検出された。平面形は、不明確である。規模も不明確であるが、深さ24cmを測る。遺物は須恵器・瓦等が出土した。

43-3 坏(須恵器)。口径12.2cm、残高4.0cm。粗粒砂を含み、明灰色を呈す。内外面ともナデ調整。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ である。

43-4 平瓦。残高13.9cm、残幅13.5cm、厚さ1.7~2.2cm。須恵質。凹面は1cmあたり9×7本の布目痕を有し、凸面は縄叩きを施す。細礫・粗粒砂・中粒砂を含み、色調は暗灰色を呈す。

123号十壩 (第42页)

本遺構は、C-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形あるいは方形を呈すと考えられる。規模は、北辺19.5cm、A-A'断面より深さ36cmを測る。遺物

124号土壤 (第42・43图)

本遺構は、C-9・10グリッドに検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長辺5.53m、短辺1.08m。A-A'断面の長さ1.43m、深さ39cmを測る。遺物はかわらけが出土した。

43-1 かわらけ。口径9.0cm、底径6.0cm、器高2.2cm。
中粒砂を含み、色調は暗橙褐色を呈す。底部は、右の
回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

125号土壤 (第42图)

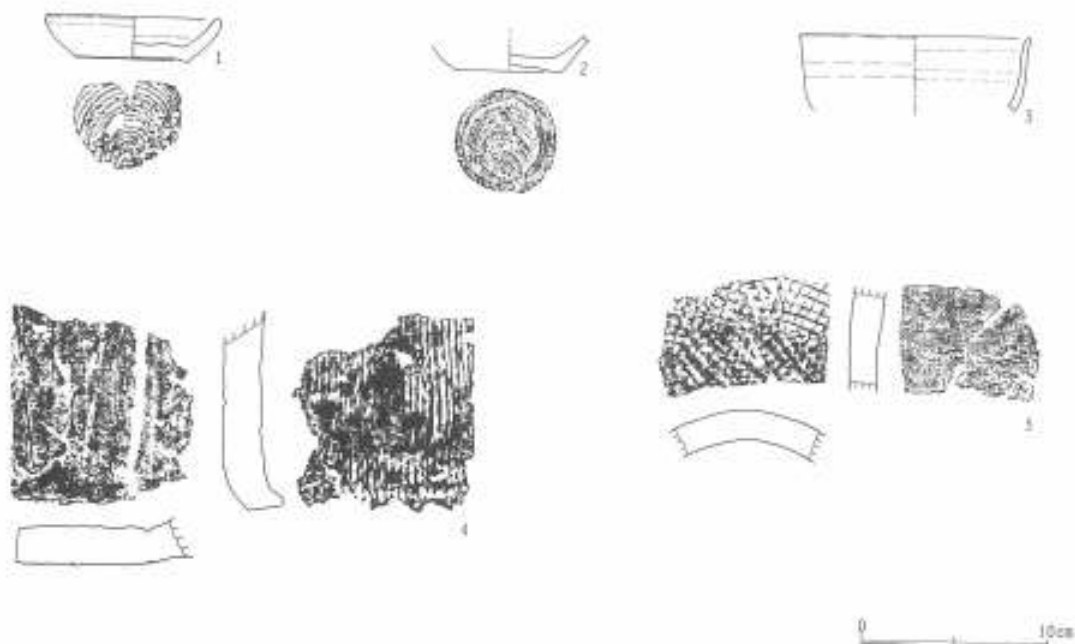
本遺構は、B-9 グリッドに検出された。平面形・規模とも不明である。遺物は検出されなかった。

126号土塘 (第42图)

本遺構は、B-9グリッドに検出された。平面形は、隅丸の方形状を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物はかわらけが出土した。

127号土壩 (第42図)

本遺構は、C-10グリッド内に検出された。平面形は、



第43图 122·124·129·141号土墙出土遗物

129号土壌（第42・43図）

本遺構は、C-10グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、長辺3.95m、A-A'断面より深さ34cmを測る。遺構は調査区域外へ広がると考えられる。遺物はかわらけが出土した。
43-2 かわらけ。底径5.6cm、残高1.8cm。中粒砂を含み、暗橙褐色を呈す。底部内面は黒くこげている。底部は右の回転糸切り。底部のみ完存。

あるが、A-A'断面より深さ18cmを測る。床面にピットが検出された。遺物はかわらけ等が出土した。

131号土壌（第44図、図版3）

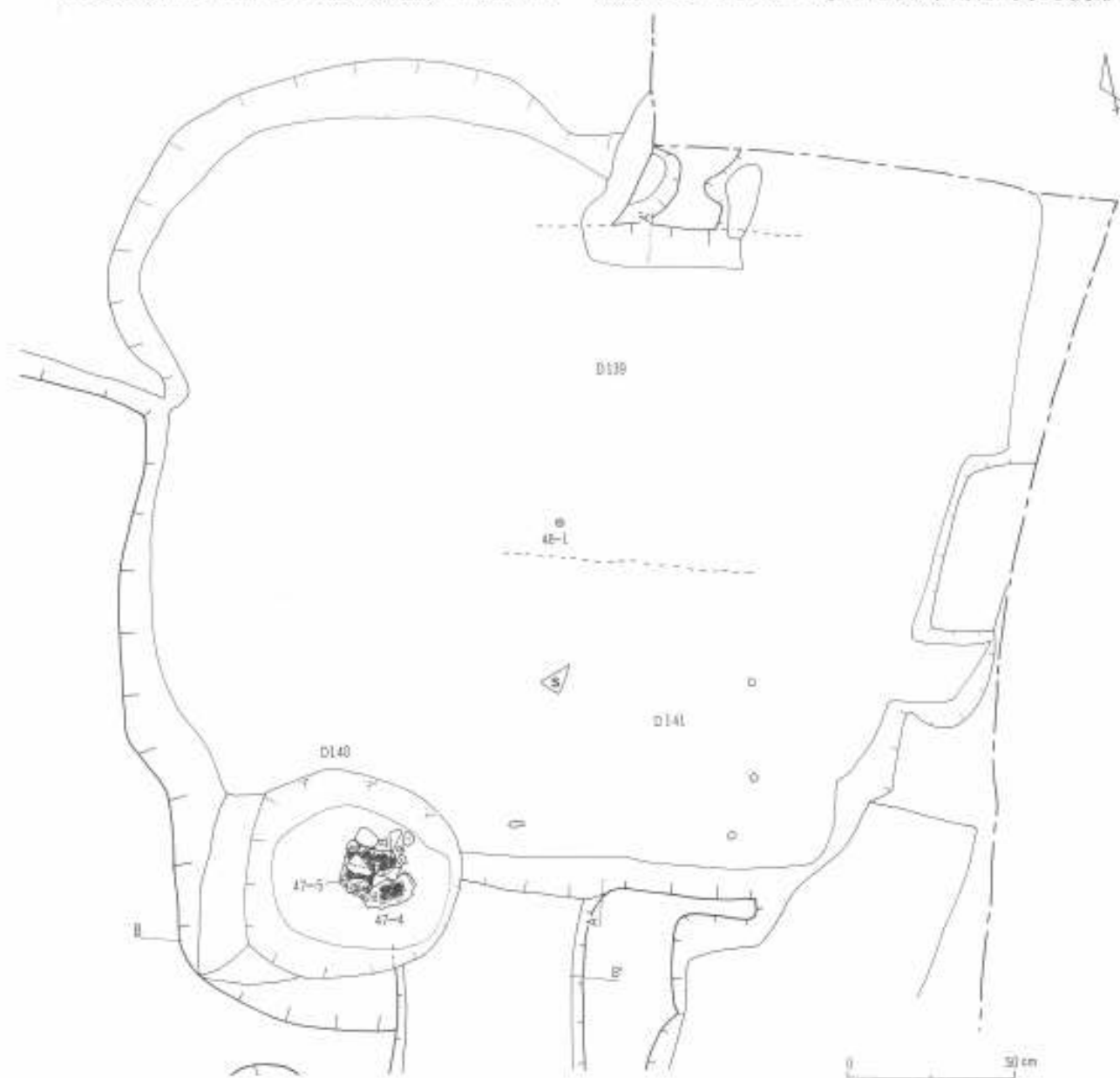
本遺構は、D-9グリッド内に検出された。132・138号土壌を切っている。平面形は、隅丸の長方形を呈す。規模は、長軸2.01m、短軸0.46m、深さ28cmを測る。遺物はかわらけが出土した。

89号土壌（第44図、図版3）

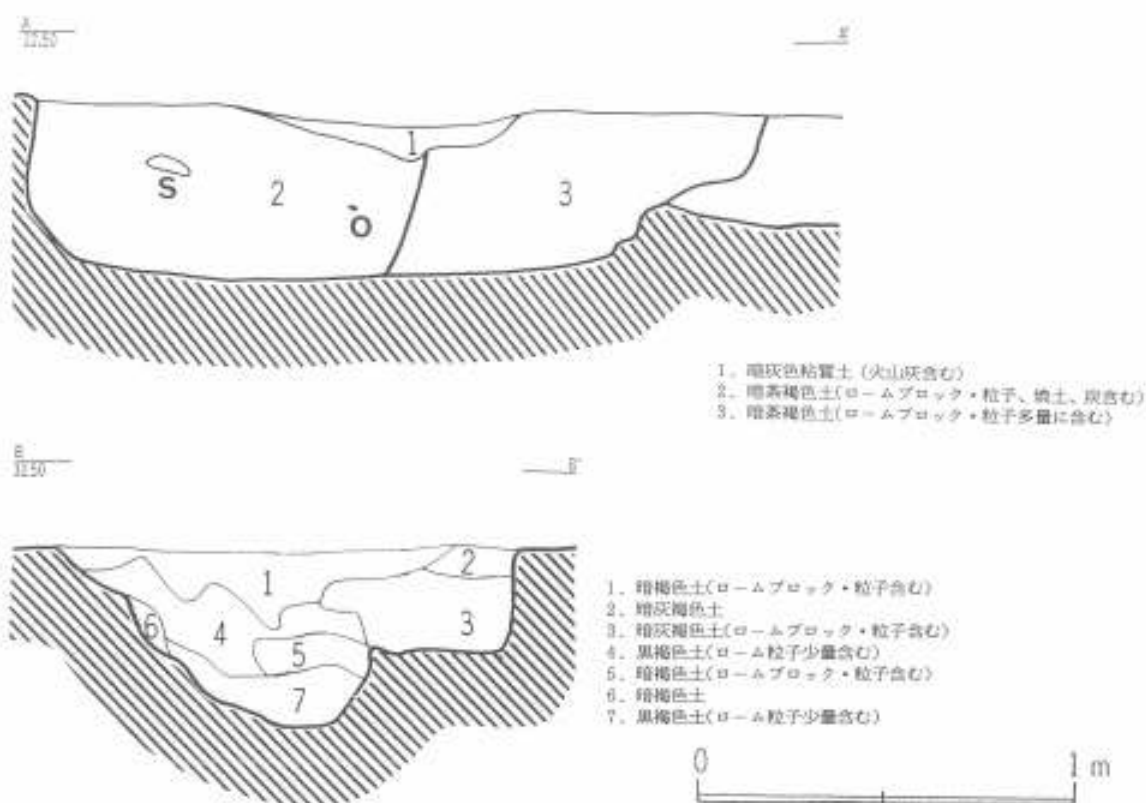
本遺構は、D-8グリッド内に検出された。平面形は、方形状を呈すと考えられる。規模は、不明確では

132号土壌（第44図、図版3）

本遺構は、D-9グリッド内に検出された。131号土壌によって切られている。平面形は、南北に長い長方形



第45図 139～141号土壌



第46図 139～141号土壌断面図

を呈すと推定される。規模は、短軸0.38m、深さ22cmを測る。遺物は検出されなかった。

133号土壌(第44・47図、図版3)

本遺構は、D-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長軸2.74m、B-B'断面の長さ1.27m、深さ42cmを測る。中央より北部に川原石の集中する箇所を検出した。遺物はかわらけ等が出土した。

47-1 かわらけ。口径13.4cm、残高2.9cm。細礫・中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の1/2。

134号土壌(第44・47図、図版3)

本遺構は、D-9グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、短軸0.84mを測る。遺物は土鏝・かわらけ等が出土した。

47-3 土鏝。残長6.6cm、最大幅2.8cm、孔径1.4cm。中粒砂を含み、暗黄褐色を呈す。一部黒色にこけて

いる。残存率は、40%程である。

135号土壌(第44図、図版3)

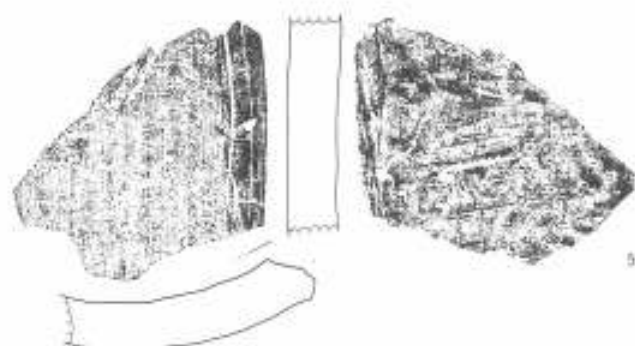
本遺構は、C-9・D-9グリッド内に検出された。134号土壌によって切られている。平面形は、長方形を呈す。南西辺の長さ0.95mを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

136号土壌(第44図、図版3)

本遺構は、D-9グリッド内に検出された。平面形は、楕円形を呈す。規模は、長軸0.96m、短軸0.73m、深さ13cmを測る。中央部にピット検出。遺物は検出されなかった。

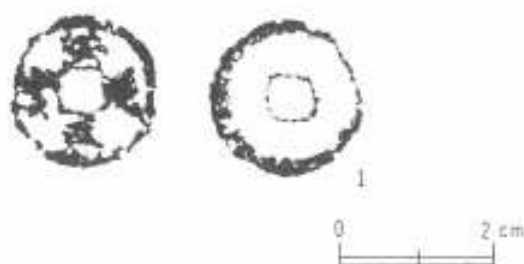
137号土壌(第44・50・52図、図版3・6)

本遺構は、D-9・10グリッド内に検出された。124・133・135号土壌によって切られているようである。平面形は、方形状を呈すと推定される。規模は、不明確であ

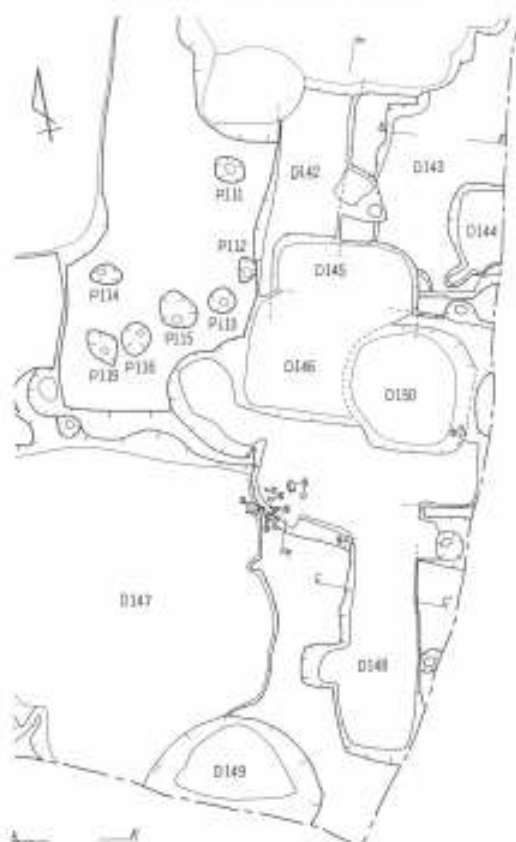


0 10cm

第47図 133・134・138・140号土壙出土遺物



第48図 139号土層出土古銭



1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色土（ローマブロック若干含む）



1. 暗褐色土（ローマ粒子含む）
2. 暗灰褐色土
3. 暗黄褐色土（ローマブロック・粒子多量、礫土含む）
4. 暗褐色土（ローマ粒子含む）



1. 暗茶褐色土（やや粘性もつ）
2. 暗褐色土
3. 暗灰褐色土
4. 暗褐色土（やや粘性もつ）

第49図 142～150号土層、111～116・119号ピット

るが、深さ18cmを測る。床面にビットが検出された。遺物はかわらけが出土した。

52-5 かわらけ。口径12.6cm、底径5.5cm、器高4.1cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡褐色呈す。口縁部にタール付着。底部は、右の回転糸切りである。残存率は、98%である。

138号土層（第44・47図、図版3）

本遺構は、D-9グリッドに検出された。141号土層によって切られている。平面形は、隅丸の長方形を呈すと考えられる。規模は、短軸1.93mを測る。遺物は須恵器等が出土した。

47-2 壺（渥美?）。口径18.6cm、残高3.3cm。細礫・粗粒砂（白砂粒）を含み、色調は、暗灰褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

139号土層（第45・46・48図、図版3）

本遺構は、D-9・E-9グリッド、141号土層内に検出された。平面形は、不明である。規模は、A-A'断面の長さ1.05m、深さ46cmを測る。遺物は古銭が出土した。

48-1 古銭。天定通寶（真書体）。直径2.1cm。銅銭。

140号土層（第45～47図、図版3・5）

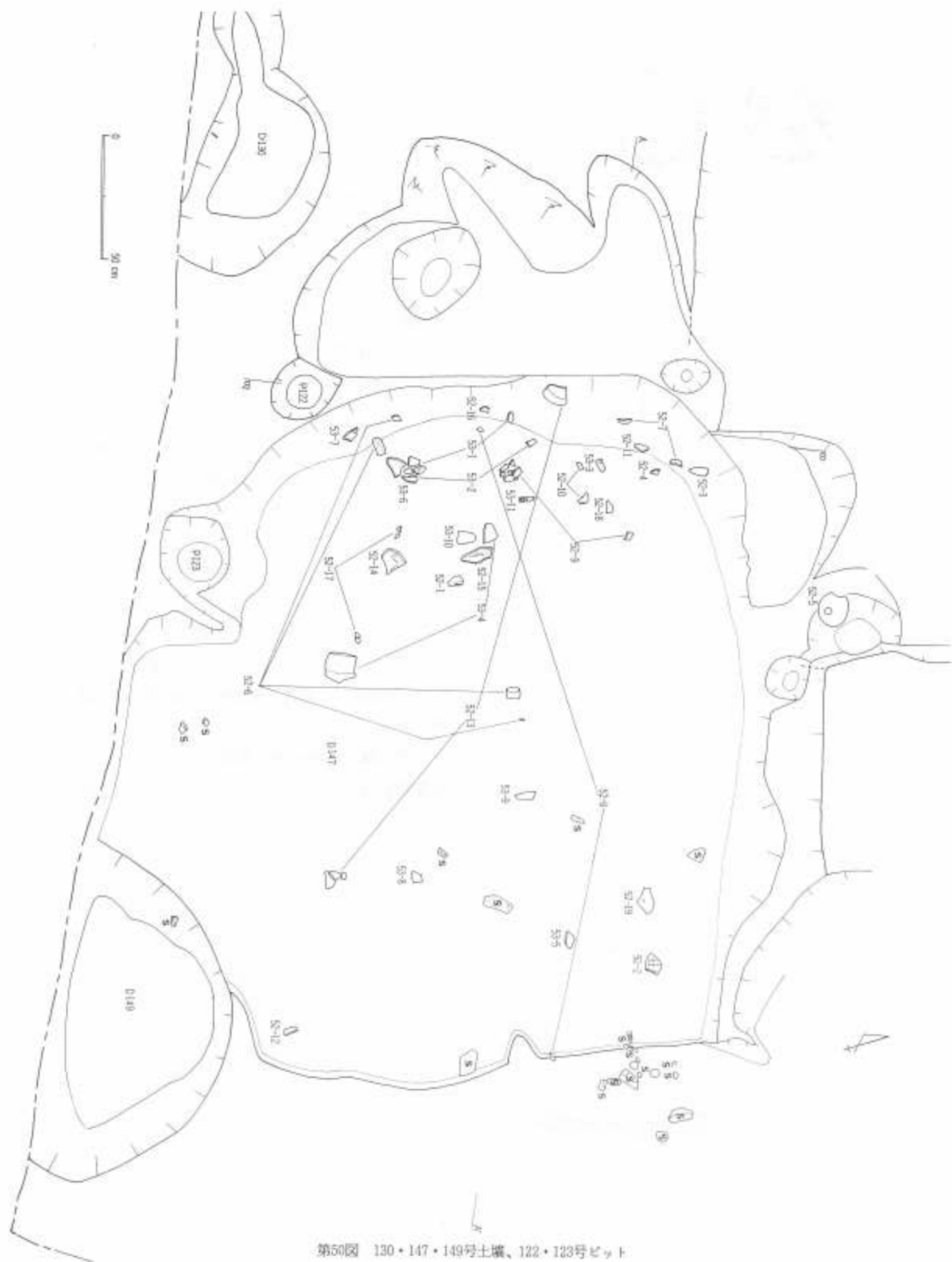
本遺構は、D-9グリッド内に検出された。平面形は、不明確である。規模も不明確ではあるが、B-B'断面より深さ45cmを測る。遺物は一ヶ所から瓦片が多量に出土した。

47-4 平瓦。残高31.4cm、残幅18.0cm、厚さ2.6～3.5cm。土師質。凹面は1cmあたり7×7本の布目痕を有し、凸面はナデられている。粗粒砂を含み、色調は、暗黄褐色を呈す。

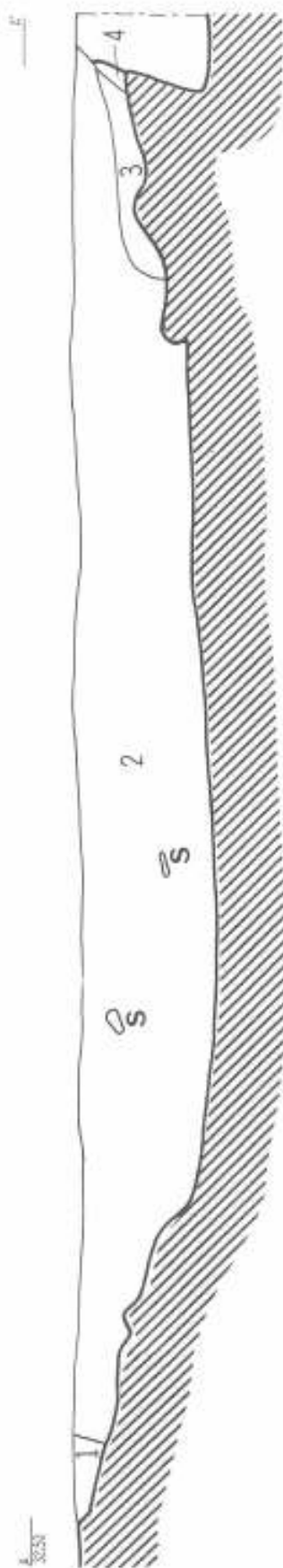
47-5 平瓦。残長11.4cm、残幅13.1cm、厚さ2.3～2.6cm。土師質。凹面は1cmあたり8×8本の布目痕を有し、凸面はナデられている。細礫・中粒砂を含み、色調は暗黄褐色を呈す。

141号土層（第45・46図、図版3）

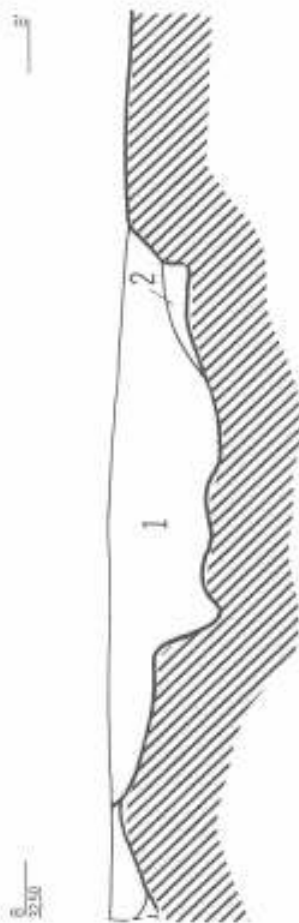
本遺構は、D-9・E-9グリッド内に検出された。



第50図 130・147・149号土坑、122・123号ピット



- 1, 暗褐色土 (ローム粒子、黒色粒子含む、やや泥状の土)
- 2, 暗褐色土 (火山灰、砂土、ローム粒子少量含む)
- 3, 暗褐色土 (ローム粒子含む)
- 4, 暗褐色土 (ローム粒子含む)



- 1, 暗褐色土 (火山灰含む)
- 2, 暗褐色土 (暗褐色土含む)

第51図 147号土壌断面図



平面形は、不明確である。規模も不明確ではあるが、深さ42cmを測る。遺物は土器等が出土した。

※ ビットは、後述する。

142号土壌 (第49図)

本遺構は、D-9グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈す。規模は、短軸0.58m、深さ31cmを測る。遺物は検出されなかった。

143号土壌 (第49図)

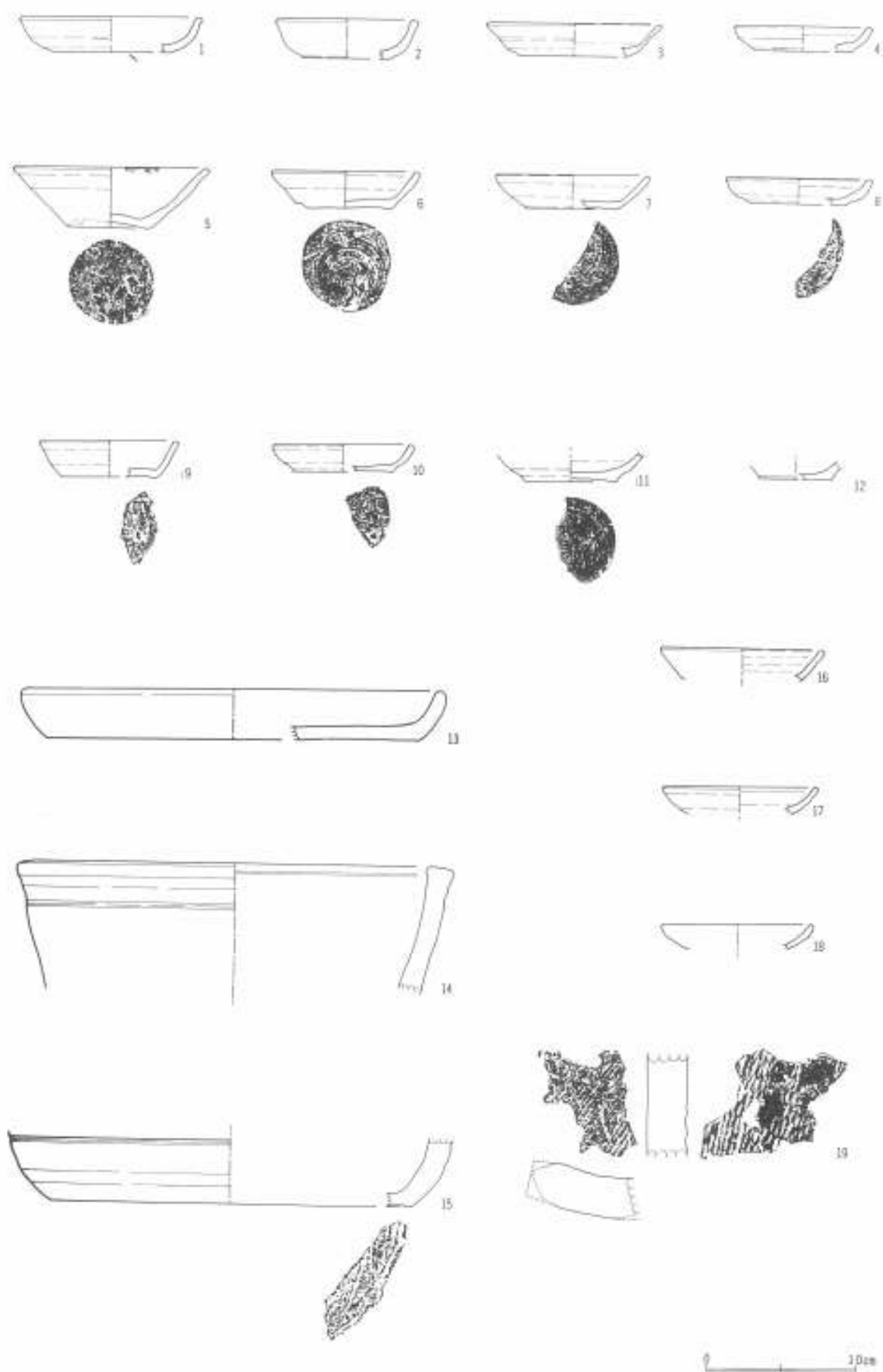
本遺構は、142号土壌の東側に検出された。調査区域外へ広がると考えられる。平面形は、不明である。規模も不明確であるが、A-A'断面の深さ27cmを測る。遺物は陶磁器片が出土した。

144号土壌 (第49図)

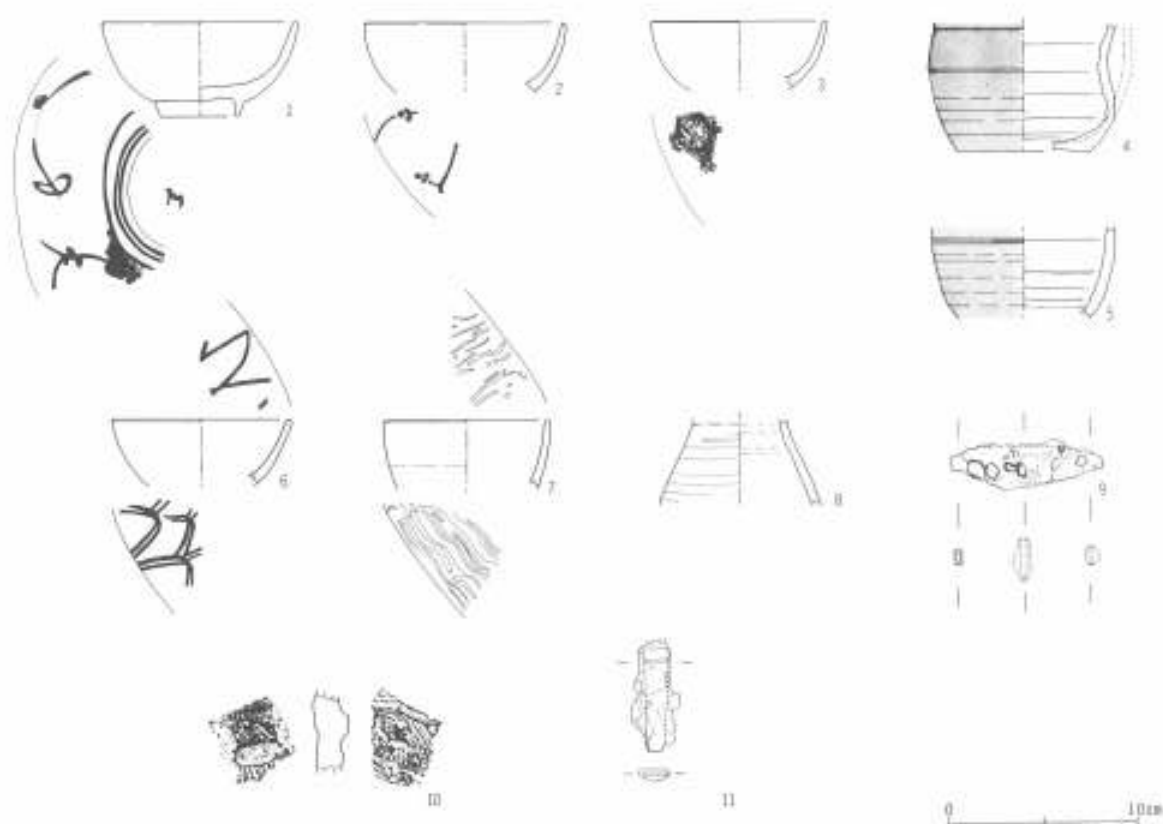
本遺構は、143号土壌内に検出された。平面形は、不整形な方形を呈すと考えられる。規模は、不明である。遺物は検出されなかった。

145号土壌 (第49図、図版3)

本遺構は、D-9・10グリッド内に検出された。平面形は、方形を呈すと考えられる。規模は、北辺1.05mを測る。遺物はかわらけ・陶磁器片等が出土した。



第52图 137・147号土坑出土遗物



第53図 147号土坑出土遺物

146号土坑（第49図、図版3）

本遺構は、D-10グリッド内に検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、短軸0.94m、深さ52cmを測る。遺物はかわらけ等が出土した。

平面形は、不整形な隅丸の正方形を呈す。規模は、長軸1.04m、短軸1.00mを測る。遺物は検出されなかった。

※ ビットは、後述する。

148号土坑（第49図、図版3）

本遺構は、D-10グリッドに検出された。平面形は、長方形を呈すと考えられる。規模は、C-C' 断面の長さ0.53m、深さ37cm、床面の長さ0.67mを測る。遺物は陶磁器片が出土した。

130号土坑（第50図）

本遺構は、C-10・D-10グリッド内に検出された。平面形は、靴形を呈す。規模は、長軸1.20mを測る。遺物は検出されなかった。

149号土坑（第49図、図版3）

本遺構は、D-10グリッド内に検出された。平面形は、楕円形状を呈すと考えられる。遺構は、調査区域外へ広がると考えられる。規模は、不明確である。遺物は検出されなかった。

147号土坑（第50～53図、図版3～5）

本遺構は、D-10グリッド内に検出された。平面形は、不整形な長方形を呈す。規模は、A-A' 断面の長さ4.35m、深さ39cmを測る。遺物はかわらけ・陶磁器・内耳土器・鉄器・円筒埴輪が出土した。

52-1 かわらけ。口径11.6cm、底径7.6cm、器高2.4cm。中粒砂を含み、暗灰褐色を呈す。内部の一部が黒くすすける。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ である。

150号土坑（第49図、図版3）

本遺構は、D-10・E-10グリッド内に検出された。

52-2 かわらけ。口径8.8cm、底径5.8cm、器高2.6cm。細粒砂を含み、暗灰褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

52-3 かわらけ。口径11.2cm、底径7.2cm、器高2.2cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ である。

52-4 かわらけ。口径8.6cm、底径6.4cm、器高1.6cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

52-6 かわらけ。口径9.4cm、底径6.0cm、器高2.5cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。残存率は、95%である。

52-7 かわらけ。口径9.8cm、底径6.0cm、器高2.2cm。細粒砂を含み、色調は、外面が淡橙褐色、内面が暗灰褐色を呈す。底部は、回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

52-8 かわらけ。口径9.4cm、底径6.4cm、器高1.7cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

52-9 かわらけ。口径8.8cm、底径6.4cm、器高2.4cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、 $\frac{1}{4}$ 。

52-10 かわらけ。口径8.8cm、底径6.6cm、器高1.8cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。

52-11 かわらけ。底径6.0cm、残高1.7cm。細礫・粗粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。残存率は、底部の60%である。

52-12 かわらけ。底径4.8cm、残高1.2cm。細粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、底部の $\frac{2}{5}$ である。

52-13 内耳土器。口径27cm、底径24.4cm、器高3.3cm。中粒砂を含み、暗橙褐色を呈す。底部外面が黒くすすけている。残存率は、 $\frac{2}{3}$ である。

52-14 火鉢。口径26.6cm、残高8.4cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ である。

52-15 火鉢。底径24cm、残高4.5cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡褐色を呈す。(52-14と同一個体か?)

52-16 かわらけ。口径10.6cm、残高2.1cm。中粒砂

を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ である。

52-17 かわらけ。口径10.0cm、残高1.8cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ である。

52-18 かわらけ。口径9.8cm、残高1.6cm。中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、口縁の約 $\frac{1}{4}$ である。

52-19 平瓦。残長7.4cm、残幅6.4cm、厚さ2.7~2.9cm。土師質。凹面は布目痕が不明瞭で、橙褐色を呈し、凸面は縄叩きを施し、暗灰色を呈す。1cm程の砂粒・細礫・粗粒砂を含む。

53-1 茶碗(伊万里)。口径10.0cm、底径4.0cm、器高5.0cm。染付。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

53-2 茶碗(伊万里)。口径10.4cm、残高3.7cm。染付。残存率は、口縁の $\frac{2}{3}$ である。

53-3 茶碗(伊万里)。口径9.0cm、残高3.7cm。染付。残存率は、口縁の $\frac{2}{3}$ である。

53-4 徳利(瀬戸・美濃)。底径7.0cm、残高6.5cm。外面に鉄釉。地の色調は、淡黄褐色。下部の $\frac{1}{2}$ 残存。

53-5 徳利(瀬戸・美濃)。残高4.9cm、残存最大径9.7cm。鉄釉。地の色調は、淡黄褐色。

53-6 茶碗(伊万里)。口径9.4cm、残高3.5cm。染付。残存率は、口縁の $\frac{1}{5}$ である。

53-7 碗。口径8.6cm、残高3.7cm。刷毛目。残存率は、口縁の約 $\frac{1}{4}$ である。

53-8 徳利(志戸呂?)。残高4.5cm、残存最大径8.5cm。刷毛目。肩の部分残存。

53-9 鉄器(刀子)。残長8.0cm、刃幅2.0cm、厚さ3mm。

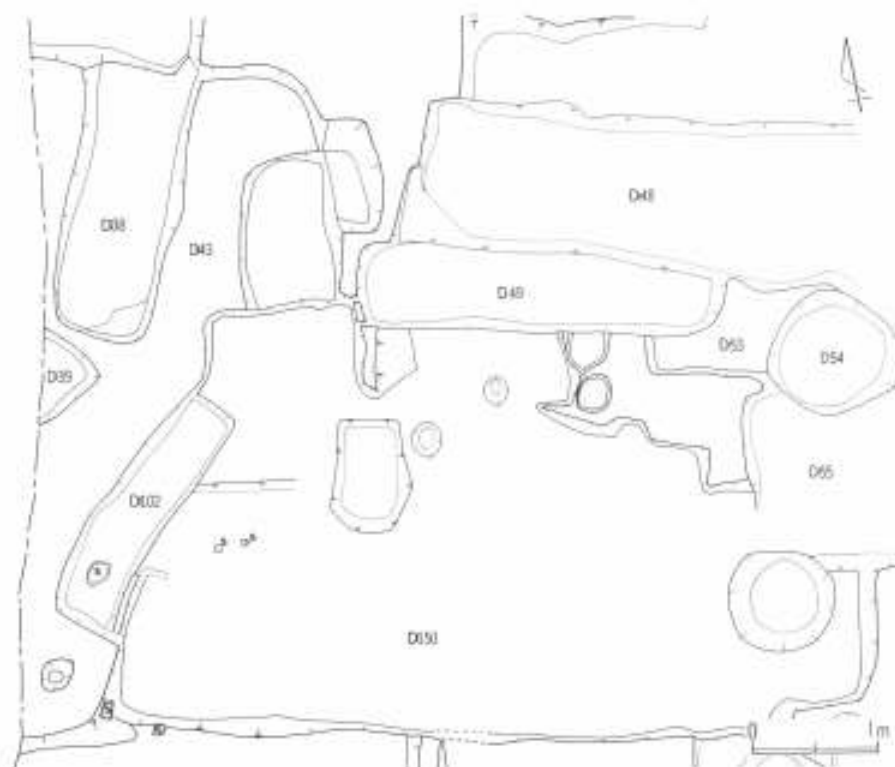
53-10 円筒埴輪。残高4.3cm。粗粒砂を含み、赤橙褐色を呈す。タガが台形。外面調整がケテハケ(4本/cm)で、内面調整がハケとナデである。

53-11 鉄器。残長5.4cm、幅1.2cm、厚さ2mm。

※ ビットは、後述する。

43号土壙(第54図)

本遺構は、B-7グリッド内に検出された。平面形・規模とも不明確である。遺物は土器等が出土した。



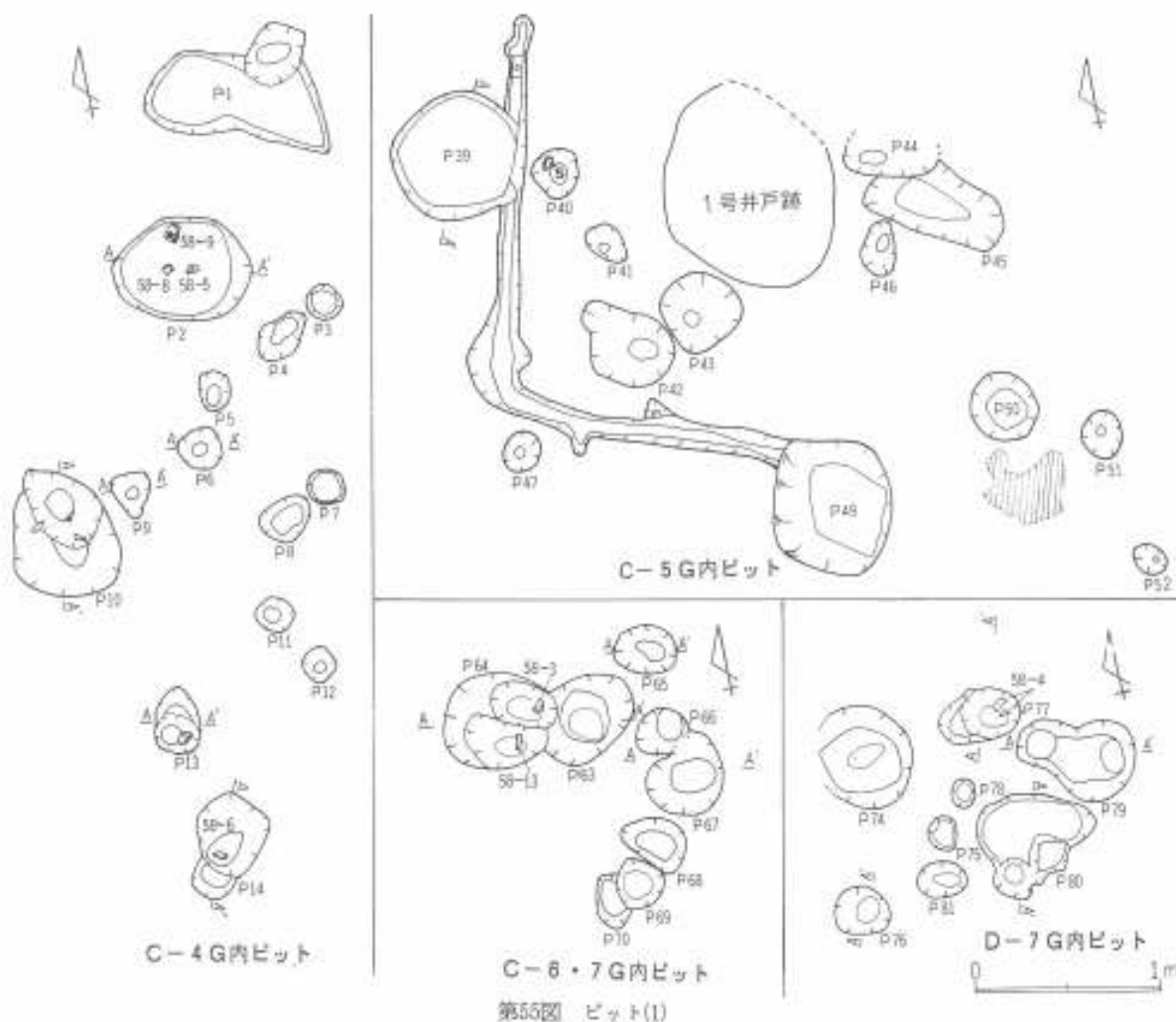
第54図 38・39・43・48・49・53～55・102・151号土坑

102号土坑（第54図）

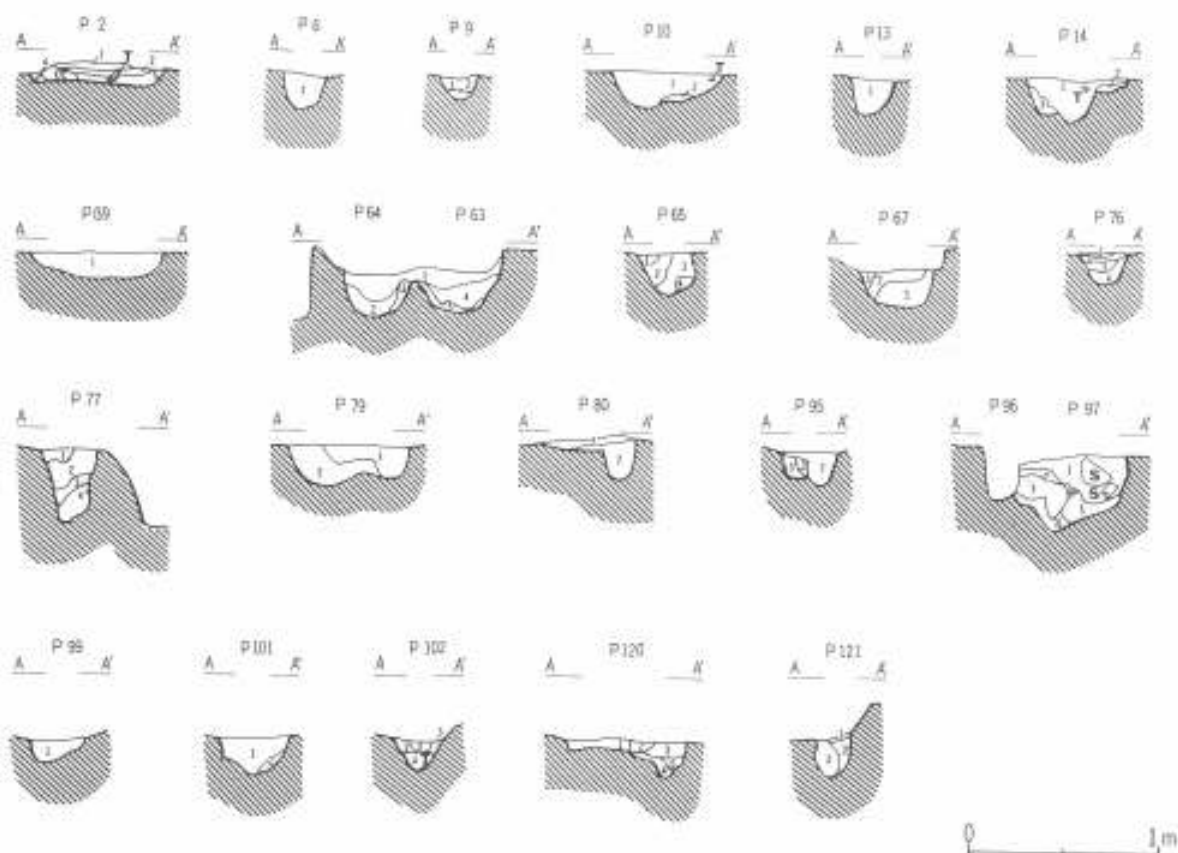
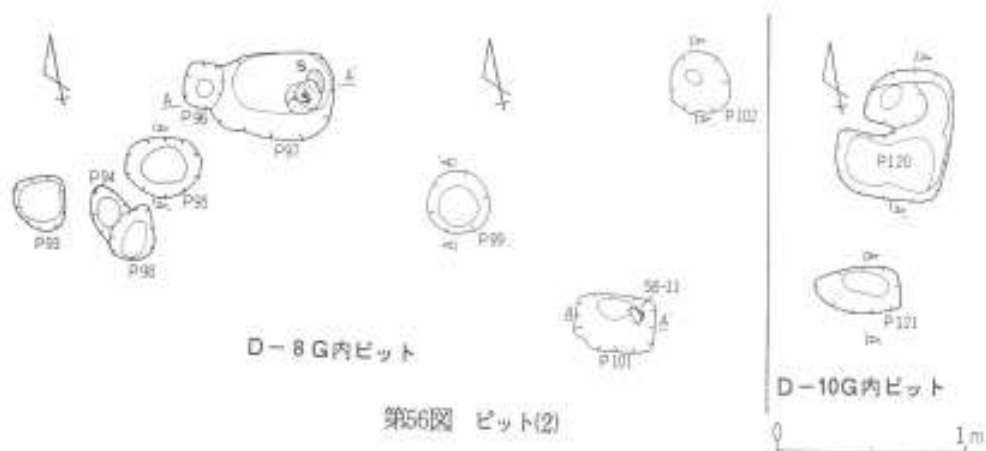
本遺構は、A-7グリッドに検出された。平面形は、長方形を呈す。規模は、長軸2.05m、短軸0.50mである。遺物は検出されなかった。

151号土坑（第54図）

本遺構は、B-7・8グリッドに検出された。平面形・規模等は不明である。
※ 本遺構附近は、土坑の切り合いが不明のため、土坑の把握が不可能であった。



第55図 ビット(1)



第57図 ビット断面図

No	規模 cm (長さ×幅×深さ)	土 層	遺物	図番	No	規模 cm (長さ×幅×深さ)	土 層	遺物	図番
1	98×40			55	10	70×56×19	1. 暗茶褐色土(ロームブロック・灰子含む) 2. 暗黄褐色土	かわらけ	55・57
2	74×56×10	1. 暗茶褐色土 2. 暗灰褐色土 3・4. 暗黄褐色土	内耳土器 陶磁器	55・57 58	11	22×18			55
3	20×18			55	12	20×20			55
4	32×18			55	13	34×24×19	1. 暗茶褐色土 (ローム粒子、炭含む)		55・57
5	22×16			55	14	60×34×22	1. 暗褐色土 2・3. 暗黄褐色土	陶磁器	55・57 58
6	26×22×19	1. 暗茶褐色土		55・57	15	35×30			4
7	20×18			55	16	38×34			4
8	28×20			55	17	48×16			4
9	24×16×11	1. 暗茶褐色土(ローム粒子含む) 2. 暗黄褐色土		55・57	18	22×20			4

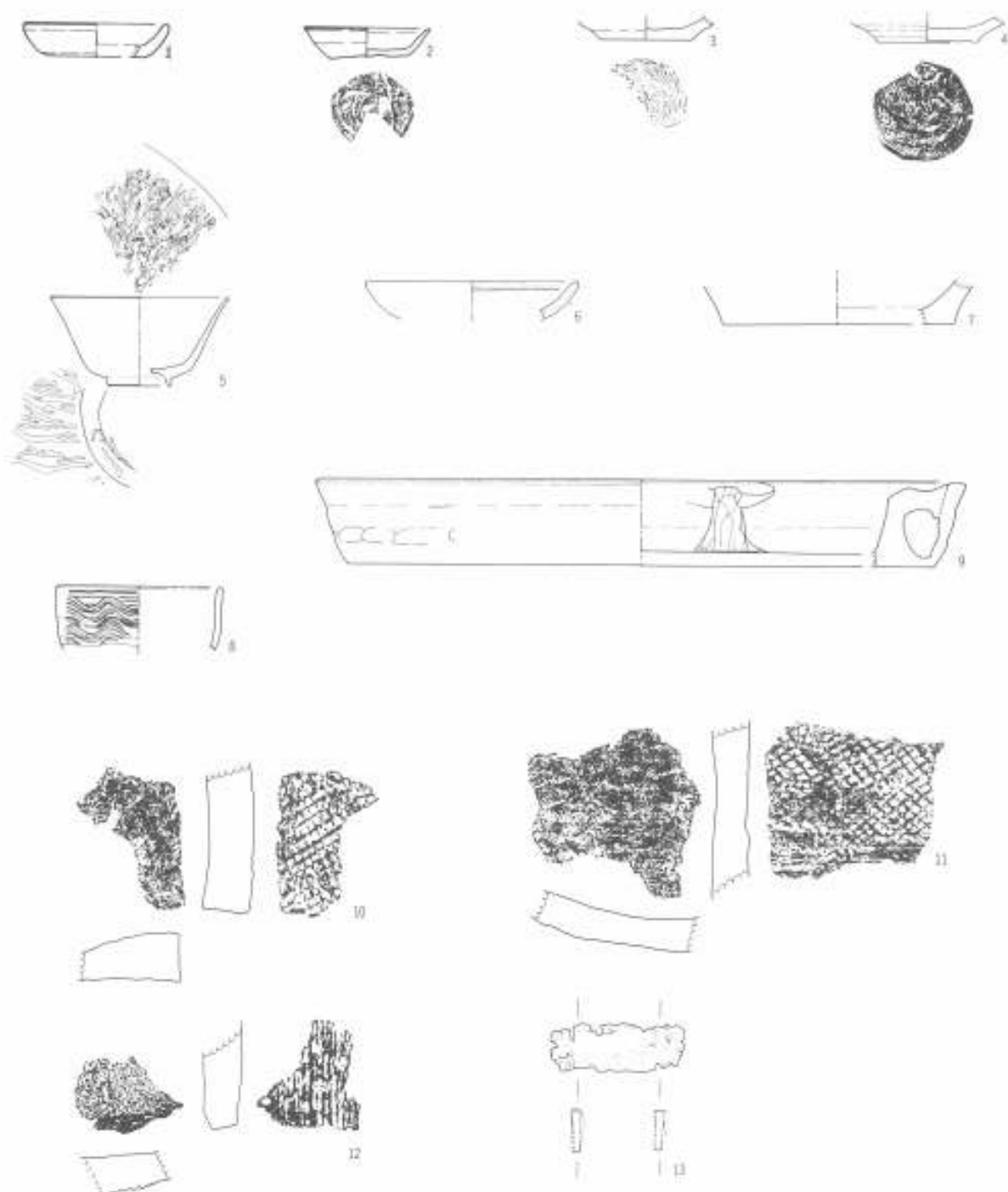
表1 ビット一覧表(1)

No.	規模 cm (長×幅×高さ)	土 層	遺物	図番	No.	規模 cm (長×幅×高さ)	土 層	遺物	図番
19	24×16			4	66	30×24			55
20	24×20			4	67	44×36×20	1. 暗褐色土(ローム粒子、炭屑含む) 2. 暗褐色土(ローム、炭屑含む) 3. 暗褐色土		55・57
21	50×40			4	68	38×24			55
22	16×12			4	69	20×24			55
23	54×24			4	70	30×20			55
24	24×24			4	71	44×36			16
25	22×16			4	72	22×18			16
26	34×28			4	73	88×66			32
27	24×24			4	74	58×44			55
28	26×20			4	75	18×16			55
29	42×32			4	76	30×26×18	1. 暗褐色土 2. 暗褐色土 3. 暗褐色土(炭屑含む) 4. 暗褐色土		55・57
30	24×18			4	77	46×28×38	1. 暗褐色土 2. 暗褐色土 3. 暗褐色土 4. 暗褐色土	かわらけ	55・57 58
31	46×34			4	78	14×12			55
32	32×32			5	79	64×44×21	1. 暗褐色土(ローム粒子、粘土、炭屑含む) 2. 暗褐色土		55・57
33	32×28			5	80	65×56×24	1. 暗褐色土 2. 暗褐色土		55・57
34	52×48			5	81	28×20			55
35	56×30			5	82	22×22			34
36	38×32			5	83	30×26			34
37	30×28			5	84	36×32			34
38	42×32			5	85	36×30			36
39	70×70×14			55・57	86	22×20			36
40	38×24			55	87	44×22			36
41	26×16			55	88	38×22			36
42	54×38			55	89	50×34			36
43	42×42			55	90	70×62			36
44	60×14			56	91	38×38			36
45	76×34			56	92	40×32		瓦	36・58
46	30×18			56	93	30×28			50
47	20×20			56	94	28×20			56
48	62×50			7	95	40×32×18	1. 暗褐色土(ローム粒子、炭屑含む) 2. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む)		56・57
49	70×62			55	96	24×22×38	1. 暗褐色土(ローム粒子、炭屑含む) 2. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む)		56・57
50	40×34			55	97	62×46×39	1. 暗褐色土 2. 暗褐色土(ローム粒子含む) 3. 暗褐色土 4. 暗褐色土 5. 暗褐色土(ローム粒子含む)		56・57
51	26×22			56	98	30×22			56
52	20×16			56	99	34×32×12	1. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む)		56・57
53	74×44			9	100	24×18			44
54	52×46			4	101	42×30×19	1. 暗褐色土(ローム粒子含む) 2. 暗褐色土	瓦	56・57 58
55	64×38			4	102	32×32×15	1. 暗褐色土(ローム粒子含む) 2. 暗褐色土(ローム粒子含む) 3. 暗褐色土 4. 暗褐色土		56・57
56	80×64		かわらけ	12・58	103	64×60		かわらけ	44・58
57	54×54			12	104	61×28			44
58	50×50			12	105	36×32		かわらけ 須置器	44・58
59	50×40			12	106	22×20			44
60	104×74			12	107	40×30			44
61	80×60			12	108	36×20			44
62	102×78			13	109	32×18			44
63	54×42×22	1. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む) 2. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む) 3. 暗褐色土(ロームブロック・粒子含む) 4. 暗褐色土(ローム粒子、炭屑含む) 5. 暗褐色土		55・57	110	52×50		瓦	44・58
64	62×52×22	1. 暗褐色土(ローム粒子含む) 2. 暗褐色土(ローム粒子含む) 3. 暗褐色土(ローム粒子含む) 4. 暗褐色土	かわらけ 鉄 器	55・57 58	111	24×18			49
65	34×26×22	1. 暗褐色土(ローム粒子含む) 2. 暗褐色土(ローム粒子含む) 3. 暗褐色土(ローム粒子含む) 4. 暗褐色土		55・57	112	20×12			49

表2 ビット一覧表(2)

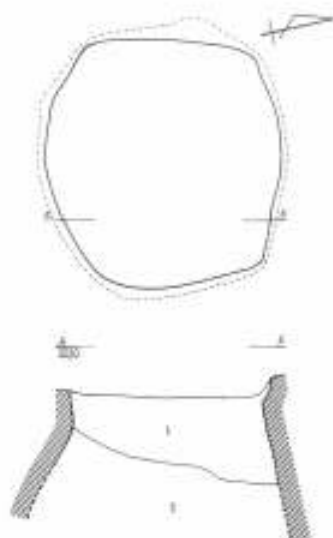
No.	規模 cm (長さ×幅×高さ)	土 層	遺物	図番	No.	規模 cm (長さ×幅×高さ)	土 層	遺物	図番
113	22×18			49	120	66×60×19	1. 暗茶褐色土 (ローム粒子含む) 2. 赤褐色土 3. 暗茶褐色土 4. 黒褐色土 5. 赤褐色土		56・57
114	26×18			49	121	44×22×20	1. 暗茶褐色土 2. 暗茶褐色土 (ローム粒 子含む) 3. 暗茶褐色土 (ローム粒子含む)		56・57
115	32×26			49	122	30×22			50
116	26×22			49	123	28×28			50
117	34×26			44	124	52×34			19
118	36×16			44	125	38×28			19
119	32×22			49					

表3 ビット一覧表(3)



第58図 ビット出土遺物

0 10cm



第59図 2号井戸跡

ビット出土遺物
(第58図)

58-1 かわらけ。

口径8.4cm、底径5.8cm、器高2.0cm。細砂・粗粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、回転糸切り。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。56号ビット出土。

58-2 かわらけ。

口径7.4cm、底

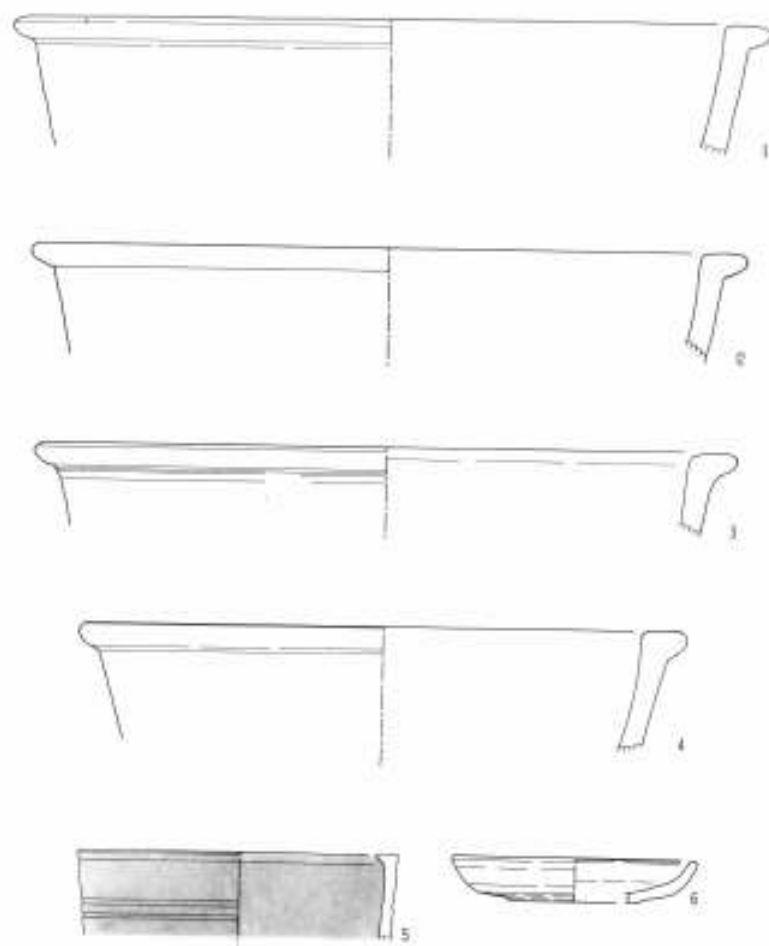
径4.9cm、器高1.9cm。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は外面が暗灰褐色、内面が橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切りである。残存率は、75%である。103号ビット出土。

58-3 かわらけ。底径5.6cm、残高1.0cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は、回転糸切り。残存率は、底部の40%である。64号ビット出土。

58-4 かわらけ。底径6.0cm、残高1.2cm。細砂・粗粒砂を含み、橙褐色を呈す。底部は、右の回転糸切り。底部完存。77号ビット出土。

58-5 碗。口径10.6cm、底径3.8cm、器高5.3cm。残存率は、 $\frac{1}{4}$ である。2号ビット出土。

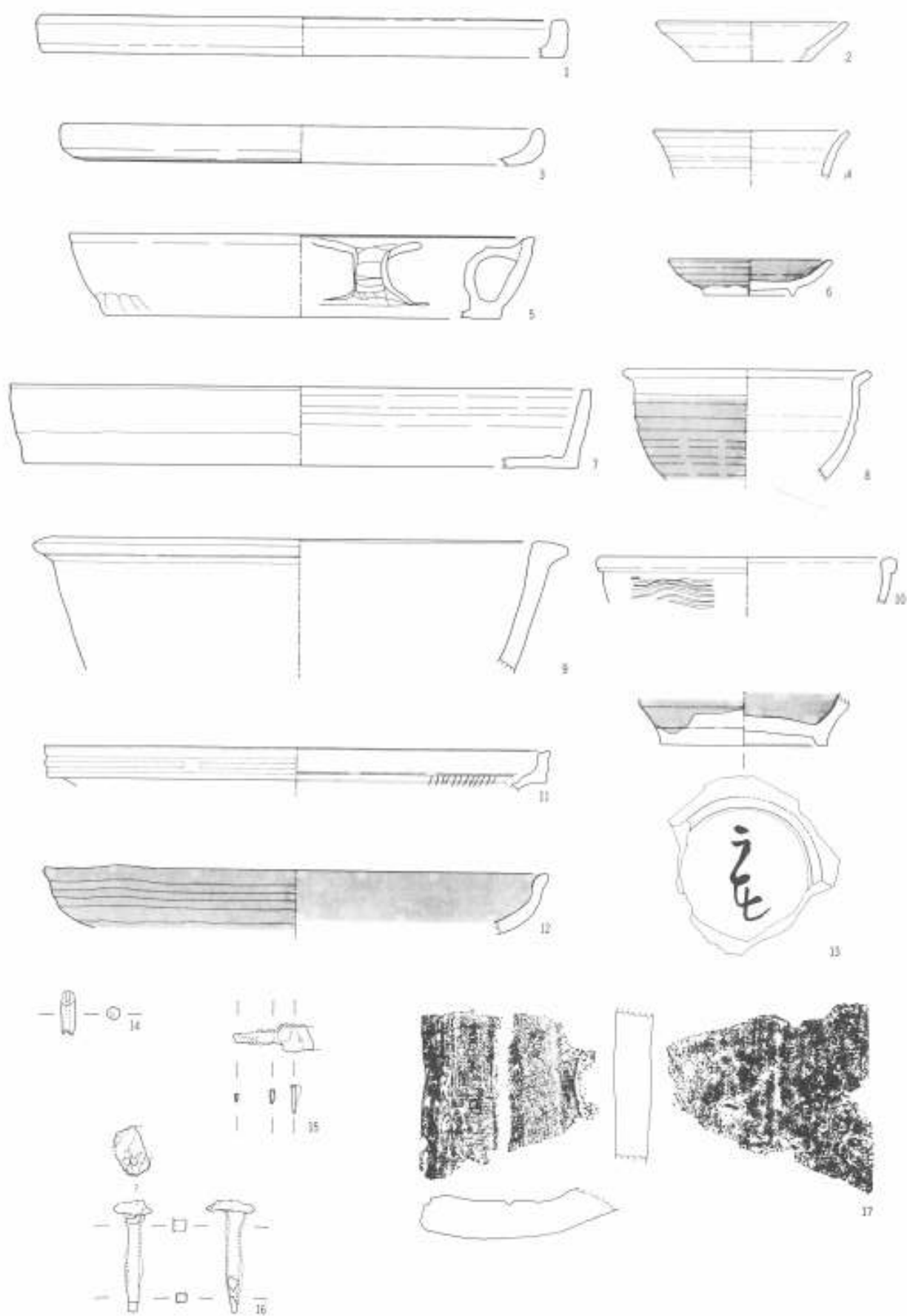
58-6 小皿(織部)。口径12.6cm、残高2.2cm。同心円状に鉄軸を施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ である。14号ビット出土。



第60図 2号井戸跡出土遺物



0 10cm



第61図 グリッド出土遺物

0 10cm



第62図 グリッド出土古銭

58-7 壺（須恵器）。底径13.8cm、残高2.3cm。細礫・粗粒砂（白砂粒）を含み、暗灰色を呈す。残存率は、底部の $\frac{1}{5}$ である。105号ピット出土。

58-8 碗（唐津）。口径9.8cm、残高3.8cm。刷毛目。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ である。2号ピット出土。

58-9 内耳土器。口径38.4cm、底径35.2cm、器高5.2cm。中粒砂を含み、黒色を呈す。外面は黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{10}$ 。2号ピット出土。

58-10 平瓦。残長9.6cm、残幅6.4cm、厚さ2.4～2.9cm。土師質。凹面はナデられている。凸面は格子叩きを施す。細礫・粗粒砂を含み、淡灰褐色を呈す。110号ピット出土。

58-11 平瓦。残長10.6cm、残幅10.0cm、厚さ1.7～2.2cm。土師質。凹面はナデられている。凸面は格子叩きを施す。細礫・粗粒砂を含み、暗茶褐色を呈す。101号ピット出土。

58-12 平瓦。残長6.6cm、残幅6.2cm、厚さ1.9～2.1cm。須恵質。凹面は1cmあたり9×7本の布目痕を有し、凸面は縄叩きを施す。細礫・粗粒砂を含み、暗青灰色を呈す。92号ピット出土。

58-13 鉄器。残長7.5cm、幅2.4cm、厚さ4mm。断面は方形を呈す。64号ピット出土。

層が暗褐色の砂礫層、2層が暗褐色土（砂・礫を含む）であった。遺物はかわらけ・火鉢・陶磁器が出土した。

60-1 火鉢。口径38.0cm、残高6.9cm。粗粒砂・中粒砂を含み、暗褐色を呈す。内面はみがきを施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{11}$ である。

60-2 火鉢。口径37.0cm、残高5.8cm。粗粒砂・中粒砂を含み、色調は、外面が暗褐色、内面が黒色を呈す。内面はみがきを施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{13}$ である。

60-3 火鉢。口径35.8cm、残高4.3cm。中粒砂を含み、色調は、外面が暗褐色、内面が黒褐色を呈す。内面はみがきを施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{12}$ である。

60-4 火鉢。口径31.4cm、残高6.1cm。粗粒砂・中粒砂を含み、黒色を呈す。内面はみがきを施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{14}$ である。

60-5 半胴（瀬戸・美濃）。口径16.8cm、残高4.5cm。鉄釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ である。

60-6 かわらけ。口径12.6cm、底径6.8cm、器高2.3cm。粗粒砂・中粒砂を含み、明橙褐色を呈す。残存率は、 $\frac{1}{8}$ である。

60-7 茶碗（瀬戸?）。口径9.0cm、底径3.2cm、器高4.3cm。上絵付。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。

60-8 小鉢（伊万里）。底径5.1cm、残高1.9cm。染付。

1号井戸跡（第55図）

本遺構は、C-5グリッドに検出された。平面形は、南北にやや長い楕円形を呈し、長径1.12m、短径0.94mを測る。深さは、約1.5mまで調査した。未完掘。遺物は検出されなかった。

2号井戸跡（第59・60図）

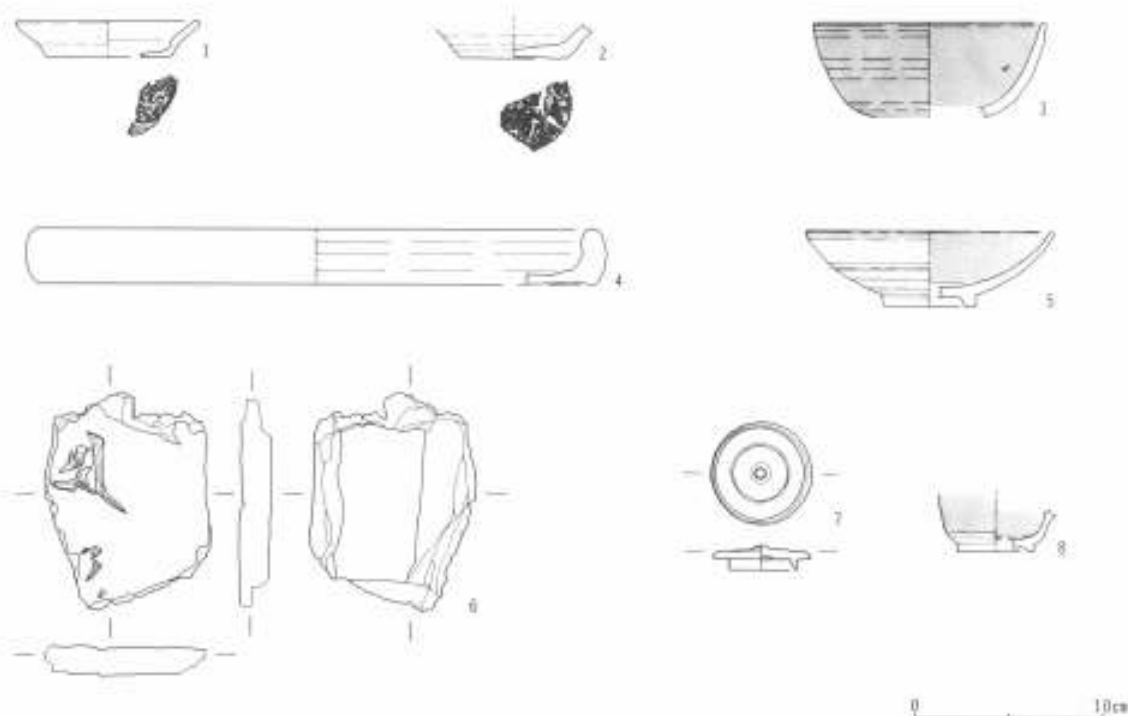
本遺構は、B-6グリッド内に検出された。平面形は、ほぼ円形を呈し、長径1.97m、短径1.86mを測る。深さは、約1.5mまで調査した。未完掘。埋土は、1

グリッド出土遺物（第61・62図）

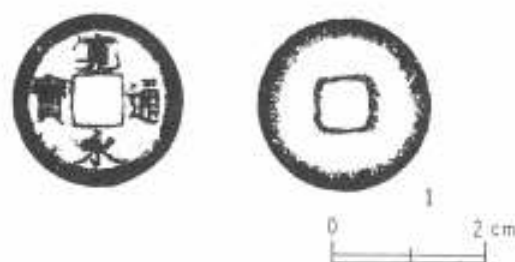
61-1 内耳土器。口径35.8cm、底径36.0cm、器高2.6cm。細礫・中粒砂を含み、明橙褐色を呈す。外面が黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{6}$ 。C-8G出土。

61-2 かわらけ。口径12.8cm、底径8.0cm、器高2.8cm。粗粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。残存率は、 $\frac{1}{8}$ 。B-8G出土。

61-3 内耳土器。口径32.6cm、底径30.0cm、器高2.5cm。中粒砂を含み、赤褐色を呈す。外面が黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{10}$ 。C-2G出土。



第63図 西方道跡出土遺物



第64図 西方道跡出土古銭

61-4 甕（土師器）。口径13.4cm、残高3.3cm。粗粒砂を含み、黒褐色を呈す。口縁部内面にタール付着。残存率は、口縁の $\frac{1}{8}$ 。C-5 G出土。

61-5 内耳土器。口径32.0cm、底径27.2cm、器高5.7cm。粗粒砂・中粒砂を含み、黒色を呈す。外面が黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。B-2 G出土。

61-6 小皿（瀬戸・美濃）。口径10.8cm、底径6.2cm、器高2.4cm。灰釉。地の色調は、黄褐色。残存率は、 $\frac{1}{2}$ である。C-10 G出土。

61-7 内耳土器。口径40.2cm、底径38.4cm、器高5.5cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部内面が黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{8}$ 。D-10 G出土。

61-8 鉢（瀬戸・美濃）。口径16.4cm、残高7.6cm。

外面に鉄釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。E-3 G出土。

61-9 火鉢。口径34.0cm、残高9.2cm。細粒砂を含み、色調は外面が黒褐色、内面が黒色を呈す。内面はみがきを施す。残存率は、口縁の $\frac{1}{10}$ 。C-2 G出土。

61-10 鉢（唐津）。口径20.0cm、残高3.2cm。刷毛目。残存率は、口縁の $\frac{1}{2}$ 。C-2 G出土。

61-11 搥鉢（丹波または信楽）。口径34.8cm、残高2.8cm。残存率は、口縁の $\frac{1}{8}$ 。C-2 G出土。

61-12 鉢（瀬戸・美濃）。口径34.6cm、残高4.2cm。灰釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{11}$ 。E-3 G出土。

61-13 片口（瀬戸・美濃）。底径11.6cm、残高3.2cm。鉄釉。地の色調は、淡黄褐色。底部外面に、墨書が見とめられた。底部の90%残存。D-10 G出土。

61-14 土鍾。残長3.0cm、最大幅10mm、孔径2.5mm。粗粒砂を含み、暗橙褐色を呈す。B-8 G出土。

61-15 鉄器（刀子）。残長5.1cm、刃幅1.7cm、茎長3.3cm、茎幅8mm、厚さ2.5mm。D-5 G砂層出土。

61-16 鉄器（釘）。長さ7.7cm、幅8mm、厚さ4mm。断面は方形を呈す。C-9 G出土。

61-17 平瓦。残長12.8cm、残幅13.9cm、厚さ2.3~2.5cm。須恵質。凹面は1cmあたり8×8本の布目痕を有

し、凸面はナデられている。5～1.7mm大の白砂粒を含み、暗灰色を呈す。C-8 G出土。

62-1 古銭。元祐通寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。

62-2 古銭。大観通寶(真書体)。直径2.4cm。銅銭。

西方遺跡出土遺物(第63・64図)

63-1 かわらけ。口径9.4cm、底径6.8cm、器高1.9cm。中粒砂を含み、橙褐色を呈す。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

63-2 かわらけ。底径5.6cm、残高1.8cm。粗粒砂・中粒砂を含み、淡橙褐色を呈す。底部は、回転糸切り。底部の $\frac{1}{2}$ 残存。

63-3 碗(瀬戸・美濃)。口径12.0cm、残高5.0cm。鉄釉。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

63-4 内耳土器。口径29.4cm、底径29.4cm、器高2.9cm。粗粒砂・中粒砂を含み、暗橙褐色を呈す。外面が黒くすすけている。残存率は、口縁の $\frac{1}{4}$ 。

63-5 皿(肥前)。口径13.0cm、底径4.8cm、器高4.0cm。蛇ノ目釉ハギ。残存率は、 $\frac{1}{4}$ 。

63-6 板石塔婆。残高11.3cm、残幅8.5cm、厚さ1.5cm。緑泥片岩。種子は、阿彌陀三尊で、観音菩薩。

63-7 蓋(瀬戸?)。直径5.2cm、器高1.3cm。灰釉。つまみをつまむ形態ではない。完存。

63-8 水滴?(瀬戸・美濃)。底径4.0cm、残高3.1cm。鉄釉。地の色調は、淡黄色を呈す。残存率は、底部の $\frac{1}{2}$ である。

64-1 古銭。寛永通寶(真書体)。直径2.3cm。銅銭。

第6章 西方遺跡出土の瓦の胎土重鉍物分析

西方遺跡より出土した瓦、4点をバリノ・サーヴェイ株式会社に依頼して、胎土重鉍物分析の調査を行なった。

1. はじめに

熊谷市西別府西方遺跡は、中・近世の土壌墓群を中心とした遺跡である。遺跡からは古銭・土器・瓦などの遺物も多数出土している。これらの遺物のうち、瓦は奈良時代の古瓦やそれより新しい時代と考えられている時期不明の瓦も確認されている。

本分析は、その古瓦と時期不明の瓦についてその胎土の特徴を客観的に把握することを目的とする。

2. 試料

分析の対象とした瓦は、西方遺跡より出土した奈良時代の古瓦3点(試料1～3)と奈良時代より新しいと考えられている時期不明の瓦1点(試料4)の合計4点である。

試料の外見的特徴を表4に示す。(試料1:39-1、試料2:39-2、試料3:47-4、試料4:41-2)

3. 分析方法

胎土分析の方法には、蛍光X線分析や放射化分析などの分析機器を用いて胎土の元素組成を求める方法や、偏光顕微鏡を用いて胎土の鉍物組成を求める方法など様々な方法が用いられている。しかしどの分析においても、多数のデータを集めてその相互の比較から考察するという手順は共通する。本分析の対象である瓦には、砂分が多く含まれていることが肉眼で確認できたので、胎土中に含まれる砂分の重鉍物組成を胎土の特徴として代表させることが適当と考えた。

試料は、鉄乳鉢を用いて粉碎し、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径 $\frac{1}{16}$ mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた $\frac{1}{16}$ ～ $\frac{1}{8}$ mmの粒子をテトラプロモエタン(比重約2.96)により重液分離、重鉍物のプレパラートを作製した後、偏光顕微鏡にて同定した。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈すものを「不透明鉍物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

4. 分析結果

試料1と2は、ほぼ同様の組成を示すが、試料3と4は各々特徴的な組成を示す。以下に各試料の組成について述べる(表5、第65図)。

試料1:「その他」で示した不明粒が多く約50%を占める。不明粒は、赤褐色から褐色を呈し、塊状不定形である。「その他」を除けば斜方輝石が最も多く、他に少量の単斜輝石、酸化角閃石と微量のカンラン石、角閃石が含まれる。これらの結晶の表面は、やや汚れたものが多い。

試料2: 試料1とほぼ同様の組成を示す。

試料3: 斜方輝石が非常に多く、その量比は60%をやや超える。他に中量の角閃石と少量の単斜輝石、不透明鉱物(ほとんど磁鉄鉱である)を含む。鉱物は非常に新鮮である。

試料4:「その他」とした不明粒が非常に多く、90%近くを占める。不明粒は、暗赤褐色から暗褐色を呈し、塊状不定形である。試料1や2の不明粒に比べて全体的に黒っぽい感じである。「その他」以外では、少量の斜方輝石と微量の単斜輝石、角閃石が含まれる。鉱物の表面は汚れた感じである。

5. 考 察

(1) 鉱物粒の起源について

試料3に含まれる斜方輝石、単斜輝石、角閃石は、非常に新鮮である。また、他の3点の試料に含まれるこれらの鉱物は、表面がやや汚れた感じがするが、焼成による影響と考えれば焼成前は比較的新鮮であったと考えられる。このような鏡下の観察から、これらの鉱物は主に第四紀の火山噴出物に由来すると考えられる。遺跡の地理的な位置からみて、遺跡周辺地域の堆積物中には浅間、赤城、榛名などの火山を給源とする火山噴出物に由来する碎屑物が比較的豊富に含まれていると考えられる。これらの火山の噴出物には、斜方輝石や角閃石を多く含む重鉱物組成を持つものが多いことが知られている。また、酸化角閃石は、その生成過程(注)から角閃石と起源は同じ可能性が考えられる。したがって、火山噴出物に由来する碎屑物を多く含んだ河川砂や粘土などが瓦の材料として使用されたとすれば、本分析結果は、この地域の地質学的背景と調和的であるといえる。

一方、「その他」とした不明粒は、これまでに土器胎土中に多く認められているが、自然堆積物中にはほとんど認められない。したがって、「その他」は焼成による生成物である可能性がある。

ところで、上記の火山噴出物に由来する碎屑物を多く含んだ堆積物は、遺跡周辺に限らず関東全域に広く多量に分布する。このことは、出土遺跡や出土窯が異なる瓦であってもよく似た重鉱物組成を示す胎土の瓦が多数存在する可能性を想起させる。したがって、分析例の少ない段階では、特定の産地の推定をすることはできない。(2) 今後の展開について

今回の分析では、試料数も極めて少なくまた試料に関する情報にも乏しいため、胎土中の鉱物粒の起源について考察するにとどめた。しかし、そのような状況の中でも、次のことを明らかにすることができた。1) 同じ奈良時代の古瓦でも試料1、2と試料3との間には明瞭な胎土の違いが存在する。つまり西方遺跡における奈良時代の古瓦の胎土は複数種存在するということである。2) 他の3点とは外見上明らかに胎土の異なることがわかる試料4は、分析でもやはり明瞭な違いを示す。

今後は、より多くの分析例を蓄積するとともに考古学的研究成果を含めて総合的に解析が行われることにより、埼玉県における古代の瓦の考古学的考察に新たな展開が期待される。

(注)

酸化角閃石を角閃石と同一起源と考えるのは、酸化角閃石が角閃石の焼成による生成物である可能性が考えられるためである。酸化角閃石は、約800℃で普通角閃石(本文では角閃石としている)が高温酸化してできる。したがっ

て、素地の組成は同じでも、その後の焼成状態によって酸化角閃石を含んだり含まなかったりということが考えられるのである。

表4 西方遺跡胎土分析試料表

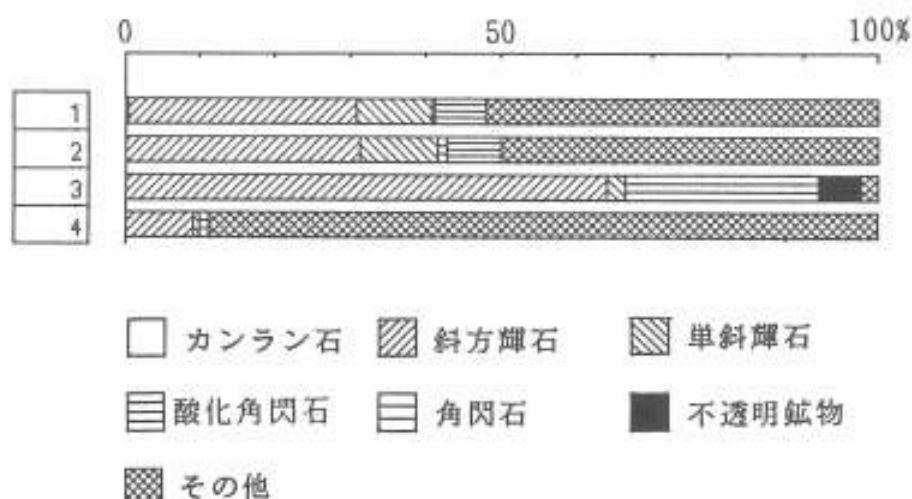
試料番号	時 代	表面の色（表・裏・断面）	表面の質感	表面観察結果（表・裏・断面）
試料1	奈良時代	明褐灰・にぶい褐・にぶい橙	やや粗い	黒色岩片多量含む。一黒色岩片少量含む。一黒色・灰色岩片多量、灰色粒少量含む。
試料2	奈良時代	灰黄褐・にぶい褐・にぶい橙	やや粗い	黒色岩片少量含む。一黒色岩片微量、白色粒微量含む。一黒色・灰色岩片中量、白色粒少量含む。径10mmカコウ岩片あり。
試料3	奈良時代	にぶい褐・にぶい褐・黒	きめ細か	黒色岩片微量含む。一白色粒微量含む。一白色粒中量含む。
試料4	不 明	灰・灰・灰	やや粗い	カコウ岩片多量（最大粒径は5mm）含む。一同一同

* 岩片：粒径約0.5～2mm程度の角ばった砂粒。

粒：粒径0.2mm程度。外見的には粘土の微細な固まりのように見える。

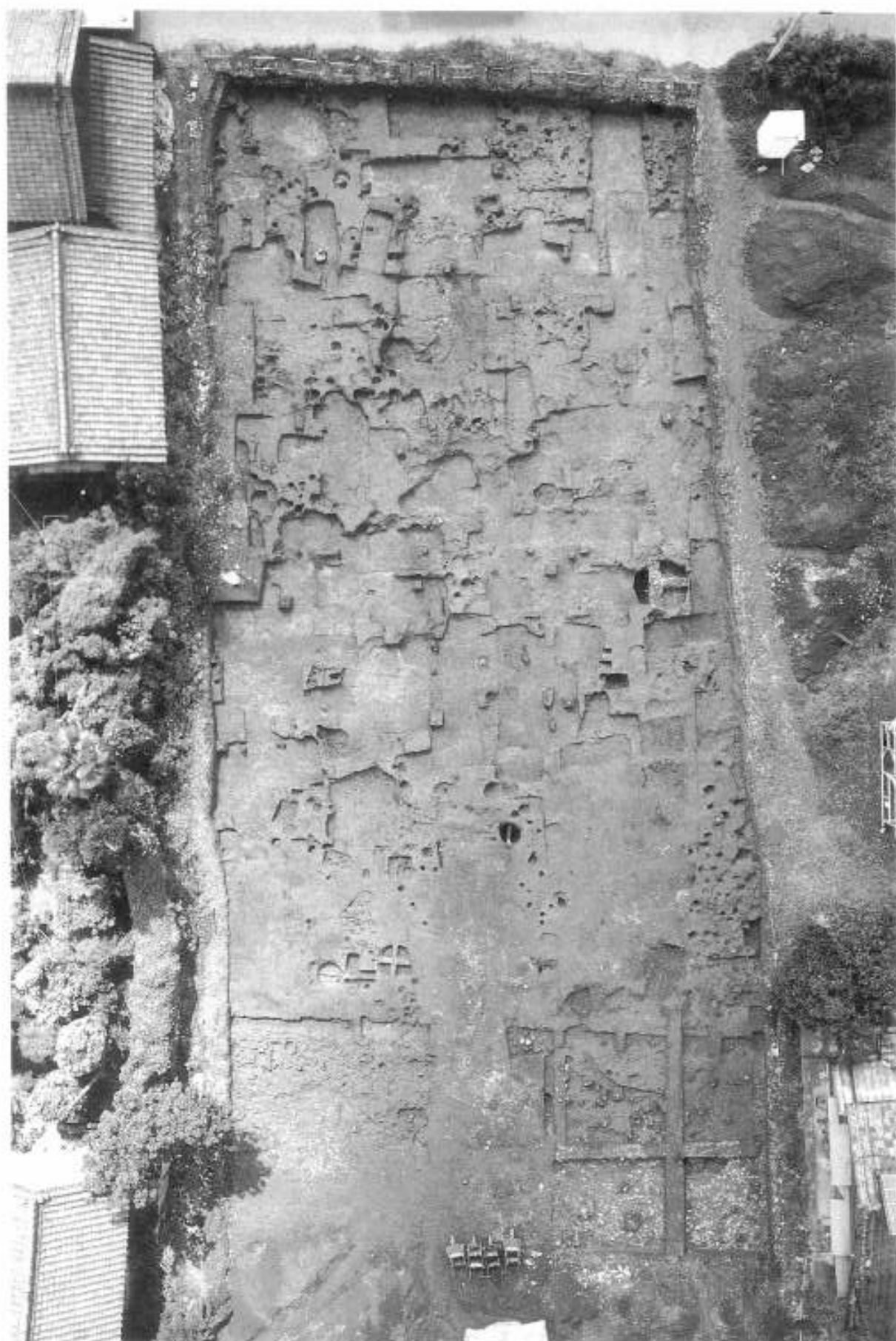
表5 西方遺跡胎土分析試料重鉱物組成

試料番号	重 鉱 物 組 成							同定鉱物 粒 数
	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	不透明鉱物	その他	
1	1	76	25	1	17		130	250
2		78	26	3	18		125	250
3		160	6	64		14	6	250
4		23	2	3			222	250



第65図 西方遺跡胎土分析試料重鉱物組成

西方遺跡 写真図版



西方遺跡航空写真

图版 2



1. 11~19·60·62·63号土壤



2. 12号土壤出土遗物



3. 15号土壤出土遗物



4. 22~29·32~37·40~42·44~46·50号土壤



5. 45号土壤出土古钱



6. 23号土壤出土古钱



7. 101号土壤出土遗物



8. 109号土壤出土遗物



1. 118号土壤出土遗物



2. 113号土壤出土遗物



3. 89·131~136·138~141号土壤



4. 140号土壤出土遗物



5. 140号土壤出土遗物



6. 137·142·145~150号土壤

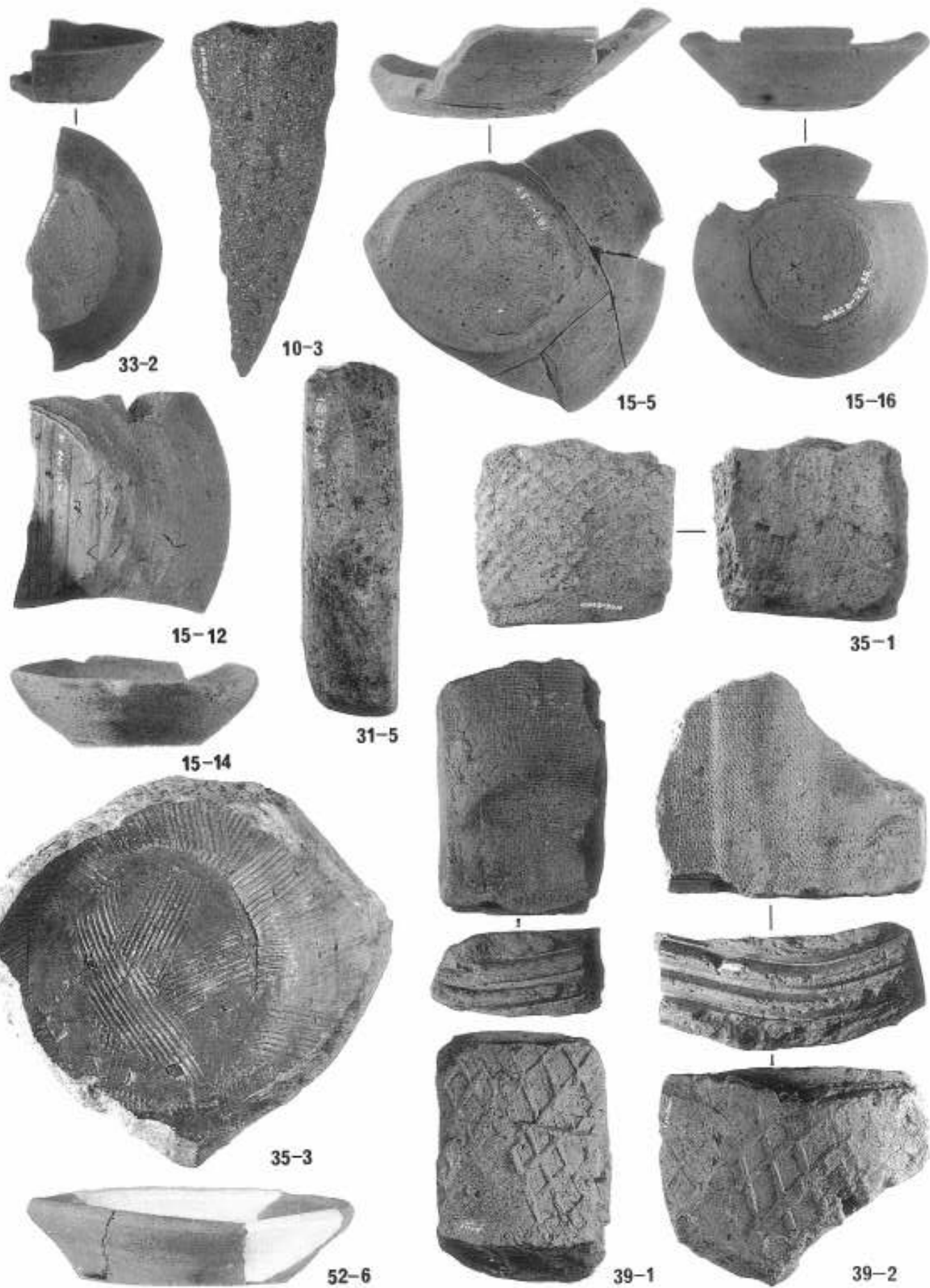


7. 137号土壤出土遗物



8. 147号土壤出土遗物

图版 4





33-1



43-4



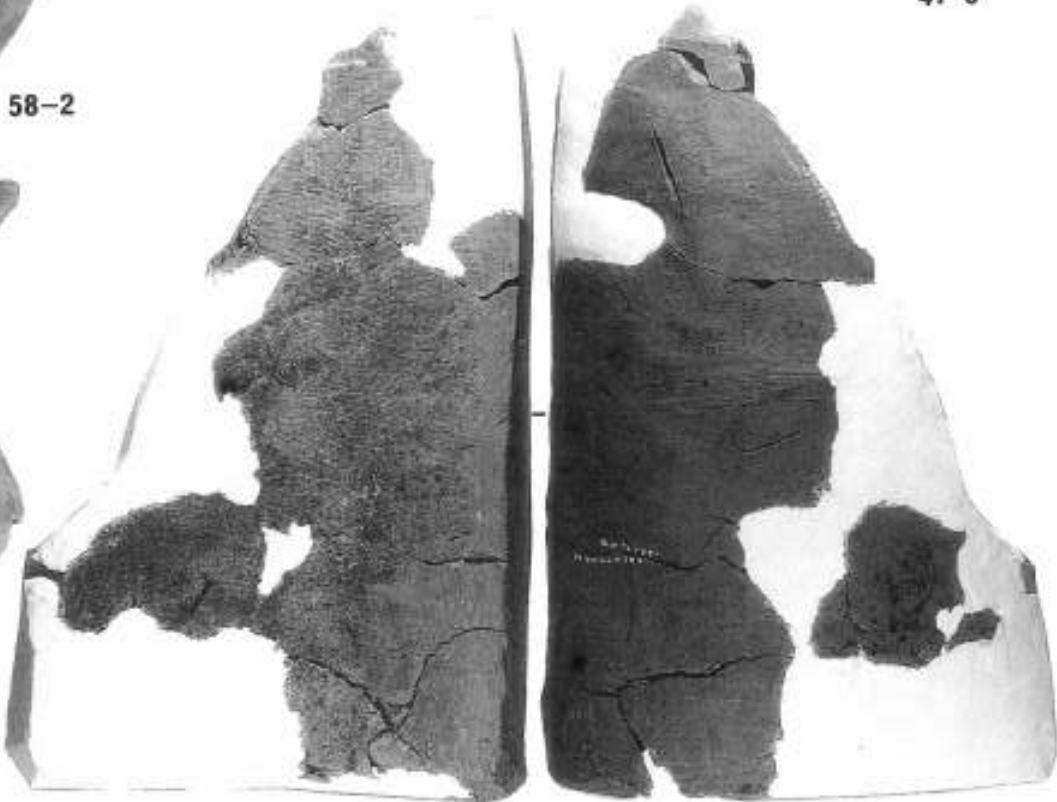
58-2



47-5



52-7



47-4



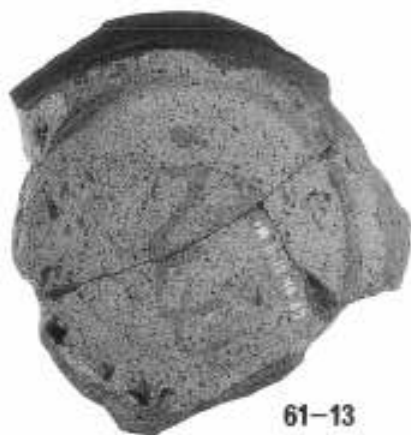
52-5



61-15



61-16



61-13



22-4



22-7



22-14



22-16



22-17



23-18



23-20



23-22



23-23



23-25



23-26



23-29



23-30



23-31



23-32



23-33



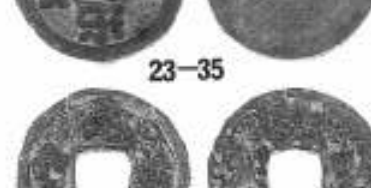
23-35



24-38



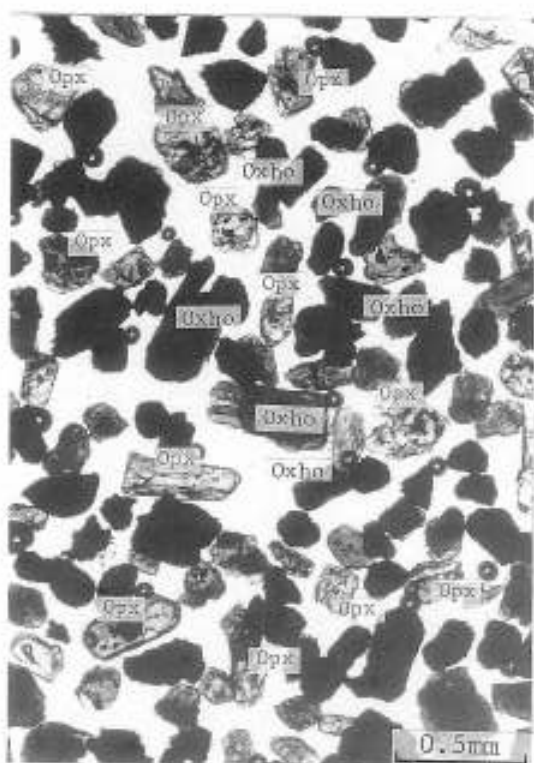
27-2



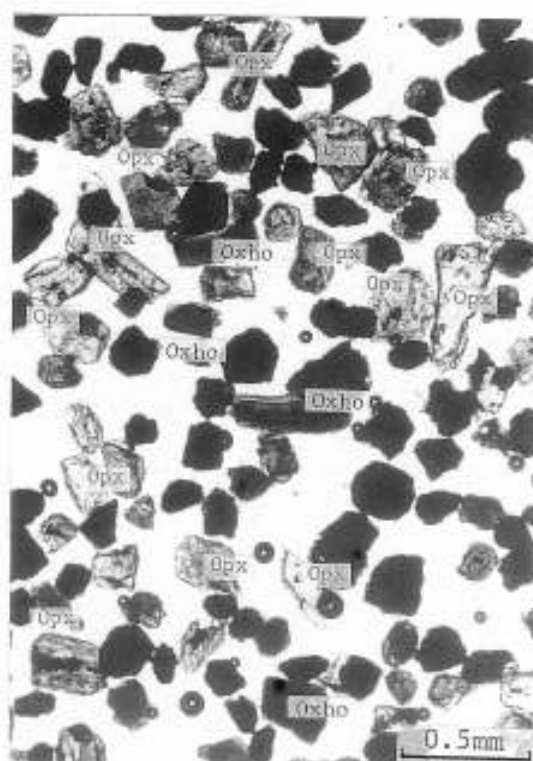
62-1



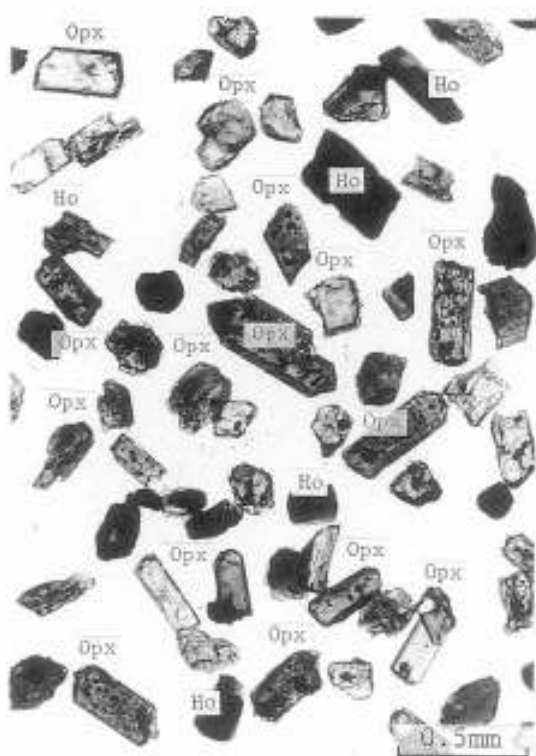
64-1



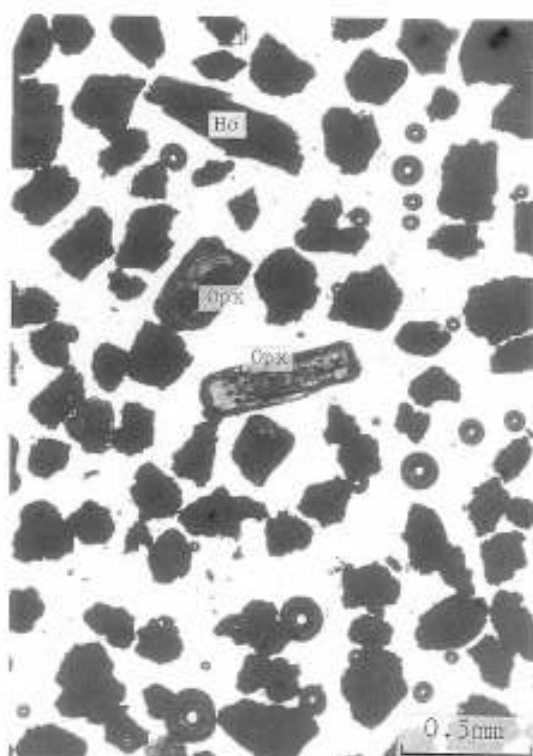
試料 1 の重鉱物



試料 2 の重鉱物



試料 3 の重鉱物



試料 4 の重鉱物

Opx: 斜方輝石, Ho: 角閃石, OxHo: 酸化角閃石

平成2年3月31日発行
平成元年度 熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西 方 遺 跡

編集発行 埼玉県熊谷市教育委員会
印刷 株式会社 博文社
